オトナアニメ
Otona Anime Vol.03
Vol.3
洋泉社MOOK
『鉄人28号 白昼の残月』劇場公開決定!
燃えよ!
今川泰宏の世界
『ミスター味っ子』
『Gガンダム』
『ジャイアントロボ』etc
音楽ライターが厳選!
今、聴きたい
ベストアニメソング
50
コードギアス
反逆のルルーシュ
灼眼のシャナ
キノの旅
いぬかみっ!
デスノート
銀色のオリンシス
きまぐれオレンジ☆ロード
ライオン丸G
石田敦子
水樹奈々／茅原実里
後藤邑子
ジョジョの
奇妙な冒険
30ページ
大特集ゥ!

Contents Vol.3

表紙：ジョジョの奇妙な冒険
ファントムブラッド

灼眼の
シャナ

ラノベアニメ劇場公開!

電撃まんがまつり!!

前号の特集で「ラノベアニメなんて中二病物件だろ?」というオトナな方々のお叱りと、
「心はいつも中二病」というオトナな方々のお褒めの言葉をいただきましたが、
今回も懲りずに紹介いたしますのは、
美少女ラブコメ×痛快娯楽アクションあり、
ノスタルジックな抒情とウィットあり、
オールドスクールで爽やかな下ネタもありの闇鍋……
もとい、豪華フルコースな劇場版三連発です!
それでは、本日のメニュー解説をどうぞ!

STORY

人の存在の力を喰う〝紅世の徒（ぐぜのともがら）〟と名乗るモンスターたちと、それを狩る集団「フレイムヘイズ」の、この世の裏側で行われている戦いに巻き込まれ、命を落としてしまった少年・坂井悠二。そのまま滅びを迎えるかと思っていた彼は、ある要因によって図らずも命を長らえることに。しかし、その結果として〝紅世の徒〟たちに狙われることになってしまう。死の原因となった戦いの中で悠二が出会った、『炎髪灼眼の討ち手』という呼び名を持つフレイムヘイズの少女は、そんな彼を守るため戦う。悠二は彼女を「シャナ」と名付け、共に戦うことと、今にも崩れ落ちそうな日常を繋ぎとめることを決意する……。

原作は現代を舞台に、少年少女の青春模様を描いた日常描写と、凝った世界設定に彩られた伝奇バトル描写が交錯するという、近年ラノベ界で一大潮流をなす作品群の端緒となったヒットシリーズ。アニメ版も丁寧な作りで、本劇場版はUHF放送作から初の劇場アニメになる。

——まず、いわゆるTVシリーズと劇場版の違いについてお話を伺いたいです。

渡部　今回はTVシリーズを踏襲しつつ、劇場作品としてクライマックスシーンの映えを最も意識して再構築しています。そこではいわゆる「たっぷり感」「ゆったり感」を出しています。TVは「テンポ感」「スピード感」重視だったので、まずそこが大きく違いますね。二つのスタイル間で整合性をとるのが非常に難しくて苦労しました。

——ストーリーラインで変えられたところはありますか？

渡部　今回劇場版でやるのはTVシリーズでいえば1話から6話にあたる話で、TVシリーズではあえてわかりやすくしていた敵役のフリアグネのキャラクターを結構深みを持たせたものに変えています。TV版では単なるイっちゃった人のようだったと思うのですが、劇場版では、深くものを考えてなおかつ自分の愛を追求する人物になっていますね。シャナ側から見ればとてつもない悪であっても、フリアグネの立場に立てばおおむね正しい、ひとつの生き様としてわかる、というものになっていると思います。

——視覚表現の面ではどうでしょう？

渡部　『シャナ』では「炎」が重要な表現で、

これすなわちシャナの情念と意思の表れである、ということになっているんですが、そうした象徴的な意味を持つ「炎」というものであれば、盛り上げるところでは大スケールに描かなければならない。しかし、テレビではどうしても制約があってやりきれなかったところもあったんです。そこは、せっかく大スクリーンで流れるものですし、強化しています。TVシリーズでは、先の展開もあったのでフリアグネ戦でニエトノノシャナの顕現をさせなかったのですが、劇場版では原作通りにやりますしね。

――全体のことを考え、伏線を盛り込んだりしていたTV版序盤に対して、今回の劇場版ではひとつの完結した作品として掘り下げていく、と。

渡部　そうですね。あくまでも原作の持っているベクトルに従って作品を掘り下げよう、と。TV版をやるときはやはりいろいろオカズが付くんですよね。そのオカズの要素を取り払って、映像の持っているスケール感と、その映像に則したセリフの展開で見せていこうというのが今回の劇場版です。

ライトノベルをアニメ化する方法論とは

劇場版 灼眼のシャナ
Shakugan no SHANA

渡部高志監督インタビュー

文・聞き手／前田久

――もともと「ライトノベル」という中高生向けの媒体の中でも低年齢層向けの原作を、若干対象年齢層を上げてアニメ化されたような感触がありました。そこはどうでしょう？

渡部　対象年齢層を意識したということは、実はあまりないんです。ただ作品の持っているフレーバーに準じたことをきっちりやろう、と思ったのでそう見えたかもしれません。しかし注意したのは、とにかく分かりやすくということです。特に感情の描写においては説明過多になる寸前までしゃべらせるという手法をとりました。それから、もともとの設定が非常に難解な作品なので、それも「三回しゃべる法則」というのを設定しまして、難しいことは適切な間隔を置いて三回しゃべらせる、と。

――監督が原作のフレーバー＝魅力のコアと思われた点はどこですか？

渡部　やっぱりどの作品も人間を描いてなんぼ、と思っているので、シャナという人間の外面と内面のかい離した状態がだんだん合致していくところに魅力を感じましたね。「この女の子は何者だろう？」と思わせたところから始めて、その謎がとけていく過程が、同時に読者がシャナという人間像をだんだん分かってくる過程に重なる。理解するというこ

とは、愛おしく思えてくるということと一緒だと思うんですが、それを巧みにやられているな、と。率直に言うと、この作品をやったことで、初めて「ツンデレ」という言葉を「つまりこういうことか」と実感できたんです（笑）。

――監督はこれまでもライトノベル原作のアニメーションを多数手がけられていますが、ライトノベルをアニメ化するということと、漫画など他の媒体のものをアニメ化することの間で方法論の違いはあるのでしょうか？

渡部　漫画はエモーショナルな情報が多いんですが、小説には、例えば「天候」や「気象」といったような、具体的な情報の量が圧倒的に多い。そこが違いますね。だから方法論というか、ライトノベルをアニメ化するときに重要なのは、小説を読んで自分の頭に浮かんだ映像が、多分スタンダードな解釈だろう、と信じることなんです。頭の中に浮かんだ、読後の、もしくは読中の映像の再現を頭の中で編集して、脚本の描いているシーンと、自分が原作読んだときのベースにあるイメージをどう合致していくか考える、という作り方ですね。そこのすり合わせではいつも苦しんでます。

――具体的にはどのような？

渡部　論理的に原作を分析して再構成するということは、あまりやっていないんですよ。あくまでも、原作を読んで自分の頭に浮かんでいる情景と、専門のうまいライターの方が書かれた脚本が切り取った風景と、原作のエッセンスとを、どう組み合わせて映像化するかというところで色々と試行錯誤をします。

――アクロバティックな感じがしますね。

渡部　うん。これは、成功するか、それとも失敗するか、やってみなきゃ分からないところです。で、これは、理論化できないところです。緻密に計算してやったからってそれがうまく行くとは限らない。となると、神の啓示を待って、ひたすら面白さの肝になるところが来るのを待つ。例えるなら、パズルの感覚に近いですね。ピタっとはまったら「あっ、できた」と。これがないと、ここはできてるんだけど、これとこれをはめても面白くないよな……とかいう状態になります。だから、自分の方法論は人に語る術を持たないというか。感覚で作って、それをあらためて自分から離したところに一度置いてみて「どうなん

だろう？」と検討することはしますが、作ってる最中には論理の計算はあまりやってないんです。

漫画は、極端なことを言えば、漫画のコマを参考にします。観客もそれを求めていると思うので。そこが違いですね。ライトノベルにも挿絵というのはありますけど。それこそ本文に書かれている、文章に書かれている情報のほうがずっとはるかに多いのでそこまで意識はしません。

劇場版のめざすもの

——今回の劇場版は、シャナの様々なメディア展開の中ではどういった位置づけになると思われますか？

渡部　今回は、劇場版を観た後、TVシリーズで続きを見ても、原作の続きを読んでもおかしくない、というようなニュアンスが強いかと思われます。やっぱり劇場は劇場として、ちゃんと完結させなければいけない、というのを意識しているので、とりあえず「シャナはここから始まったんだよ」というのが観せられればよいかなと。

——さらなるユーザーの拡大をしたい、と。

渡部　そうですね。その意味で、放っておくとどんどん真っ暗になってくる展開をエンターテインメントとしてしっかりやろうとして苦労しています（笑）せっかくの劇場ですし、やっぱり間尺が決まってる中でやるというときは、エンターテインメントのほうの色味を、ちょっと強めていかないと、というところもありますしね。原作では出てこないマージョリーを少し出したのもそのひとつで、同業者同士仲が悪いマージョリーが、落ち込んだ、へこんでしまったシャナに、どういったアドバイスを、図らずも与えてしまったかというか、与えたかという。それだけのやり取りの中でも、結構、マージョリーというキャラクターが立ったし、シャナのキャラクターも、同時に掘り下げられた。エンターティメント色は、結果的には非常に強いものになっていると思います。

——なるほど。それでは、今日はお忙しい中ありがとうございました。

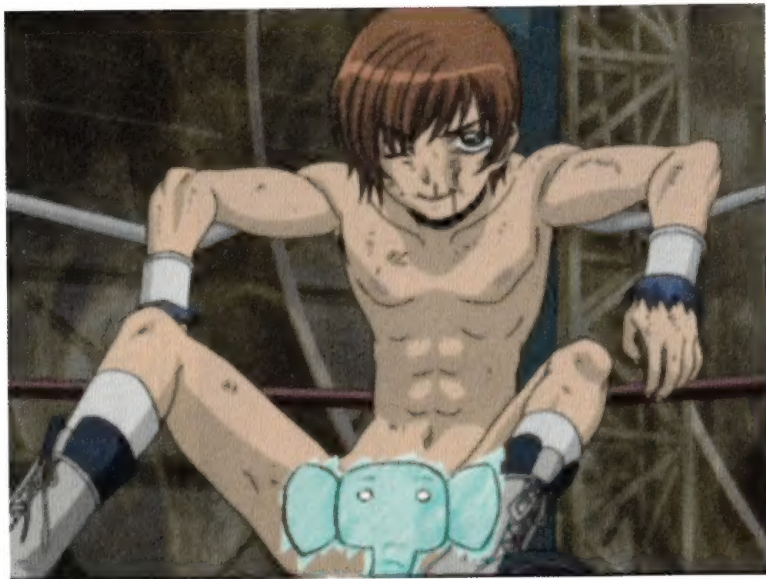
■profile
渡部高志（わたなべたかし）

北海道出身。代表作品『宇宙の海賊ミトの大冒険』（監督）、『一騎当千』（監督）『スレイヤーズ』（監督）『スターシップ・オペレーターズ』（監督）など。

STORY

巨大な犬の化生・犬神とともに、世の怪異と戦い続けてきた由緒正しき犬神使いの一族・川平家。その末裔でありながら、能力不足や問題のある素行などで勘当されていた高校生・川平啓太は、ある日「ようこ」と名乗る犬神と引き合わされる。

そのかわいさと従順な言動を気に入った啓太は彼女と契約を交わすが、実はようこは誰にもコントロールできなかった問題児。その本性を現したようこに振り回され、さらには特命霊的捜査官・仮名史郎の持ち込む事件や、様々な妖怪やヘンタイが引き起こすトラブルに巻き込まれて、騒々しい毎日を送ることに。

だが、そんな日々を重ねていくうちに心を通わせ、啓太とようこは次第に名コンビになっていく。それと呼応するように、かつて世界を震撼させた大魔導師・赤道斎や、強大な力を秘めた犬神達の宿敵・大妖狐も復活の兆しを見せ、従兄弟の優秀な犬神使い・薫も謎めいた動きを見せ始める……啓太とようこは、周囲に迫る危機を無事に乗り越えられるのか!?

劇場版は謎とヘンタイのぐんずほつれつ？

――このインタビューの時点では、劇場版の内容はまったくわかっていないのですが、どのようなストーリーなのでしょう？

草川　今回の劇場版は、冒頭で仮名が死んでいるところから始まって、「なんで死んだのか？」「本当に死んでるのか？」っていう一種の謎解き的な展開がありつつ、ヘンタイさんがいっぱい絡んできて大活躍という感じの、完全新作エピソードです。

――劇場版はＴＶシリーズでの時間軸的にはどこに位置する話なんでしょう？

草川　だいたい第11～12話の間ぐらいかなという気はしてます。だから啓太のアパートは壊れてなくって、そこで宴会やってたりします。薫の犬神や主要なキャラは全員登場します。残念ながら河原崎や赤道斎は出ないですけどね。

――劇場版オリジナルのゲストキャラは出てきますか？

草川　新しいヘンタイさんはいっぱい出てきますが、新キャラ扱いじゃなくてモブ扱い。そんなヘンタイさんたちが色んなアニメキャラのコスプレしてたりとかしてます。あと、

映画のパロディを随所に散りばめてあるので、気づく人は気づくみたいな感じで、細かいところで遊んでます。このへんはもう、作画さんのノリに任せてる部分なので。一応コンテでイメージは描いてあるんですけど、その通りになってくるかどうかは分からない。ひとつだけばらすと……『灼眼の●ャナ』の格好したヘンタイも出ます(笑)。

「美少女」よりも「ヘンタイ」と「ゾウさん」!?

——監督なりに考える『いぬかみっ！』の魅力は？

草川　普通だと女の子が活躍する「萌え系」アニメになるところに、「ヘンタイ」というミスマッチが加わって、ちょっと違うテイストのものになったあたりが面白いかなと。昔はこういうアニメが結構あった気もするんですけど、最近なかったので。

——放送時の反響を見ていても、みんな女の子より「ヘンタイ」や「ゾウさん」を面白がっていましたよね。

草川　最初はおっかなびっくりで「こんなことやっていいんだろうか？」みたいなところがあったんですけど、割とウケてたので「あぁ、これでよかったんだ」って。

©有沢まみず・メディアワークス／劇場版犬神使い派遣協会

草川啓造監督インタビュー

文・聞き手／石黒直樹

——第13話でも、シリアスな戦いのまっただ中にパンツを降ろしてゾウさんっていうのもいい感じでした。

草川　あそこは原作でもあるとこなんですけど、外見上は格好悪いことをしているようでも、それが「かっこいいよね」っていう……そういう部分は劇場版でも入れているつもりです。ヘンタイなんだけどちょっとかっこいいんじゃないか。変な格好してるけど根はいいやつだよ、みんなって。

——劇場版でもそこは見所ですか？

草川　そうですね。コンテ上で意図したものは描いてるんですけど、作画でどんどん変わっていくかもしれないし、みたいな。そういうハプニング的なところを期待してはいるんですよ。

——放映局がテレビ東京ということで、規制がきつかったと思うのですが、「ヘンタイ」「ゾウさん」は大丈夫でしたか？

草川　女性キャラに関しては厳しいですが、「ゾウさん」については別になかったですね。男の裸は大丈夫なんです。内容自体はけっこうチャレンジではあったんですよ。女装とかもしてるし「大丈夫なのか？」みたいな。まぁ担当の方が頑張っていただいたんだと思うんですけどね。

作画の勢いをキャラの魅力に活かす「いぬかみっ！」

——シリーズのターニングポイントになったのは、死神との戦いを描いた12～13話の前後編ですか。原作でもそうだったんですけど、啓太はかなりバカでスケベだけど、いつもポジティブで勢いのある、魅力的な面を持っているという感じで描かれていて。アニメでもこのあたりからそういう面が出てきましたよね。

草川　第12～13話でシリアス話をやって。それからだんだんシリアス路線を入れつつもギャグも入って、みたいな。で、最後はシリアスで締めるっていう構成は最初からあったんで。それでも、毎回志向を変えて飽きがこないようにって。そこらは玉井さんの構成がうまかったから。

——最終回近辺で、彼の窮地を妖怪やヘンタイさんたちが集まって救うあたり、啓太の人徳が結局最後の最後で大爆発ってカタルシスがありましたが。

草川　相手を選ばないというか、それが妖怪であろうとヘンタイであろうと同列に扱うところが啓太の魅力なんでしょうね。

——啓太のポジティブさも含めて、キャラの勢いを生んでいた要因には、絵的に崩すことを恐れずにどんどん動かしていく画面作りもあると思うんですけれども。最近のアニメはキャラ表に合わせてきれいにまとめる方向ですが、『いぬかみっ！』の場合はちょっとぐらい崩れても勢いで持っていくものを感じたんですが。

草川　そうですね。動かすと結局枚数がかかるでしょう？　経済的な理由もあるんですが、全部修正を入れていくのは困難になってくるので、作画さんの味を生かした形でオンエアしちゃうっていうことはよくあるんで。だから、動いていれば気にならない。多少絵柄が違うようなのが入ってきても気にならない。動いてないと気になっちゃうんですよ。そういう意味では、今おっしゃられたことは演出というか、仕事量としてそうなってるというところも結構多いかな。

ネタの神が降臨した宗家のキャスティング

——『いぬかみっ！』という作品のカラーのひとつに、80～90年代ぐらいのアニメのパロディやオマージュ的な演出がありますが、やはり監督自身がその頃のアニメへの思い入れが強いのでしょうか？

草川　そのころ見ていた色々なアニメが懐かしいって感覚でやってるというか。あの頃の……活気のあったころのアニメを想定してやってるところはあります。

——今の萌え系アニメみたいな作品も一応盛り上がってますが、あのころ見ていたアニメとはやはり違いますか？

草川　違うというか、昔のアニメの方がよく動いてたという気がします。なんであんなに動かして（作画枚数や予算は）大丈夫だったんだろうか？　最近のアニメはアップや止まってるのが多くてつまんないな、って。

——サブレギュラーの河原崎が、アニメ版『うる星やつら』のメガネのオマージュというか、ほとんどそのまんま登場しましたが、あれは大丈夫だったんですか？

草川　最初はノリであああいうキャラ表になってしまったんですけど、あとで非常にやばいかも、みたいには思いました(笑)。一応、高橋留美子先生に確認をとったりとかはしていただいて、一応大丈夫ということで。声もオリジナルの千葉繁さんにお願いしたら「まんま、メガネじゃねぇか」みたいなことはおっしゃってましたけどね。

あの素晴らしき時代をもう一度！

——今のアニメのノリと、昔の活気があったころのノリの融合が『いぬかみっ！』の魅力を作っていたと思うんですけど、そこらへんは監督と脚本・構成の玉井☆豪さんで作り上げていったのでしょうか？

草川　そうですね。毎回4～5人で集まりまして、自分と玉井さん、原作の有沢さん、プロデューサーの中西さん、電撃文庫の佐藤さん。みんなで笑いながら「こんなネタ面白いかな」って、ミーティングを重ねて。

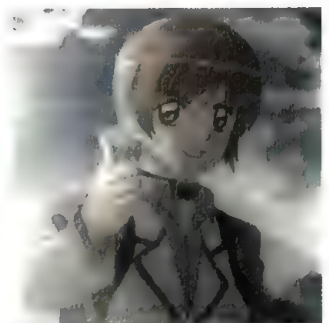
——やっぱり、みんな世代的に同じような感じなんですか？

草川　割と年はそこそこ近い方（20代後半～30代）が多かったので。有沢さんは『うる星やつら』の大ファンだったりするので、ノリとしては近いものがあった。

——これも放送時に大反響でしたが、第18話の男バージョンのエンディングも、そんなノリから？

草川　ウチの社長の上村が「全部男にしたら面白いね」って冗談で言ったんです。そうしたら「じゃあやろうか」って話になって、本当にやってしまったんです。

——そんな風に作ってきたTV版の中で、監督的に思い入れがあるエピソードは？

草川　自分でコンテも手がけた第20話「白布に想いをっ！」ですね。製作時期が少し『なのはA's』とかぶってたんでコンテが描けなくて、やっと自分でコンテ描けた回なんです。有沢さんの脚本も面白くて、「ぜひ自分でやりたい」といって描いたんで一番思い入れがあります。

——今回の反響次第では、またTVなどで新作をという可能性はありますか？

草川　そのへんはまだ話はないですね。気持ちとしてはやりたいです。原作のほうも続いてますんで。原作でもアニメにしたら面白そうなエピソードが残ってますし。

■profile
草川啓造（くさかわけいぞう）

『しましまとらのしまじろう』の演出から始まり、『魔法少女リリカルなのは』や『魔法少女リリカルなのはA's』など監督作品多数。TV版『いぬかみっ!』から、劇場版でもそのまま監督を務めている。

STORY

「パースエイダー」（銃器を指す）を携えた人間・キノと、意志を持ち人語を解するバギー・エルメスのコンビによる旅を描いたオムニバス・シリーズ。

劇場版では、内部は過剰なまでに衛生的だが、一歩外に出れば「開拓地」と呼ばれる荒野が広がっているという二面性を抱えた国が舞台。難病で長期療養中の少女に出会ったキノは、彼女のたっての願いで、彼女の文通相手で、「開拓地」で生きることを目指す少年の様子を探ることになる。そこに表面的には美しいこの国の暗い秘密が存在しているとは想像すらせずに……。

原作は、小～中学生を中心に絶大な支持を誇っている、電撃文庫の看板ロングセラー・シリーズ。6年間に渡り、計10巻（番外編含む）の文庫が刊行され、ゲームや絵本、その他メディアミックスもこれまで多数展開されている。アニメーションの企画もTV版から今回の劇場版も含めて3度目になる。

――TVシリーズから考えて『キノの旅』との付き合いももう4年目と、かなりの長さに突入されましたよね。そこでまずは、『ｌａｉｎ』のように特異な現代ものから『グスコーブドリの伝記』などの宮沢賢治ものまで含む監督の多岐に渡る作品群の中で、本作の位置付けはどのようなところにあるのかを伺いたいと思います。

中村　『キノの旅』は「小説が原作」という、ぼくの好きなカテゴリーのひとつにある作品です。ただ「ライトノベルズ系」というのは、ぼくの生活の中にはない部分なので、手掛けることには苦しみも楽しみもありました。

――やはりマンガ原作のものやゲーム原作のものと小説とではアニメ化する方法論が違うものでしょうか？

中村　方法論は媒体では変わりません。絵の持って行き方――ある程度デザインのラインは決まっていたりもするけど――や美術のスタイル、音響イメージ等々、その作品にあったものを考えて決めていくだけですよ。

――それでは『キノの旅』ではどのような点に気をつけていらっしゃいますか？　寓話的で行間を読み込んでいくことが必要な原作だと思いますが……。

中村　そうですね、実は自分としては「寓話」

ということで投げっぱなし……のようにするのはものすごく苦しくてイヤなのですが、お話的に避けられない場合もあります。ですから、そのようなときは、絵作りでいろいろ工夫して寓意性を感じられるようにはしているつもりです。注意していることをあえて言うなら、すべての行程で語り過ぎないことでしょうか。

劇場版ならではのこだわりを

――今回「劇場版」ということで、意識的にTVシリーズと演出や画面構成などで変化を加えられたところはありますか？

中村　TVシリーズはどうしてもスケジュール的な苦労が多いので、毎回のストーリーのエッセンスみたいなものが一番効果的にあらわれる方向性であることを重視していたのですが、今回は劇場版ということで、もっと映画的なシブイ工夫をしています。映画をやるんですから、演出も画面の作り方も「映画的」でありたかったんです。

――今回の映画は、原作の時雨沢恵一氏のリクエストで「病気の国」（原作第五巻収録）が下敷きになるということで、かなり重たい展開になるのではないかと思うのですが、ストーリーのみどころはどんなところでしょう？

中村　『キノの旅』はいつも「かなり重たい」ですよ(苦笑)。ストーリー上のみどころは、原作小説と同じ、数を絞り込まれた登場人物たちの気持ちの絡み……と言っておきましょう。

――「衛生的な都市／荒れた開拓地」という対称的な舞台が登場するストーリーなので、画面の調整には大変な苦労があったのではないかと思うのですが。

中村　そういった描き分けをどうするか、というのは苦労というより「やりがい」と僕は考えています。美術や色彩設定の工夫は映画のみどころですので。あとは絶対音響デザインは、ドラマ以上に「世界観」を出すのに重要な要素ですのでこだわっています。

――演出・構成面でいうと、超越的に美しいものと、それに隠された忌むべき部分が紙一重で混在している作品なので、その微妙なさじ加減でも苦労が多いと思うのですが。

中村　それはもう、とにかく全体を通して苦労していますね。どうしても自分の中に入ってこなかったり、抵抗する気持ちが蠢いていたり……。

――そういう時にはどのように解決を？

劇場版 キノの旅 the Beautiful World

病気の国 —For You—

中村 隆太郎監督インタビュー

文・聞き手／前田久

中村　他のスタッフと話しまくります。そうして自分がその気になるのを待ちます。気持ちがなれば、方法論は自ずと出てきますから……。「待つ」ことは楽しい作業です。

――中村監督の作品といえば、宗教的な色彩も混じるような、精神世界的な描写の巧みさでファンに知られていますが今回はその点は……。

中村　ほんとですかぁ？（苦笑）。そんなこと言われたことないですが……。

――（笑）となると、あまりご本人としてはその表現のルーツであるとかは意識されていない？

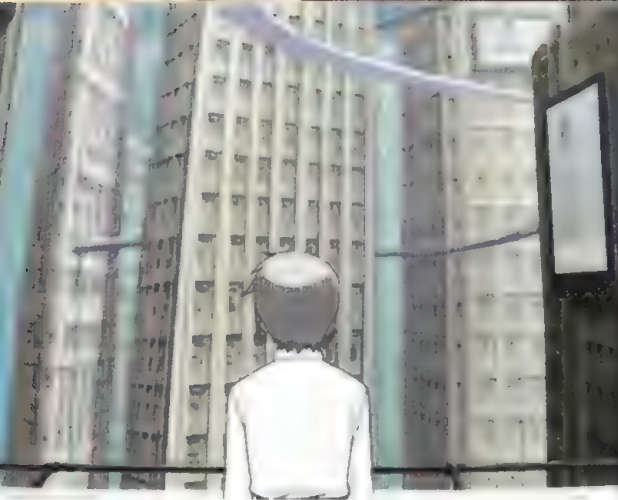
中村　作品を作るという行為自体が、裸で人前に立ってることそのものですから精神世界的なものが出てきやすいとは思うんですけどね。でも、もちろん、他のスタッフの影響も受けてるし、ぼくだけのルーツ――そんなものがあるとして――と直接的に関係してるとも思えません。

オトナたちへのメッセージ

――それでは最後に、本誌の読者層は若干原作の対象年齢より上で、原作に触れていない、もしくはちょっと食わず嫌いをしている読者

も多いと思うのです。なので、監督から「原作の魅力」「作品のコア」だと思うところをご紹介願えれば。

中村　そうですね……ちょっぴり形而上的、ってところでしょうか？　自信ないですが（苦笑）。ぼくは、ひとつの作品を鑑賞したり作ったりするときに、対象年齢というのをあまり考えていないのです。ですから、この作品もひとつのアニメーション作品としてみて貰えたらなぁ……と願います。寓意性とかが少し鼻に付く方々も、登場人物たちの立ち位置と気持ちのあり方、揺れ方とかを気にしてくださったら、幸福ですね。

――なるほど。本日はどうもありがとうございました。

■profile

中村隆太郎（なかむらりゅうたろう）

マッドハウス在籍後、1086年にフリーに。1994年『グスコーブドリの伝記』で監督デビュー。『serial experiments lain』で脚光を浴びる。2003年の『キノの旅』TVシリーズの監督を務め、劇場版も監督に就任。

TVアニメ「爆裂天使」のアナザーストーリーが
遂にOVAとなって登場!!

07.03.23(fri) ON SALE

■ 豪華60Pブックレット
■ 白亜右月描き下ろし特製DVD-BOX
■ ピクチャーレーベル

発売元：IMAGICAイメージワークス　販売元：メディアファクトリー／GDH

詳しい情報はこちら　http://www.bakuten.net/

ついに僕らのジョジョが劇場版として公開される！それもジョジョの奇妙な冒険の始まりである、ジョナサン・ジョースターとディオ・ブランドーの因縁なのだ。当然波紋も出てくるので、皆さん燃え尽きるほどヒートしちゃってください！貧弱貧弱貧弱ゥゥゥ！！

「君が、ディオ・ブランドーだね」

森に囲まれた広大な邸宅。玄関で来客を迎え、好意で出された少年ジョジョの手をディオは一瞥するだけで、無視。そして荷物をくわえて持とうとした猟犬を蹴り上げる。

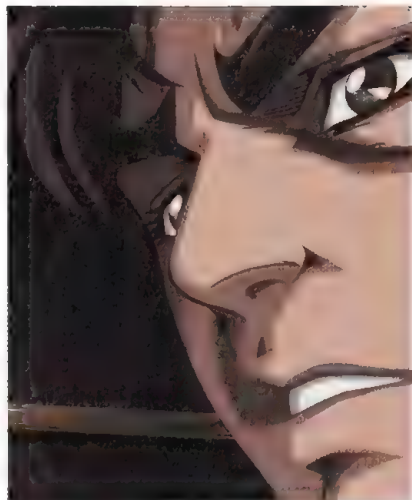
「な、何をするんだ！」

時は1881年 前世紀に産業革命を起こしたもののそれは貧富の差を強くし、さらにはドイツ・アメリカからの追い上げも厳しく、より深い影を地に落としてしまった19世紀末のイギリス。かの地でジョジョとディオ、2人の少年が運命の出会いを果たす。表向きの友情、拭いきれぬ不信感。紳士になるべく疑うことを知らず健やかに育てられた少年と、擁護された立場を利用して成りあがろうとする嵐のような渇きを持った少年は、世界に君臨できる力を持つ石仮面を挟み、『ジョジョの奇妙な冒険』のファーストシリーズ、「ファントム ブラッド」のストーリーを鮮やかに、そして悲しくも紡いでいく。

巨大タイトルがついに映画化

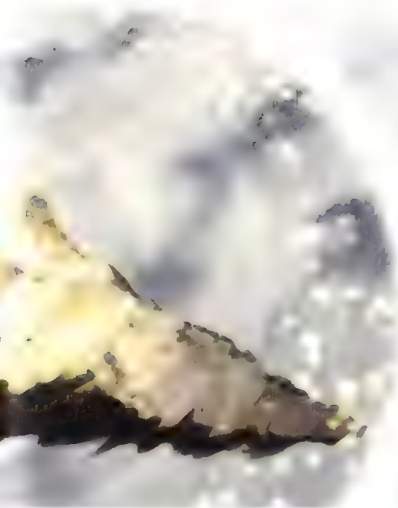
『ジョジョの奇妙な冒険』を知らない読者はいないだろう 20年もの長寿連載でコミックの累計発行部数は7000万部。現在も第七部にあたる『STEEL BALL RUN』を「ウルトラジャンプ」誌にて好評連載中。そして「荒木ワールド」と称される、原作者・荒木氏の作り出す独得の世界観、緻密な絵柄、ほかに類を見ない台詞回しや擬音の数々は、多くのアーティスト、クリエイターに多大な影響を与え続けている。

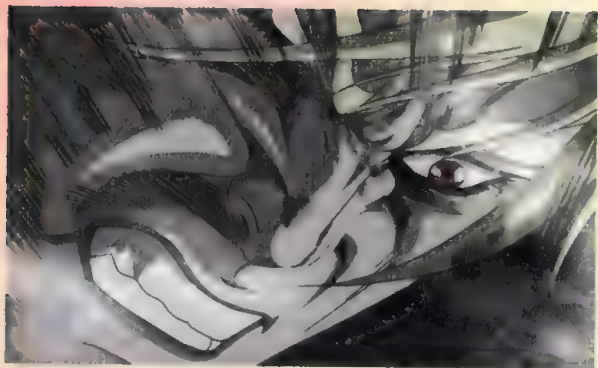
本作品は荒木飛呂彦執筆25周年特別プロジェクトの一環として製作され、2007年2月17日に全国の劇場にて公開される。人間と、人間以外のものとが「生きる」ことをぶつけ合う、1987年に少年ジャンプ誌上で連載開始された原作を新たな解釈で練り直し、少年から青年へと、人間からそれを超越する者へと育っていく彼らの因縁を意識した物語に仕上がっている。

もちろん、元祖スタイリッシュコミックである原作のビジュアルはふんだんに生かされている 監督・キャラクターデザイン・総作画監督を羽山淳一氏が担当 大人気原作を組みなおすプレッシャーは重かっただろうが、本作では期待に応えてくれている。荒木飛呂彦氏による原作の数多くの名シーンが映画

館の大スクリーンで楽しめるのだ。ジョジョマニアならずとも興味のあるところだろう。
「貧弱貧弱貧弱ゥゥゥー」「震えるぞハート！　燃え尽きるほどヒート！」などのロケットで突き抜けたかのようなセリフも、小西克幸（ジョナサン・ジョースター）と緑川光（ディオ・ブランドー）のコンビで昇華。まさに21世紀のファースト・ジョジョと言っていい仕上がりになっている。

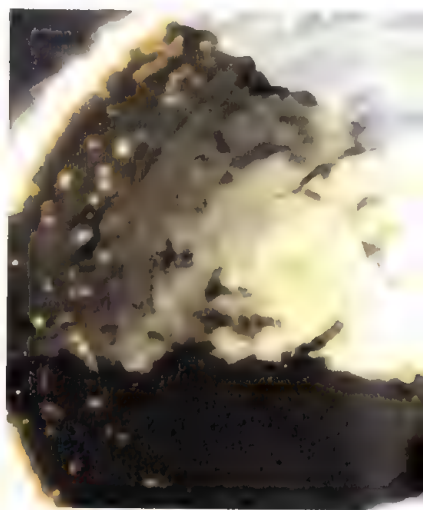
石仮面によって狂った二人の人生

　前半でスクリーンに映し出される、ディオがジョジョを疎み、周囲の仲間を扇動しながら苛めるシーンは痛々しい。ジョジョには愛犬のダニーと、お互い気持ちを寄せ合っていた少女・エリナがいたが、その宝物ですらディオは汚し、奪っていく。初めて怒りを拳に乗せ、ディオを圧倒するジョジョ。しかし厳格な父・ジョースター卿は、ジョジョのみを咎めるのだった。紳士として恥ずべき行為はするな……父から言われた紳士としての振る舞いにこだわり、ジョジョはディオの悪さを父親に伝える術を失ってしまう。結果、ジョースター卿は、ディオの悪意によって身体を壊してしまう。

　そして、そのシーンに登場するのが石仮面だ。物語手前にディオとジョースター卿が石仮面について語るシーンがあるが、ディオにとってただの不気味な仮面としてしか捉えられていなかった。自分の父とジョースター卿が出会うきっかけとなったと耳にしても、石仮面を見るディオの目に、興味の色はない。
　しかしジョジョとの諍いの中で、ディオの返り血がついた途端、石仮面から尖った骨針が飛び出す。もしも石仮面を人間の顔につけていたとしたら、側頭部または後頭部に深く骨針が食い込んでしまう……。目を奪われるジョジョ、そしてディオ。彼らの意識に石仮面は深く刷り込まれ、ジョジョは考古学的見地から研究材料とし、ディオは暗殺用の道具として使おうと思ってしまう。
　ところが実験として、街中で酔っ払いに対して石仮面を使ったディオは、石仮面の本当

の秘密を垣間見る。石仮面の真実の力を知ったディオは、ジョジョや警官に追い詰められ、ついに自ら石仮面を被ってしまう……。

物語はここから急展開を迎える。父の死を背負い、ナイフを片手に石仮面の力で不死身となったディオに無謀な戦いを挑むジョジョ、そこに「ファントム ブラッド」のキーマンと言えるツェペリが助けに入る。

登場させられなかった脇役たち

実は石仮面の発掘者であり、ジョジョの師匠となり石仮面に対抗する唯一の力、波紋を伝えるツェペリ。映画版では彼の姿が強くクローズアップされている。眠り続けていた石仮面の力を起こしてしまった者の苦悩、そして予言された死の未来。しかしジョジョという光明を見つけ、ツェペリが自分の力と意思を受け継がせるシーンでは誰しも涙することだろう。

ただしファンには残念なことだが、スピードワゴンなど、後半に登場するキャラクターの出番は省かれている。黒騎士ブラフォードとタルカスなどに関してはわからなくもないが、第二部以降も重要な役割を果たすスピードワゴンのシーンがすべてカットされているのは残念だ。しかし90分という制限のなか、コミック5巻分ものストーリーを収めるためには仕方のないところだろう。むしろ、キャラクターを出しすぎて破綻してしまう数々の映画より潔くまとめられている。

ジョジョは常に努力を惜しまず空を見上げ、ディオは有り余る才能をもって地を見下す。対象的な2人の主人公のドラマのテーマは「人間賛歌」。エンドロールが流れるとき、あなたもそのメッセージを強く受け止めるだろう。

「ポージング」はファンタジーとリアリティの境目

——第一部『ファントムブラッド』がアニメ化が決まって、ご感想は？

荒木　第3部の後半がOVAになったとき（1993〜1994年）、製作者の人が「（第一部の）ディオを描いてないので、脚本が作りにくい。これが完成したら、第一部も作ろうか」という話があったんです。で、（第一部の連載）当時のファンが支持してくれて実現して、ああ、描いてて良かったなって。

——「ここはこうしてください」というような要望は出されたんですか？

荒木　「こうじゃなきゃイヤだ」みたいなのは全くないです。訊かれたら、言いますけどね。基本的には「自分の娘を嫁にやるような気持ち」でして、任せたからには口は出さずに、ひたすら作品の幸せを願ってますね

——第一部のアニメ化を見て、どうでした？

荒木　やはりアニメは、その製作者の作品ですから、その個性として見てます。

——第一部の絵柄は「筋肉」が強調されているようでしたね

荒木　そうですね。今は陰影法や、ムードに力を入れてるのかな。それも、時代性だとは思いますね　あの頃はシュワルツェネッガーやスタローンが映画に出ていたから「やっぱ主人公はこういう感じなのか」って。で、だんだんスマートになって。特に（第五部の）ジョルノのときに「小さくなったね」ってみんなに言われたんですよね。

——やはり絵柄は意識して変えているのでしょうか？

荒木　絵を固定したくない、"そこ"にいたくないタイプなんですよ。昔の絵柄はけっこう捨てるのが早いですかね。だから、例えば「第一部のジョナサンを描いてください」ってお願いされるのが辛いんですよ。自分で模写している感じで、なんか似てないなぁ、と。

——先生独自の作風としてはポージング、いわゆる「ジョジョ立ち」がありますよね　あれは、「イタリア旅行」でミケランジェロの彫刻を見たのがきっかけ、と聞きましたが？

荒木　そうですね。向こうの彫刻や絵画って、ねじって立ってたりするんですよね。それがすごく新鮮な感じで、強調してみたんですよ。とにかく、あり得ないポーズで立たせるのが目的なんです。そこがファンタジーとリアリティの境目なので、みんなが実際にやろうとするのはおかしいんですよ（笑）。

——出来ないように描いていると（笑）　第二部や第五部の主な舞台がイタリアというのも、その旅行が原点ですか？

荒木　ええ、たまたま編集者が「イタリア行こう」とか、「エジプト行こう」というから行ったら「じゃあディオはここに住んでることにしよう」という感じになるんですよね。その当時の編集者の影響が、すごい大きいんですよ。

■profile

荒木飛呂彦（あらき ひろひこ）

手塚賞（集英社）で準入選した『武装ポーカー』で「週刊少年ジャンプ」デビュー。1986年末から長期にわたって連載を続けている『ジョジョの奇妙な冒険』。現在、Part7の『スティール・ボール・ラン』がウルトラジャンプで連載中。

——特にイタリアへの思い入れが強かったように感じます。

荒木　なんかね、テーブルのセッティングひとつにしても面白いと思ったんですよ。飾ってる花や、オリーブオイルの瓶や、黒いスパゲッティとか、見たことないものばかりで、超カルチャーショックで。最初の刷り込み体験なんですよね。

「ジョジョ」ファンの審美眼に耐えるアニメ化を

——第一部はディオが吸血鬼になってからガラッと方向が変わった印象ですが、最初から「波紋戦士」の構想はあったんですか？

荒木　そうですね。子供の頃、けっこう謎があったんですよ。ネス湖のネッシーや、UFOとか。その中で、超能力というのは、すごいロマンに満ち溢れていたんですよね。横山光輝先生が『バビル2世』という漫画で、その超能力をテーマにしたんですが、電気のような見えない力として描いていたわけですよ。じゃあ、「超能力を絵にするというのはどういうことなのか？」と、ずっと考えていて。それで「波のように伝わっていく」とイメージから始まったんですよ。そうすると、そこにルールも生まれてくるし、距離感も分かるし。

——科学的な説明によって、超能力を表現したらこうなるという

荒木　うん、ちょっと理論的に何か欲しいんだよね。根性だけで勝つのがあんまり好きじゃない（笑）。

——ジョースター家の血統が受け継がれる、という構想も初めから？

荒木　うん。『エデンの東』という、親子何代かに渡って、お母さんが犯した罪を、子孫が償うような映画や小説があるんですよね。代を追うごとに、全部違う人間なんだけど、因縁や血統で繋がってるというのが描きたかったんですよね。だから「人気ない」って辞めさせられたらどうしようと思ったけど（笑）。

——じゃあ、ディオは200年ぐらい生きさせる予定だった？

荒木　ええ、1回沈んだりするけど、復活してくるという。「（ディオがジョナサンの）肉体を乗っ取る」のも考えていたと思うんです。第三部も、波紋で行くつもりだったけど、もっと（超能力を）絵にしたいなっていう願いから、「スタンド」になったんですね。

——そういう大河ドラマって、漫画ではあんまりなかったタイプですよね

荒木　70年代や80年代って、同じような漫画を描いていると、むちゃくちゃに言われたんですよ。だから他の人とは違う分野を突き進まないといけない（笑）。でも、当時のセオリーとして「外人の主人公は絶対やめろよ」「舞台を外国にするなよ」って言われるんですよ。

——真っ向から逆らったんですか（笑）編集部に構想を出したとき、ストップはかかりませんでしたか？

荒木　その前の『魔少年ビーティー』にはかかりましたね。まず『魔少年』というタイトルが駄目なだと。よこしまな雰囲気もあって、「これは絶対やめろ」って反対されて。でも、当時の担当編集者が味方してくれたんです。

——やはりディオのキャラクターも、『魔少年ビーティー』から？

荒木　ああ、延長線上にあると思います。

――今だったら、どちらも時代にフィットしますよね

荒木　かもしれないですね。あの頃は、シリアルキラーの実録物も、本屋の奥の方にひっそりあった。ああいうのにすごく興味があったんですよ。なんで快楽のために人を殺すのか？　そういう謎が、ロマンなんですよね。

――荒木先生にとっては、切り裂きジャックもロマンでしたか？

荒木　ロマンですね。大体、漫画でも音楽でも「なんでこうなるの？」というのがけっこうあって。プログレッシブロックに多いんですけど。チューブラ・ベルズとか、何の知識もなく聴くとね、すごいショックですよ。

――今の仕事場には、約3000枚ものCDがあるって話ですよね

荒木　ああ、ありますよ。何でも、どの分野でも聴くんですよ。

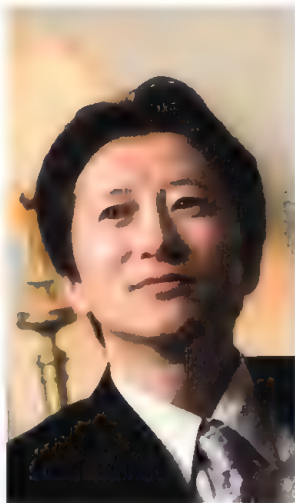
――キャラクターの名前やスタンド名も、音楽にちなんでますよね？

荒木　そういうものもありますね。でも、名前の意味と、スタンドのイメージがオーバーラップするようにはしてますけど。

――「ズキューン！」や「ゴゴゴゴ……」などの擬音も、やはり音楽から？

荒木　うん。漫画を描くときのテンポも、ビートを刻んでいるように、トントントンと行って、ドンッ！とかね。こうめくったら、とって、計算してコマ割りをしてるんで、週刊でやるのは大変でしたよ。リズムが合わなくて、「あと1ページしかない！」みたいな。

――コマ割りもそうですし、セリフもビートを刻んでますよね

荒木　そう、リズム感を重視してるんじゃないですかね。アニメも、そうなってるといいですね。声優さんたちも、休憩時間にも「ウワァー　ハァァー」とか発声練習しているらしくて。気合い入れてくれてるみたいです。ディオ役の緑川（光）さん、顔もディオにちょっと似てきてるんくらいなんで（笑）。

――ディオといえば、「ウリィィィ！」はどこから？

荒木　もう忘れたなあ。多分、巻き舌で「アルルル」ってやってるんです。「（血を）吸いてえ！」みたいな。「ウリリリィ」って。

――作者ご本人が実演！（笑）第一部はそういう超人だけでなく、特にジョジョやディオの生い立ちに重きが置かれていましたよね

荒木　うん、あらゆる物語で、作家は主人公のお父さんを絶対知ってなきゃいけない、と思ってるんですよ。どんな性格の人物に、どういう育てられ方したのかな？　って考えてから、主人公を描くんですよ。

――ディオのお父さんはディオより性格が悪そうですよね（笑）

荒木　そうそう。こんな悪いヤツいないだろうって。お昼の1時半頃にやってるようなテレビドラマが大好きで、DVDも集めてますしね。ああいうドロドロした、人間の本能が完全に描かれているという感じがいいんです。

――では最後になりますが、今回の映画について、お客さんに期待してもらいたいポイントを教えていただけますか？

荒木　叫び声や台詞の言い回し、ポーズもありますが、やはり30歳を過ぎた人たちも見たりするわけだから、その方たちの審美眼に耐えられる作品になってれば、本当にうれしいですね。

――本日は有り難うございました

文／結城昌弘　写真／四宮 義博

――『ジョジョの奇妙な冒険』の第一印象はどうでしたか？　絵柄などかなり特徴的ですが。

水樹　すっごくかっこよくってワイルドだなって思ってました。

――全員ワイルドですね。

水樹　ワイルドな男祭（笑）。なんかポージングがすごく個性的で。

――ジョジョ立ちってやつですね。

水樹　そうです。周りにジョジョファンがたくさんいるので、アフレコ前に、いろいろ勉強してきてたんですけど、すごいかっこいいなあと思ってました。

――今回の映画のストーリーを知ってどうでしたか？

水樹　想像していた以上にディープだった感じはしますね（笑）。でも、先入観なく作品に携わることができ自然体で役に入ることができました。

――今回、水樹さんはエリナ役ということですが、『ジョジョ』は男ばかり出てくるのですが。

水樹　そうなんです。女性は私1人だけだったんです。

――そういう男どもに囲まれた中のエリナという役柄について第一印象はどうでしたか？

水樹　本当にけなげで可愛らしいし、素敵な女性だなと思っていました。日本人女性のあるべき姿というか、昔ならではの男性を立て、そして三歩後ろを下がって歩くっていう、古風なイメージがエリナにはありますね。本当に献身的で、自分の思った人に全てを捧げるつもりで愛を注ぐっていうのは、ある意味男らしいっていうか潔い！

――逆に。

水樹　逆に（笑）。すごくすてきでかっこいい女性だと思います。

――ちなみにジョジョ派ですか？ディオ派ですか？

水樹　私ミステリアスな男性が好きなんですけど、でもディオはあまりにも行き過ぎ感があって…（笑）

――あまりにもミステリアス……

水樹　過ぎて、私にはちょっと容量を超えてしまって、ついて行けないかもしれません（笑）。やっぱりジョジョ派かな（笑）。でも、あんな

男性に出会ったら、私のほうが緊張してかしこまちゃいそうです。お父さんみたいなすごく安心感のある男性だと思います。

――包容力のあるタイプですね。

水樹　そうですね。あったかくて素敵な感じがします。

――作中のエリナのポジションは水樹さんの中ではどうとらえられていますか？

水樹　とにかくジョジョのことを信じて自分の決めた道を生きる女性なんで「お家は私が守っておくからあなたは自分の道を貫いて」みたいな感じだなって。

――なるほど…良妻というか…。

水樹　そうですね。何もできなけど、後ろからずっと彼をもうとにかく見守るという立場で、どんな形になろうとも私の信じた人だから最後まで私は見届けるっていう……やっぱり良妻ですよね。

――エリナは物語のキーポイントとしてディオに唇を奪われたりとかしてズキューン（笑）みたいなこともありますが。

水樹　ひどいですね。もう（笑）。ディオはエリナに気があるわけではなく、「俺のジョジョを取りやがって」「俺以外のヤツと仲良くするなよ」という感じでだったんじゃないかとか思うんですけど、2人の男性に振り回されてしまうっていうシチュエーションは、女の子的に少し憧れてしまうところはあります……やっぱり。人生で一度は経験してみたいって思っちゃうかもです（笑）。

――なるほど（笑）あんな風に振り回されてみたいと？

水樹　「あー、私どうしたらいいの？」とかってドキドキ……普通はあまりないことですけど（笑）…でもそういうのちょっとあこがれはありますね（笑）。

――エリナのセリフやシーンで心に残っているところはありますか？

水樹　何年もの歳月を経てのジョジョとの再会ですね。傷ついたジョジョと再会したときに本当は絶対に飛びつきたいぐらいの気持ちのはずなんですけど、ぐっとこらえて「お久しぶりです」って対応するところが「なんて素適な女性なんだ」って。感情をぐっと抑えて……大人だなあって思いました。

――ちなみに演出として「こういうふうに演じてください」のようなものはありましたか？

水樹　少女時代はとにかく純粋無垢で大好きなジョジョと一緒にいられるのが楽しいっていうストレートな感情を表現して欲しいとのことだったんですが、大人になってからは全体的に落ち着いて、泣いていても声トーンは落ち着いてあまり揺らがないようにご指示をいただきました。

――最後にジョジョファンに向けて一言メッセージをお願いします。

水樹　一瞬の気の緩みも許さないぐらい全編見どころ満載でほんとに緊張感のあるシーンの連続です！　ものすごく内容の濃い作品になっています。ワイルドな男たちの戦いっぷりも激しくて、かっこいいので、ぜひ皆さん見ていただけるとうれしいです。

――そんな中で、また貞淑なエリナがいて？

水樹　そうですね。一所懸命なエリナの姿も見守ってくれるとうれしいです！

――ありがとうございました。

—声優初挑戦ですが、やってみた感想はいかがでしたか？

井戸田　はい。難しかったです。

—どのような点がむずかしかったですか？

井戸田　ほとんど奇声だったんですよ。「キャー」とか「ワー」とか「キキーッ」とか。アドリブで1回やったんですけども、「じゃあ次アドリブで。こんな感じで」って指定されたので。2回目からは、アドリブのような、アドリブじゃないような感じでしたね。できあがりが楽しみです。

小沢　ぼくはダリオ・ブランドーという、ディオのお父さんの役をやったんですけど。ダリオ・ブランドーというのはね、本当に悪いやつなんですよ。やっぱりね、自分と正反対の役を演じるのは本当難しくて。もう少しぼくに、ああいうところがあればいいんですけど、自分には全くああいうのがないんで、難しかったです。

—でも、声はかなり悪役っぽかったですよ（笑）

小沢　ねえ。そう。悪役のね。ええ（笑）。

—ちなみに、『ジョジョの奇妙な冒険』は、いつぐらいから読んでらっしゃいますか？

小沢　もう僕は中学校の……20年前の作品ですよね。20年前は13歳だから、中1ぐらいに連載が始まったのかな？　その当時ね『ジャンプ』ってもう宝物ですからね。『ジョジョの奇妙な冒険』好きってね、正直そんなに多くなかったんですよ。好きでも、1位じゃなかったの。なぜかっていうと『ジョジョ』ってちょっとマニアックだから。『ジョジョ』を好きな人は、パ・リーグが好き、みたいな。うん。

—ちょっとマニアックっていうか

小沢　っぽい作品ですよね。でも『ジョジョ』面白かったな。うん。

—井戸田さんは『ジョジョ』は、読まれました？

井戸田　僕は『ジャンプ』の連載のときは『ジョジョ』読んでないですね。はずしてたほうです。読んだのは、2年ぐらい前に。三部まで読みましたね。あとはもう、ちょっと疲れてしまいました。

—まだ続いてますしね

井戸田　長いので。で、あと四部からは、また機会をうかがって読もうと思ってますけども。

—訊かれすぎてると思うんですが、コンビ名のスピードワゴンというのは、どちらが？

小沢　ああ、僕くが。はい。

—その理由は？

ワンチェン

小沢　ライブに出るときに、それまで小沢井戸田とか、井戸田小沢とか、そんなのでやってたんですけど。あるライブに出るとき「コンビ名を付けなきゃいけない」って言われて。「コンビ名どうすんだ?」って考えたときに鞄の中にちょうど『ジョジョ』があって。で『ジョジョ』をパラパラっと読んで「ああ、いいじゃん、スピードワゴンで」っていうノリです。

——じゃあもう本当に思いつきで、というか

小沢　そうです。まぁ、好きだったから、例えばこれ、嫌いだったら絶対付けないですからね。

——やっぱり、それはキャラが好きだって思ったり?

小沢　うん。まぁ、キャラ好きですよ。

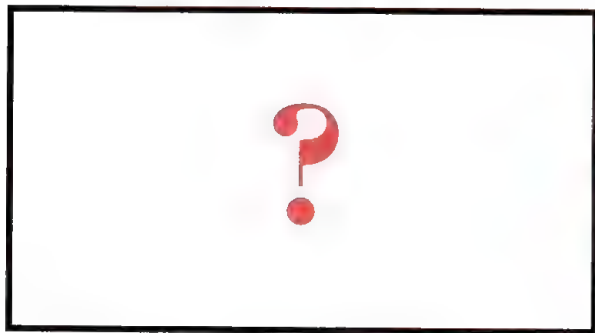
——何か演出的に、もっとテンション上げてくれとか、そういうのはあったんですか?

井戸田　テンション上げてくれ、はなかったですけど。もっと中国人っぽくやってくださいって言われました。

——中国人っぽく(笑)

井戸田　はい。どうも西洋人っぽかったみたいで。もっと中国でって。「○○アルね」みたいな感じでやってくれって言われました。

小沢　僕ね、このダリオ・ブランドーをやる

ダリオ・ブランドー

ときに「他人の不幸が、おれの幸せ…」ってとか、そういうようなセリフがあるんですけど。たぶん演出の方がやってくださったんですね。その方がとてもうまくて。その方の声のイメージがダリオ・ブランドーみたいな声だったの、もう。その人がやればいいじゃん、っていうぐらいうまかった。

――奇声のほうも、誰かにやってもらえるみたいなのは、なかったんですか？

井戸田　そのおじさんが、やってくれましたけど。「キー」とか「ケー」とか。こんな感じでって言って。上手だったんで。その人がやればいいのにって僕も思いました。

――ちなみに『ジョジョ』のこのお話がきたとき、どう思われました？

小沢　「ついに」と、思いましたよ。でもね、本当はね、正直尻込みというか。荒木先生に会いたくなかった。それは、会ってがっかりしたとかじゃないよ。会ってますます好きになったけど。好きな人に会いたくないの。僕は一方的に好きなんだけど。荒木先生はもう、空想上の生き物でいてほしかった。

――制作発表の記者会見のときお会いになったのですか？

小沢　そうです、そうです。

――何かお話されました？

■profile
スピードワゴン
1998年結成。井戸田潤と小沢一敬からなるホリプロコム所属のお笑いコンビ。今回はコンビ名の由来になった『ジョジョの奇妙な冒険』の声優に挑戦。

小沢　あのね、荒木先生には「小沢さんみたいなタイプは苦手だ」って言われました。あのね、マニアックな人は「ここは、こうなってるんですよね。でも、僕はこう思うんです」みたいなことを言いそうだから、ちょっと「小沢さんはマニアすぎて……」って言われた（笑）

――これから見る人に対して、どこが見どころなのか、自分が出てらっしゃるシーンがどういうところなのかを教えていただけますか？

井戸田　はい。今回の映画の見どころは、いろんな奇声を発したんですが。その中にも、感情を込めて言ったところと、全く感情を込めずに言ったところがあります。ぜひ、見抜いてください。お願いします。

小沢　語りつくせませんね。見どころというのはね、誰かに言われて見つけるものじゃありませんから　みなさんが、一度その目で見て、確かめていただきたい。と言いつつ、スピードワゴンはクールに去るぜ。

井戸田　クールに去るぜ。

小沢　去るぜ。

――わかりました　今日はお忙しいところありがとうございました

これぞ人形アニメの最高傑作！ 30年の時を超えて、今甦る!!

北欧ノルウェーから
ほっこりと心あたたまる
素敵な物語が

ここはピンチクリフ村
発明家とかわいい助手たちが
暮らしています

1977年 モスクワ国際映画祭
グランプリ（児童映画部門）、
最優秀アニメ映画賞
ダブル受賞

ピンチクリフ・グランプリ

監督 アニメーション イヴォ・カプリノ　脚本 ヒェル・アウクルスト、イヴォ・カプリノ、レモ・カプリノ、ヒェル・シーヴェンシェン　撮影 チャールズ・パティ
1975年 ノルウェー 80分 カラー スタンダード ドルビーSRD 後援 ノルウェー王国大使館 スカンジナビア政府観光局 協力 日本… プロモーション スナップオン・ワークス

2月3日(土)、心ほっこりロードショー！

特別鑑賞券¥1,500(税込) **絶賛発売中！**（当日一般¥1,800のところ）劇場窓口、都内プレイガイドにて

●劇場窓口、SHIBUYA TSUTAYAでお買い求めの方には、これで07年も燃料満タン！ 特製カレンダー をプレゼント（限定）

【上映時間】11:00 1:00 3:00 5:00 7:00（毎週日・火・木曜日 11:00と7:00の回は日本語吹替え版で上映）

〈幻の日本語吹替え版完全復刻!!〉78年、日本公開時の吹替え版音源を完全復刻！ デジタルリマスター版の映像に乗せてお届けします。（毎週日・火・木曜日、11:00と7:00の回）【声の出演】**レオトル 八奈見乗児**（「タイムボカンシリーズ ヤッターマン」ボヤッキー）／**ソラン 野沢雅子**（「DRAGON BALLシリーズ」孫悟空 孫悟飯、孫悟天）／**ルドビグ 滝口順平**（「ぶ・ら・り途中下車の旅」ナレーター）ほか

シアターN渋谷
03 5489 2592 www theater-n com

■2007年2月3日公開 ワーナー・マイカル・シネマズ板橋 03(3937)1551 ■2007年春 公開予定 【大阪】梅田ガーデンシネマ 06(6440)5977 【兵庫】シネカノン神戸 078(367)3868 【京都】京都みなみ会館 075(661)3993 【福岡】KBCシネマ 092(751)4268 ■2007年 公開予定 【北海道】スガイシネプレックス札幌劇場 011(221)3802 【宮城】仙台フォーラム 022(728)7866 【広島】広島サロンシネマ 082(241)1781 ■2007年 公開予定 【秋田】AKITAシアター 018(884)7450 【石川】シネモンド 076(220)5007 【長野】長野ロキシー 026(232)3016 【岡山】シネマ クレール 086(231)0019 【愛媛】シネマルナティック 089(933)9240 アイシネマ今治 0898(34)7155 【熊本】Denkikan 096(352)0110 【長崎】長崎セントラル 095(823)0900 【宮崎】宮崎ピカデリー 0985(27)0596 【沖縄】桜坂劇場 098(860)9555

『ピンチクリフ・グランプリ』公式携帯サイト ハリウッドチャンネルはこちらから▶ メニューリストからアクセスされる方はこちらから▶DoCoMo (i-mode) メニューリスト→音楽/映画/芸能→映画情報→ハリウッドチャンネル ▶Vodafone(Vodafone live!) メニューリスト→芸能 映画 音楽→映画 音楽→映画→ハリウッドチャンネル ▶au (ezweb) EZトップメニュー→カテゴリで探す→エンターテイメント→映画→ハリウッドチャンネル

ディオ役 緑川光 × ジョジョ役 小西克幸

——お二人は、『ジョジョの奇妙な冒険』は読まれてました？

小西　第1部の最初からずっと読んでました。今も『スティール・ボール・ラン』を読ませて頂いているので、感慨深いですよね。

緑川　ぼくもそうですね。でも、かなり忘れている部分もあったので、また何度も読み直しました。

——ご自身がその漫画のキャラクターを演じた感想は？

小西　まさか、20年前に読んでいた漫画の主人公になれると思ってませんでした。自分の期待を裏切らないように、そして皆さんのイメージに合えばいいなと思ってやらせて頂きましたね。

緑川　ほとんどの人が知ってる偉大な作品なので、プレッシャーでした。ものすごい悪役で、生物界の頂点ですからね。大変ですけど、とてもいい経験になりました。

——今回の映画では2人とも少年から青年に成長する役柄ですよね。

小西　そうですね。ジョジョは、最初は坊っちゃんじゃないですか。で、

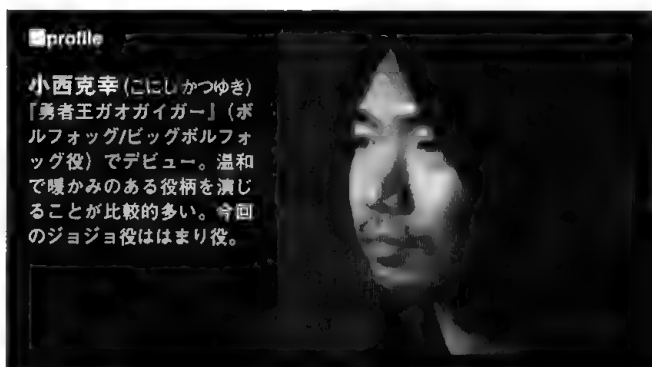
ディオが来ていろんなことをされて、それでも彼を信じようとして。きっと、ジョジョは精神的にも、人間的にも強くなっていったんだ、と思って役に入りましたね。

——緑川さんはゲーム版でも青年ディオを演じられましたが、アニメ版では少年時代もやっておられますよね。

緑川　ええ、今回はやらせて頂けてうれしかったですね。「よーし、やってやるぞ。おれの少年時代を聞けぇ」みたいな（笑）。非常に珍しいケースなんですけど、アフレコの段階で（動画の）絵が入っていて、微妙に表情が変わるのに合わせて、こっちも芝居をするのがとても楽しくて、やりやすかったです。

——少年時代は「いじめる側」と「いじめられる側」ですが、やり取りに熱は入りました？

小西　僕はいじめられることに熱は入らないですけども（笑）エレナにも「あなたは本当に紳士だわ」っていわれますよね。部屋を荒らされて、犬もボコボコにされて。でも、大きな心を持っていられるジョジョは、

profile
小西克幸（こにしかつゆき）
『勇者王ガオガイガー』（ボルフォッグ/ビッグボルフォッグ役）でデビュー。温和で暖かみのある役柄を演じることが比較的多い。今回のジョジョ役ははまり役。

やっていて楽しかったですね。

——一方、追い込むディオというか緑川さんは、いかがでした？

緑川　やっぱり悪役は楽しいんですけど、僕は犬を2匹飼ってるので、心が痛むセリフやシーンが出てくるんですよ。蹴り入れるわ、燃やすわ。家では、僕がコタツに入ってると、犬が上に乗っかってくるんですね。こうやってリラックスしてるところで、それを言うのが凄くきつい。でも、乗り越えなきゃディオになれないなって。

——お前のことじゃないよと（笑）。そして小西さんは、ジョジョが青年期になると、演技にどう変化を付けられました？

小西　このジョジョっていう人の生涯を考えて、自分なりに作っていった感じですかね。今までやってきた役の引き出しを開けつつ、ジョジョとして生きていくという。

——ディオは悪役の中でも頂点に立つ方だと思うんですが、緑川さんは高揚感がありましたか？

緑川　けっこうありましたね。ディオにもいろんな段階があって、少年時代から石仮面をかぶって、ちょっと変なふうになる（笑）。その節回しは、去年からやらせてもらってる外画（外国映画の吹き替え）の引き出しから流用してるところがあるんです。『ジョジョ』をやる前に経験できていてよかったな、と思いました。

——そしてお二人の対決へとなだれ込んでいくんですが、やはり戦いでの雄叫びは体力的にも大変でした？

小西　体力は使うんですけど、やってすごく楽しいですね、自分がワクワクして読んでいた漫画の代表的なセリフじゃないですか。「震えるぞハート、燃え尽きるほどヒート、サンライトイエローオーバードライブ！」って、やっと本物として言えたという思いもありますし。

——やはり波紋呼吸の感じを出されようとしました？

小西　ええ。第2部かどこかに、波紋の呼吸法って、10秒吸って10秒吐くって書いてあったんですよ。それを子供の頃に実践していて。家やリハーサルでも、「10秒吸って」が頭をよぎったりしましたね。

——リサリサ先生の教えを守られたと（笑）。一方でディオについては、皆さんが注目するのは「ウリィィィ」だと思うんですが。

緑川　ゲームのときも「ウリィィィ」や「無駄無駄無駄ァ」とか、「どんな感じがいいですか？」とお伺いして、要望に沿っていろんなバージョ

ンをやりましたね。今回も新たな注文が来て、頑張ったんですけど難しかったです（笑）。いや、すごくやりがいはありました。

――お互いがからむと、テンションって上がります？

小西　やっぱり一人でやるのよりは、どんどん上がっていく一方で。温度も上がって。冷房入れなきゃいけないや、みたいな。

――緑川さんがディオの顔に近づいていく、とかありました？

緑川　どんどんやつれていくような気がしましたね。

小西　そうそう。こう、生気が吸い取られていくような。不思議なもので、マイクから離れたときは「ああ、緑川さんだな」と思うんですけど、2人で立っているときは、ジョジョやディオというキャラクターになりきって、モニターの中の世界を見てるんですよね。で、それを冷静に分析してる自分もいるっていう。

緑川　あんまり余計なこと気にしてたら絵と合わなくなるから、画面に集中してますね。横を見ている余裕がないといいますか。

――もう全部の声を入れ終わったんですか？

小西　はい、やりました。今は海の底に二人で（笑）。

――その段階において、彼らは生死を超越してますよね。ジョジョは最期の波紋を練っているし、ディオのほうは首だけだし。『ファントムブラッド』の大団円だということで、お2人とも胸に去来するものはありましたか？

小西　そうですね。第1部っていろんなエピソードが入ってるじゃないですか。それを限られた時間の中に上手く凝縮してっていう。なので、あっという間に終わったっていうのが正直な感想なんですよ。すごく駆け抜けていった、やりきった感じがあるにはあります。

――ディオのほうは、しぶとく「首だけ」という人類がやったことがない境地に至りますが、いかがでした？

緑川　もう無茶しまくりですからね、僕ら。自分で首を切り落としたり、血管を伸ばして天井に貼り付いたり、目から何かを飛ばしたり。素晴らしいですよ。これがきっと、役者をやっていく上で肥やしになるんでしょうね。

――緑川さんが別作品で演じられる悪役は、違う次元の宇宙に行ったりしますしね（笑）。

緑川　ねぇ。いや、楽しいですよ。

――最後に、お二人とも、今後『ジョジョ』のシリーズがアニメ化されるとしたら、次はどういう演技をやりたいですか？

小西　とりあえず、（ジョナサンは）死んでしまったので（笑）。もし何かやらせていただける機会があるならば、今回やったことを糧にして、何かこう……一歩進んだジョジョじゃないですけど、また役に入り込めればいいかな、とは思います。

――ディオのほうは、第二部以外は絶対に出てくると思うんですけど、いかがですか。

緑川　もちろん機会があったら、ぜひ。それと、あまりにも（ディオの）アクが強すぎるので、さりげないキャラで登場させて頂くのも面白いかな。自己主張MAXのキャラクターじゃなくて、「え？　緑川さん出てたの？」っていう関わり方もいいですね。どんなキャラクターでも、ベストを尽くしてやります。

■profile
緑川　光（みどりかわ ひかる）
「キテレツ大百科」でデビュー。クールな役柄や冷酷なタイプの悪役を演じることが多い。ディオ役はまさにはまり役。

――『ジョジョ』を監督するにあたって、原作を読み直しましたか？

羽山 特に読み直したりはしてないですね。というか、好きで読んでたりしたのもあったので、もう完全に頭の中へ入ってたというか。

――ビデオ作品の第3部のほうでは作画監督をされていましたが、監督として苦労した点はありますか？

羽山 苦労ですか。そうですね。僕は演出経験が全然なく、言ってしまえば今回初めてそういうことをやることになったんで。苦労って言えばもう何もかもが初めてのことで、本当苦労づくしって感じですね。

――いきなり劇場版ですよね。

羽山 本当は今回も作監とキャラデザインっていう話で。僕がやるはずじゃなかったんですが、なんだかんだといろいろありまして（笑）。

――やはり監督ならではのプレッシャーはありましたか？

羽山 それはもちろん。コアなファンが多い作品ですから。これはちょっとやそっとじゃ納得してもらえないだろうな、というのがありました。そんなファンの気持ちも分かりますしね。なんとかなるんだろうか？　なんとかなってほしいな、と思いながらやってました。

――アニメ化をする上で難しいところはどこですか？

羽山 もうこれは3部のときからずっとそうなんですけれど『ジョジョ』を原作から好きな人っていうのは、やっぱりあの独特の絵柄とかポージングとか擬音とかに惹かれているところがあると思うんです。ただ、1本の映像作品として作っていくときに取り入れるのは難しい。全体のバランスをとりながらいくと実現できない部分があったりして。例えばオープニングやエンディング、そういったものがあれば、原作のポージングやらテイストっていうのを取り入れていくことがなんとか可能かもしれないと思うんですけれど。常々思っているんですが、そのへんは原作ファンの人にはちょっと納得してもらえないところなんだろうな、というふうに思ったりはしてます。

――監督として「これは気をつけて

やろう」と思った点は？

羽山：例えばこの1部とかでツェペリが初めて出てきたときにカエルをつぶさずに岩を砕く場面があったりするんですけど、そういうようなところって原作の好きな人っていうのが見たかったところだと思うんですよ。危うくなくなるところだったんですけど阻止したりとか。ボリュームを抑えて原作のムードを壊さずに、と大事なとこだけ拾っていくと、べつにカエル潰さなくてもお話は成立するんです。でも、やっぱりその絵は入れとこうよと。その他にも、本当に泣く泣くカットした原作のエピソードとかもあったりします。

——ちなみにこの作品をやるにあたって、荒木先生から「こうしてほしい」など注文などはありましたか？

羽山　特に大きなものはなかったですね。作監をやってたときにもお会いしたことがあって。うれしいことに覚えていただいて「なに？　今度は監督なの？」みたいなことを言われたりしました。ちょっと「初めてづくしで大変です」みたいな話をしたら「それでも、楽しくやればいいんだよ」みたいな感じで励まされました。また、最初のころの構成を決めるっていう時に荒木さんのほうから「少年時代のところをちゃんとやってほしい」みたいなことは言われました。

——ジョジョとディオの出会い

羽山　そうですね。ディオが来て、それまで多分幸せだったろうジョジョがつらい思いをしていく……というところをちゃんとやってほしい、みたいなことは言われました。

——ジョジョとディオの関係、ディオの内心を監督としてはどう解釈されてるのでしょう。

羽山　基本的には、ディオは悪人……悪人と言っていいんでしょうね。人を押しのけてでものし上がっていくタイプの人間だな、と思ってます。もともと貧しい家の出じゃないですか。だから、成り上がりたいという気持ちがものすごく強い男なんじゃないかな、って思ってましたね。

——最終的にディオは地上最強生物みたいな状態になっていくじゃないですか。最初のほうとの落差が相当激しいと思うんですけど。

羽山　ディオは結局、石仮面を被るじゃないですか。あそこの段階で石仮面を被るとどうなるかっていうことをディオは知ってるわけで、なんで被ることになっちゃったかっていうと、それまで社会的に彼は成功したかったはずだと思うんですね。ところがジョースター卿を毒殺しようとしたこととか、かつて自分の父親を毒殺したこととか、いろいろな悪さが明るみに出てしまったというところで「もういいや」と。言ってしまえば捨て鉢になっちゃったんだと思うんです。その上で、やっぱりナンバー1が好きな男なので「こんな社会的なみみっちいところで1番になってもしょうがないから」っていうふうな感じで石仮面を被っちゃう。そこからガラリと目的が変わったと思うんです。

——つき抜けちゃったっていうか。それからの生への執着もなかなかすごいですよね。

羽山　そうですね。あれは生への執着なんですかね？　吸血鬼になっちゃったところで、生きてるのか死んでるのかもよく分からないですけど。

——最後に監督として、この作品の見所は？

羽山　うわ、出た（笑）

——やっぱり一応お約束で。監督的に「ここが観てほしいな」っていうところがあれば。

羽山　作る側からしても、観る側からしても、なんですけれど、見所ってよく分かんないんですよ、正直。全体的な仕上がりのバランスが一番大事だ、っていうふうに考えているんで。全部観てください、見所って訊かれれば「全部ですよ」と。「よく言うよ」とか言われたりしますが。そういう感じですよね。

■profile

羽山淳一

1984年『Gu-Guガンモ』で動画デビュー。原作の第三部のOVA版『ジョジョの奇妙な冒険「愚者」のイギーと「ゲブ神」のンドゥール』でキャラクターデザイン・作画監督を務め、劇場版『ジョジョの奇妙な冒険 ファントムブラッド』で監督に初挑戦。

好評発売中／メーカー希望小売価格：7140円（税込）
ジャンル：波紋疾走アクション／プラットフォーム：PS2

文／粂怜太

ついにジョナサンVSディオの第一部がゲームに！ と、くればジョジョマニアは思わず関節外したズームパンチの要領でガッツポーズを決めたくなるのだが、ウームとJOJO立ちしたくなるような複雑な感情も……。

これだけ長く愛されている作品だけに『ジョジョ』シリーズは今まで何度かゲーム化されている。最初にリリースされたSFC版は第3部をベースにRPG風味で仕立てたのはいいのだが、いまやダメなゲームの代名詞扱い。しかし、アーケードでリリースされた2D対戦格闘ゲーム版はデキが異様に良く、傑作として語り継がれているほど。要するに世界観がしっかりしているので、ゲームそのものの完成度で評価が別れてしまうのだ。

そんな状況での新作だけに恍惚と不安が渦巻くのだが、とりあえずゲームスタート。いきなり美女がズッギャーンと刺される古代アステカの石仮面の儀式からしっかり再現。これはオープニングだからというわけ

ではなく、原作を忠実に再現したムービーの合間に3Dアクションが挿入されるというシステムなので、全編がこんな感じで進行する。

アニメを観てるような感覚でボンヤリ眺めてるとエリナがゲスな男たちにイジメられている……と、ここで最初のアクションシーン！ 戦闘中も各キャラはセリフを喋りまくり、攻撃すると「ズガァ」と例の書き文字が乱舞！ まさにジョジョっぽい世界が3D空間で再現されているのだが、このイジメッ子二人組が異様に強く、ボコボコにされてアッサリと負け。ゲームオーバーかと思ったら、これが原作通りなのでストーリーは続く。なんとも釈然としないが、ジョナサンの孤独と無力感が味わえると言われればそんな気も……。

ゲームを進めるとツェペリさんがメメタァと波紋を伝授してくれるので、多彩な攻撃が使えるようになるし、「JOJO立ち」ポーズを決めて波紋を練るというゴキゲンなシステムも堪能できるようになるなど、いろんな意味で野心作といえるだろう。

波紋パワー

特殊な呼吸法によって人体の内部で練られるエネルギーの波である“波紋”。それは邪悪な石仮面が生み出した吸血鬼や屍生人の闇の力に、唯一対抗できる「太陽の力」なのだ！

気化冷凍法により凍った腕を火炎の熱伝導で溶かし、波紋を叩き込む！だが、ディオの力は予想以上。顔に触れただけで腕がまた凍らされ、波紋が流れていかなかった。

黒騎士ブラフォードに山吹色の波紋疾走！人としての痛みとともに高潔な魂を蘇らせた勇者は、ジョジョにLUCK（幸運）とPLUCK（勇気）の剣を残して散っていった。

タルカスの天地来蛇殺に両断されたツェペリが、ジョジョに捧げる最期の究極奥義！首の骨折を治癒するほどの強さで、全てのエネルギーと意志をジョジョに伝えた。

ブラフォードが斬りつける剣を逆に蹴り上げて、鋼を伝わる波紋疾走！ 剣からの防御イコール波紋攻撃につなげる！ ジョジョの戦いのセンスはバツグンなのだ。

人間の体が微量に帯びている磁気を、波紋疾走がパワーアップ！「くっつける波紋」（第2部より）を応用して、葉っぱ自体を生命磁石としてくっつけて翼とした。

ブラフォードが得意とする水中戦に持ち込まれ、絶体絶命のピンチ。しかし、「逆に考えるんだ」という父の言葉を思い出し、湖底の空気を吸って逆転の波紋！

悪魔もブッ飛ぶ復讐パワーが長髪に宿り、血を吸い取る。しかし、左手にためる炎の波紋ッ！希望を背負うジョジョは、自分の腕を打って髪の毛を焼き切った。

名場面

ジョジョといえばやっぱり特徴的なセリフまわしと独特な擬音！　そんな名シーンをここではざっくりと紹介。ジョジョとディオの出会い、第一部の決着までを辿っていこう。映画版を観る前にマンガ版を確認しておけば、映画版との違いにも気がつくはずだ。

ろくでなしの父親、ダリオ・ブランドーとジョースター家の関わりを聞いたたディオは、父の死後に、財産を狙ってジョースター家にやって来る。ジョースター家にたどり着き、馬車から降りるディオの華麗なポーズがこれ。「ジャン」という擬音も貴公子然としている。その前のシーンで描かれているジョジョの泥臭さとの対比がすでに第一巻から描かれているのだ。

ジョジョに対面したディオは、その歪んだ性格を隠すことはせず、ジョジョの愛犬であるダニーに無情の蹴りを入れる。ジョジョへの先制パンチとしては強力。そんなディオにジョジョは怒りを露わにするが、手を出すことをできないのが、まだ弱虫な彼を表現している。

ボクシングで戦うディオとジョジョ。ディオは少年時代から近代的なボクシングのテクニックを身につけていた。この対決の結果、ジョジョは友だちをなくし、孤立してしまう。ディオはジョジョの友人達のリーダー格になり、ジョジョをだんだんと追い詰めていく。

ディオとの出会いから7年後。逞しく成長したジョジョ。ディオにいいようにあしらわれたジョジョはもうおらず、重戦車のようにラグビーで活躍する。表面的にはジョジョとディオは友情を通わせているように見える。爽やかな笑顔でジョジョを讃えるディオ。だが、その笑顔の下には依然として暗い怨念が渦巻いていた……。

ディオが父親に盛った薬を調べるために、オーガストリートに旅立ったジョジョの前に立ちはだかるのは、映画版にはでてこないスピードワゴン。この後、ジョジョの紳士としての振る舞いに感動し、行動を共にするようになる。

「おれは人間をやめるぞッ!ジョジョーッ!!」。数々の悪事が露呈し、ついに石仮面を被ることを決意したディオ。だが、人間を超越する存在になったディオだが、ジョジョの爆発的なパワーの前に敗れてしまう。

不死鳥のごとく蘇ったディオとの対決によって傷ついたジョジョの前に現れた謎の男、ツェペリ。ツェペリが池に入るだけで、波紋が広がる。彼はディオが持っている石仮面の力に対抗するべく、波紋パワーをジョジョに見せ、ディオが生きていること、さらにディオと戦うには波紋パワーが必要だと説明する。

ツェペリの波紋攻撃はカエルを殺さずに、岩だけを砕く。波紋パワーと石仮面とのパワーは表裏一体だとジョジョに語るツェペリ。ツェペリの第一部の印象に残るシーンといったらココだろう。

ディオの手下、黒騎士ブラフォードとの戦いの中で、水中に引き込まれてしまうジョジョ。波紋攻撃をするためには、独自の呼吸法が必要になるが、当然ながら水の中に空気はない。絶体絶命のジョジョは水中から地上には上がらず底まで潜り、石の下にある空気を吸って水の中でも波紋攻撃を可能にした。

ブラフォードと共にジョジョの前に立ちはだかる黒騎士タルカス。ツェペリはタルカスに戦いを挑み、予言通りにジョジョを救うために命を落としてしまう。だが、ツェペリはジョジョに全生命エネルギーを与えて死んでいく。「ジョジョ、継いでくれワシの遺志を！　究極仙脈疾走（ディーパスオーバードライブ）」

ディオとの対決の前に、ヘビ男と対決し、東洋の拳法のような動きで波紋を練るジョジョ。ツェペリのパワーをもらったジョジョは、力だけでなく心も強くなった。

「今ァ！　ためらいもなくきさまを惨殺処刑してくれよう！」（ディオ）「同じこと！　お前を葬るのに罪悪感なし！」（ジョジョ）ついにディオとの直接対決に挑むジョジョ。ディオの冷凍攻撃に立ち向かうため、拳を炎に入れ攻撃する。この攻撃によってディオに波紋攻撃が炸裂する。

首だけになっても生き続けるディオの飽くなき執念によって、追い詰められるジョジョ。やっと築いたエリナとの幸せな生活は脆くも崩れ去り、最後に愛を確かめあう二人。だが、そんなエリナのお腹には新しい生命が宿っていた。

果てしない執念によってジョジョの肉体を乗っ取ろうとするディオ。だが、最後にジョジョに抱かれ、黄泉の国へ二人で旅立っていく。第一部はここで終了だが、ディオとジョースター一族の因縁は続いていく……。

一八八九年　2月7日
ジョナサン・ジョースター
死亡

大阪日本橋 ロボット専門店

ロボジャングル
ROBOJUNGLE

超合金魂
SRWOG
プラモデル
TOY玩具
フィギュア
ガレージキット
限定アイテム等

取扱いアイテム 超合金魂シリーズ・ポピニカ魂シリーズ・MAX合金シリーズ・S.R.Wフルアクションフィギュア
ロボットアニメ関連玩具・プラモデル・ガレージキット・オリジナル完成品(個人製作品)・食玩・ガン消し・ロボットモノ同人誌・ロボットアニメ関連書籍(ムック本)

ロボット関連アイテム強化高額買取リスト

※下記買取リストはほんの一部です。くわしくはロボジャングルまでお問合せ下さい。
買取額は商品状態や市場価格により価格が変動致します。

只今、超合金魂、やまと製品、SRWOG、MAX合金、EX合金シリーズ、MIA、装甲騎兵ボトムズ、ロボットプラモデル、その他珍しいモノ系を強化買取実施中!

商品	買取額
■EX合金関連買取■	
EX合金 ブラックゲッター	¥45000
EX合金 ゲッター1、2、3各	¥26000
■超合金魂関連買取■	
超合金魂 GX-01 マジンガーZ	¥2500
超合金魂 GX-01RB マジンガーZ(リニューアルブラックバージョン)	¥80000
超合金魂 GX-01R マジンガーZ(リニューアルバージョン)HONG KONG LIMITED	¥5000
超合金魂 GX-01X マジンガー大格納庫	¥5000
超合金魂 マジンガーZ 鉄の城Ver.	¥100000
超合金魂 GX-02B グレートマジンガー(ブラックバージョン)	¥4000
超合金魂 GX-02R グレートマジンガー(リニューアルバージョン)	¥7000
超合金魂 GX-04 UFOロボ グレンダイザー	¥5000
超合金魂 GX-04S UFOロボ グレンダイザー 宇宙の王者SET	¥10000
超合金魂 GX-06 ゲッターロボ	¥10000
超合金魂 GX-06M ゲッターロボ練習機	¥5000
超合金魂 GX-07 マジンガーZ(OVA) トイズドリームプロジェクト版	¥6000
超合金魂 GX-08MAW マジンガーエンジェル アフロダイA スノーホワイトVer	¥8000
超合金魂 GX-09A マジンガーエンジェル ミネルバX	¥2000
超合金魂 GX-10 ボスボロット	¥2500
超合金魂 GX-10B ブラックボスボロット	¥16000
超合金魂 GX-11 ダイアナンA	¥2500
超合金魂 GX-13 超獣機神ダンクーガ	¥9000
超合金魂 GX-13R 超獣機神ダンクーガEXPO2004 リアルカラーVer	¥25000
超合金魂 GX-15 エヴァンゲリオン弐号機	¥5000
超合金魂 GX-17 エヴァンゲリオン零号機	¥4000
超合金魂 GX-23 無敵超人ザンボット3	¥10000
超合金魂 GX-23A 無敵超人ザンボエース	¥7000
超合金魂 GX-24 鉄人28号	¥2500
超合金魂 GX-24M 鉄人28号 ブルーメタリックバージョン	¥2500
超合金魂 GX-24 鉄人28号 スペシャルカラーバージョン	¥35000
超合金魂 GX-27 ガイキング	¥3500
超合金魂 GX-30 バトルフィーバーロボ	¥2500
超合金魂 GX-31 ボルテスV	¥8500
超合金魂 GX-32 ゴールドライタン	¥2500
超合金魂 GX-33 レオパルドン	¥2500
超合金魂 GX-34 ガンバスター	¥9000
■スーパーロボット大戦 O.G関連買取■	
FAF-002WDX PTX-007TT-2 ゲシュペンストMK-II(タイプTT)	¥6000
FAF-003 THE LORD OF ELEMENTAL サイバスター最強造型2005	¥7000
FAF-004 RTX-010-01 ヒュッケバインMK-II シシオウブレード付	¥6000
FAF-010DX DGG-XAM1 ダイゼンガー	¥18000
FAF-014DX PTX-007-03C ヴァイスリッター	¥6000
FAF-017DX SRG-03-2 スレードゲルミル	¥7000
FAF-018DX SMSC アンジュルグ	¥5000
FAF-019DX PTX-004-01 シュッツバルト	¥4000
FAF-020DX 虎龍王(追加パーツ付)	¥7000
FAF-021DX DCAM-006 ガーリオン(ノーマル・カスタム・トロンベ)各	¥6000
FAF-022DX PTX-003C-SP1 アルトアイゼン・リーゼ	¥8500
FAF-023DX ベルグバウ	¥7000
ボークス最強造形塗装済完成品 クスハ・ミズハVer.αIII	¥8000
ボークス最強造形塗装済完成品 エクセレン・ブロウニング	¥15000
ボークス最強造形塗装済完成品 リューネ・ゾルダーク	¥8000
■新世紀エヴァンゲリオン関連買取■	
ハイグレート チャイナドレス セガ別注 2体セット	¥3000
エクストラフィギュア サマービーチフィギュア 2種 セガ別注	¥5000
コトブキヤ 1/7「惣流・アスカ・ラングレー」ゴスロリVer. PVCリペイント	¥5000
1/10「惣流・アスカ・ラングレー 少年エース' 02年9月号表紙Ver	¥5000
リボルテック サンディエゴコンベンション限定 初号機	¥3500
ツクダホビー製エヴァンゲリオン初号機 ゴールドVer.	¥9000
マックスファクトリー 1/4ソフビ 綾波レイ 発売セガ	¥8000
ドルフィードリーム 綾波レイ 転校生	¥3500
AIZU 1/2.5 綾波レイ プラグスーツVer. コールドキャスト完成品	¥2400
ボークス 通販限定大型ガレージキット 60cmフル稼働初号機	¥1500
■超時空要塞マクロス関連買取■	
やまと 1/60スケール VF-19	¥900
1/160スケールアリイ製プラモデル HWR-00-MK-II デストロイド モンスター	¥1000
タカトクトイス 1/3000スケール SDF-1 マクロス強行型	¥3500
スタジオハーフアイ 完全変形ファイヤーバルキリー	¥1000
■プラモデル・ガレージキット関連買取■	
1/24スケールボークスガレージキット スコープドッグ 初回版	¥2000
1/24スケールボークスレジンキット ブラッドサッカー	¥1900
1/24スケールボークス100個限定ボトムズフェア2 ストライクドッグ	¥1400
1/24スケールボークス100個限定ボトムズフェア2 ベルゼルガ テスタロッサ	¥2000
1/24スケールwave&HJ誌上通販 ラビドリードッグ	¥1800
1/24スケールMAXファクトリーガレージキット テスタロッサ	¥2300
1/60スケールB-CLUBガレージキット ブラック・サンナ	¥2000
ザ・アニメージ 超銀河伝説バイソンシリーズ 装甲バトルスーツ バイソン	¥500
ザ・アニメージ 超銀河伝説バイソンシリーズ アニメジオラマモデルセット 各	¥600
合体ロボット ドライガー	¥500
太陽系戦隊ガルダン4体セット(マグ・ドン・ガン・バク)	¥500

■超合金魂・SRWアクションフィギュア等通信販売中! 全国送料500円で発送!(一部地域を除く) ■買取総額が1万円以上だと通信買取無料! ■ロボジャングルWEB公開中! http://robot.jungle-scs.jp/

■ジャングル2Fでは アニメ・特撮・カルト映画・自主制作映画のDVD・CD・面白Tシャツ取扱い専門店

アニメ・特撮関連DVD高額買取実施中!!

どんなアニメ・特撮の単品DVD最低買取保障致します!!!

定価4,200円以上の**アニメ・特撮DVD**を
最低500円保証(盤面・ケース等美品)で買取致します。
100枚あれば50,000円確定!!
200枚あれば100,000円確定!!!

■大量処分大歓迎!まずはジャングルまでお気軽にお問合せ下さい。

■アクセス■
大阪地下鉄 堺筋線 恵美須町駅下車 1-B番出口(堺筋通り)から歩いてスグ!

営業時間 11:00~19:00 毎週水曜定休
http://jungle-scs.co.jp

DVD&CDの通信買取に便利!!
梱包キット無料発送
ジャングルでは「とことん」まで強化買取実施中!

- ●買取査定は安心かつスピーディに対応致します!
- ●大量買取なら通信買取に便利な「梱包キット」を無料で発送致します!
- ●通信買取の送料はジャングルが全て負担致します!

ご注文・お問い合わせ電話番号は
06-6636-7444
FAX.06-6636-7449
〒556-0005 大阪市浪速区日本橋5-12-4 ジャングル買取係

関西近郊出張買取キャンペーン実施中!

いっぱいにして下さい!

近畿圏内なら、量・商品次第で弊社の
出張買取車(ハイエース)で出張買取させていただきます。
貴方のアニメ・特撮DVD・CD・ロボット関連玩具・プラモデルをお売り下さい。

文／多根清史

『鉄人28号　白昼の満月』公開決定記念特集

待った！　待ちに待った！
一時は本当に存在するのかどうか不安になるほど待った、
今川泰宏監督、劇場版『鉄人28号　白昼の残月』がいよいよ3月に公開決定！
今川監督の作品といえば、燃える！　燃え死ぬ！
今川ビギナーから今川マニアまで一緒に燃える今川監督特集、レディ・ゴー！

原作：横山光輝／監督・脚本・絵コンテ：今川泰宏／音楽：伊福部昭／アニメーション制作：パルム・スタジオ／制作：ジェンコ、ガンジス／製作：キングレコード／メディアスーツ配給、3月31日より新宿武蔵野館ほか全国順次ロードショー

正太郎が2人!? 鉄人の操縦者は誰だ？

廃墟[illegible]人の謎の関係とは!?

銀座あやうし

巨大な廃墟弾を抱える鉄人。半径数キロを一発で廃墟に変えてしまう爆弾が東京にいくつも埋まってる!?

正太郎の前に現われた、もうひとりの正太郎。戦地から帰ってきた正太郎は鉄人を巧みに操縦し、自分が鉄人の正操縦士になるべきだと主張する

テレビシリーズ『鉄人28号』（第四作目）のDVD－BOXに収録されていた、あっと驚く特典映像。それは劇場版『白昼の残月』、2005年公開という特報——わずか15秒の情報（静止画のみ）を手がかりに、ファンは夢をふくらませて待ちわびた。あれから2年。戦後の永き眠りから目ざめた鉄人のように、ついに『白昼の残月』がの3月に公開決定！

太平洋戦争の終結から10年。復興景気にわく東京で、少年探偵の金田正太郎は巨大ロボ・鉄人28号を操り、難事件を次々と解決していた。そんな彼の前に、自分と同じ名前を持つ兄が復員する。

もう一人の「正太郎」は巧みにリモコンを操作して、弟以上に鉄人のパワーを引き出し、彼が苦戦していた敵ロボットたちを軽々と撃破してしまう。この青年は、父・金田博士によって鉄人を操縦する訓練を受けており、ゆくゆくは鉄人を受け継ぐはずだったのだ。しかし、故郷の日本に戻ってきた彼を待っていたのは、あまりにも過酷な現実だった。

鉄人28号 白昼の残月

新登場人物参上

正太郎（CV：粟野史浩）
鉄人が製造された南方の島から復員してきた、もう一人の「正太郎」。鉄人の性能をフルに引き出す操縦技術を持ち、「弟」にも優しく指導したりするが、その心の奥には……

菫野月枝（CV：鈴木弘子）
復員した「正太郎」がかつて住んでいたという館を管理する、謎の女性。同じ今川監督作品の「七人のナナ」にも同名の少女キャラがいたが、今回も物語のカギを握るのだろうか

村雨竜作／岩本規夫
村雨一家のボスで、村雨健次の兄。特攻隊の生き残りであり、ギャングをしてはいるが非常に義理堅い性格。「正太郎」とは、戦地にて苦楽をともにした深い関わりがあるらしい

ガレキの上に立っている謎の復員兵。「残月」と名乗り、正太郎を脅迫しているのはこの男なのだろうか？

戦災からの復興の矢先、東京の中心部が廃墟弾によって再び焦土と化してしまった。正太郎や大塚署長たちは、それを呆然と見つめるしかない

時を同じくして、金田博士が創ったという秘密兵器〝廃墟弾〟の存在が発覚。太平洋戦争での切り札となるはずだった決戦兵器が東京の地下から出現し、街はパニックに陥る。すると、鉄人はひとりでに動き出した。物言わぬ巨人は、何かを知っているのか？ 廃墟弾の謎を追ううち、正太郎は兄の心に残る戦争の深い傷痕と向かい合うことになる。

劇場版の公開にあたって気にかかるのが、今川監督ならではの驚天動地な映像スペクタクル。もろもろの事情からテレビでは大人しめの鉄人だったが、今度こそフルパワーの立ち回りをやってのけるか？

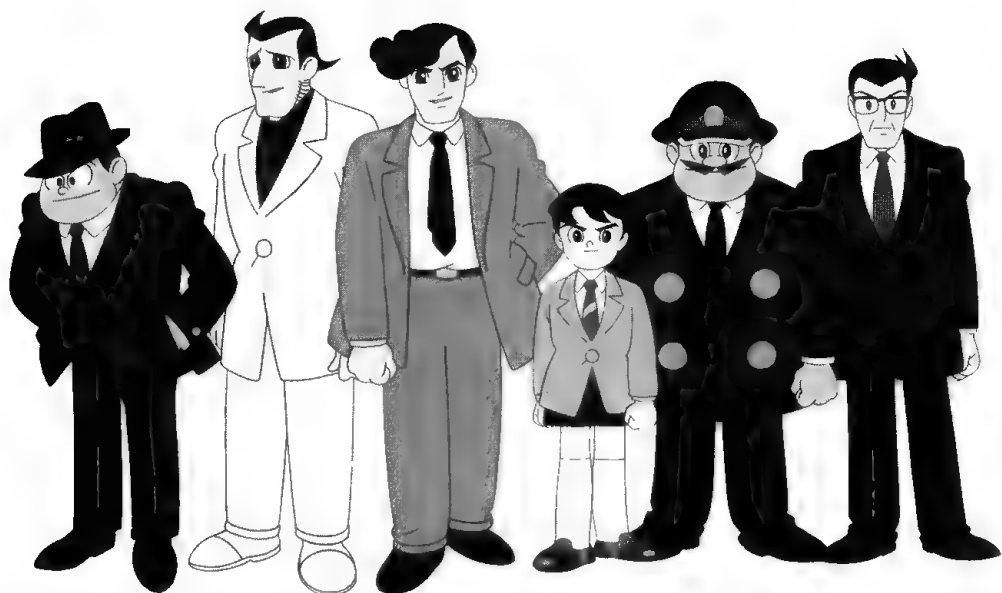
また、テレビ版とは独立したストーリーということで、重厚な世界観や設定を引きつぎつつ、「新たな昭和30年代の光と影」が堪能できそうだ。さらに、今川ファンとしては見逃せない「白昼の残月」というサブタイトルは、何を意味するのか？ また長キセルをくわえて超スピードで走ったりするのか、その正体を劇場のスクリーンで見届けたい。

正太郎少年が戦う“戦後の闇”

鉄人28号

戦後の日本は、瓦礫と化した焼け跡の中から立ち上がる「現在」と、戦争が残した傷跡の「過去」がせめぎ合っていた。テレビシリーズ版『鉄人28号』は、そんな当時の空気や人々の戸惑いを、一体の寡黙な鉄の巨人に託している。そして彼こそが、後に開花したスーパーロボットの出発点であるのだから、いわば「スパロボの背負う原罪」を問い直す大胆な試みといっていい。

昭和30年頃の首都・東京。そこに、突如として南方から飛来し、着地した巨大砲弾から現れたのは、謎のロボットであった……こうした鉄人の初登場シーンにも、今川監督が込めた寓意のほどが読み取れる。全身に包帯が巻かれた鉄人は、フランケンシュタインの怪物のように禍々しく、おなじみ「正義の味方を凶悪に描く」今川演出のケレン味でもある。

しかし、それは心や身体に傷を負いながら、戦地から帰国した兵隊の姿とも重なる。まだリモコンに操縦されていない鉄人は、戦後復興の象徴・敷島重工を襲おうとした。「過

敷島博士（CV：牛山茂）
金田博士の助手をつとめた、優秀な科学者。敷島重工の社長でもあり、正太郎を本当の息子のように見守る

大塚署長（CV：稲葉実）
警視庁署長で、正太郎の育ての親であるオヤジさん。少年探偵に車の免許や銃の所持を認めたのも彼のようだ

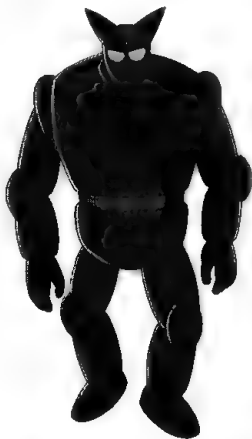
金田正太郎（CV：くまいもとこ）
少年探偵。父・金田博士が遺した鉄人28号の操縦者。頭脳明晰で運動神経抜群、数々の陰謀や怪事件に立ち向かう

村雨健次（CV：幹本雄之）
元陸軍情報部員で、ナイフ使いの腕は超一流。OVA『ジャイアントロボ』の「不死身の村雨」と同じ声優である

村雨竜作（CV：若本規夫）
元特攻隊の生き残り。村雨健次の唯一の肉親。村雨一家を率いていたが、三輪トラックで鉄人に特攻して……

辰（CV：関智一）
戦後、家族を亡くしたところを村雨兄弟に拾われ、弟分に。彼が死亡したことから、村雨健次の物語は始まる

鉄人28号
金田博士が、"もう一人の正太郎"として作り上げた人型兵器。「良いも悪いもリモコン次第」という二面性を持つ

鉄人27号
敷島博士が完成させたロボット。暴走した鉄人を止めようとしたが、敗北。後にPX団により、悪の手先として復活

ブラックオックス
不乱拳博士が鉄人に対抗して創造したライバル的ロボット。「電波攪乱剤」を出し、鉄人を制御不能にした

去」を置き去りにして繁栄をおう歌する「現在」に復讐するように。

そして兵器として生まれた鉄人は、平和になった日本で悪を退治していく。操縦者の正太郎も、父・金田博士が"ショウタロウ"と名付けた鉄人を兄弟として、ともに居場所を探そうとするのだ。

そんなピュアな2人に対して、自らも鉄人の開発に関わり、しかも戦時中に得た技術を使って事業を成功させた敷島博士は、「過去」と「現在」とをつなぐトリックスターを演じて物語を駆動させる。どんなオーバーテクノロジーを見ても「あれは[illegible]」と旧悪に思い当たり、銃も撃つし破壊活動も平気でやる"戦中派"の図太さは、悪役たちも顔負けだ。

だからといって、ドラマが重苦しい、というわけではない。まだ科学捜査が無粋に闇を照らしてない昭和30〜40年代の「怪奇ドラマ」の雰囲気を楽しませつつ、「スパロボの原罪」に決着を付けるという、前代未聞のエンターテイメントとして完結を見たのだ。

物語

9　宿敵・村雨一家を建設中の東京タワーにて追い詰めたものの、逆に縛り上げられた正太郎。そんな彼らの前に、南方から巨大砲弾が飛来し、中から巨大ロボが出現する。それは、金田博士の忘れ形見であるもう一人の「正太郎」だった。

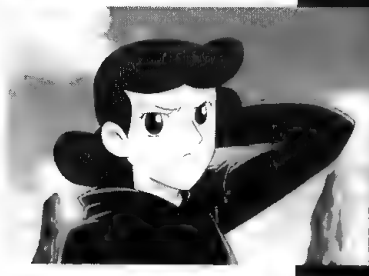
街を破壊した鉄人を「化け物」と嫌悪した正太郎は、「鉄人第二計画」が産み落とした人造人間「モンスター」との戦いを通じ、戦時中の闇と向き合う。そしてギャング団のスリル・サスペンスによって操縦器を奪われた事件をきっかけに、鉄人に愛情をもって接し、悪の手先としないよう正しく使ってやる必要を学んでいく。

宇宙からやってきた"光る物体"や、こつ然と姿を消す怪盗ブラックマスク……少年探偵は鉄人とコンビを組み、次々と怪事件を解決して絆を深める。しかし、敷島博士が謎の自殺、さらに謎の覆面男が「バギュームには近づくな」と言い残し、二人の前には不吉な暗雲がたれ込める。

正太郎に明かされる、過酷な真実。鉄人の体内には、地球を破壊しかねない「太陽爆弾」が隠されていたのだ。「兵器」か「道具」かを問う査問会にかけられ、裁かれる鉄人。この機に乗じ、ベラネード財団（犯罪集団「ＰＸ団」の黒幕）はビッグファイア博士と手を組み、鉄人と爆弾を起爆させるバギュームの奪取をもくろむ。舞台に上がった全ての役者たちは、日本の高度成長を支える黒部ダムに集まり、苦渋の決断を迫られた正太郎は、鉄人を「最強の兵器」に……。

■Check Point 1

ブラックオックスが量産された！

日本の支配を企むベラネード財団は、戦犯として服役していた危険人物・ビッグファイア博士に言われるままに、ブラックオックスを量産。とうてい人間の力だけでは困難と思われる黒部ダム建設用の重機として、日本へ売り込みに成功したのだ。しかし「人間が命令するまでもなく、自分で考えて働くロボット」の伝統に則り、やっぱり暴走。数百機のブラックオックス×太陽爆弾パワーで最強になった鉄人の激突！　という場面は、『真！ゲッターロボ』での「山河を埋め尽くす量産型ゲッターG×旧ゲッター1機」をほうふつさせる屈指の燃えシーンだ。

■Check Point 2

鉄人と三鷹・松山事件

今川版『鉄人』のエピソードは、実在の重大事件と深く関わりを持つ話が目を惹く。例えば第9話「奪われた操縦器」でバッカスが列車を転覆させた事件は、「戦後三大謀略事件」と呼ばれるもののひとつ、三鷹事件を思わせる。また、第17話「黒龍丸」事件にて、敷島博士が怪死するくだりは、やはり三大謀略事件のひとつ「下山事件」（国鉄の下山総裁が出勤途中に失踪し、轢死体として発見された）がモデルでは？と騒がれた。第14話「怪盗ブラックマスク」の元ネタらしい帝銀事件も含めて、これらは松本清張の著書『日本の黒い霧』に詳しい。

■Check Point 3

原作アレンジャー、今川!?

"原作クラッシャー"と良い意味で恐れられている今川監督であるが、テレビ版『鉄人』については、横山光輝先生の原作を尊重し、基本プロットを活かす姿勢が珍しく見てとれる。が、そこはアニメ界の混成魔王・今川泰宏のこと。上でも触れたように、現実の事件とのリンクによって重量感を増すこともあれば、語り口ひとつで方向性をガラリと変えてしまうことも。第13話の「光る物体」でも、原作では殺人アメーバが暴れ回るにすぎない話だったのが、その結末は上質な叙述トリックのような味わいに。原作アレンジャー・今川泰宏おそるべし！

DVD Release
鉄人28号　DVD-BOX
04年／原作：横山光輝／監督・シリーズ構成：今川泰宏／脚本：今川泰宏、山口亮太、北嶋博明、荒木憲一、面出明美ほか／音楽：千住明／製作：敷島重工
全26話収録
映像特典：ノンテロップOP、各話予告30秒（未OA）、プロモーション映像、番宣映像ほか／特典内容：美麗BOXケース&ブックケース仕様、豪華カラー48Pブックレット、鉄人28号ブロマイドシール&シールブック、ピクチャーレーベル仕様、超合金魂「鉄人28号」（バンダイ）別ヴァージョン購入券封入、映像特典、横山光輝ファンクラブ監修本
¥50,000（税込）／スターチャイルド・キングレコードより発売中

「燃える演出」と「手堅い脚本」、どちらが本当？

今川泰宏監督・総論

文＝多根清史

「燃えるアニメを作らせれば世界一」。アニメ監督・今川泰宏を評価する意見の平均値を取れば、そんなひと言にまとめられる。これ、最上級の褒め言葉なようでいて、決して手放しの熱狂や盲信ではない。そのカードをくるりと裏返せば「燃えるアニメ以外を作らせれば……ねえ」という、ため息混じりの留保がくっついているのだ。

わくわくとした期待に始まり、がっくりする失望に終わる。今川アニメとの長い付き合いは「天国と地獄」の行ったり来たりに慣れることでもある。TVシリーズにしろOVAにしろ、序盤は鮮烈なインパクトをぶちかます。しかし、中盤はゆるゆると失速してゆく。後半戦に入ると、一度ドカンと盛り上がって「おおっ」と思わせ……でも、どこかしら不完全燃焼感が残るラスト。こうした「今川監督ツアー」の経験を共有した人も多いのではないだろうか。

そんな「ムラのある演出家」である一方、脚本を担当したときの今川泰宏は、実に手堅い仕事をしているように思える。現在放送中の『バーテンダー』が良い例で、「えっ、これが今川作品なの？」と言われなければ分からない〝普通さ〟だ。『剣風伝奇ベルセルク』でも「シリーズコンセプトアドバイザー」という耳慣れぬ肩書きで関わっていたが、アニメ本編に〝今川色〟の痕跡はまるで見えなかった。

ドギモを抜く派手な演出と、地味で堅実なドラマ性。今川泰宏というアニメ作家は、このふたつの相反しそうな方向性を併せ持っている。では、今川はそのふたつの方向性をその場その場の作品に応じて、小器用に〝使い分けて〟いるのか？ 1年、あるいは数年にわたる長期シリーズ、つまり「今川が全力を出し切った」といえる作品を見るかぎり、答はノーだ。ふたつの矛盾した要素が今川の中でせめぎ合い――今もまだ、上手く折り合いが付いてない。

天下の才人でありながら、なんとも不器用。そこはかと今川自身が創り出した主人公たちに似た本人の足跡を、その作品歴に即して振り返っていくとしよう。

今川が初めて、アニメファンの目をひく形で頭角を現したのは、『聖戦士ダンバイン』（83年）の第37話「ハイパー・ジェリル」だろう。敵オーラバトラーの一体であるレプラカーンが、憎しみのオーラ力により、突如としてハイパー化＝巨大化してしまう。敵のプレッシャーを視覚的に分かりやすくする演出、ではない。正味ムクムクとでかくなり、物理的に強くなるのだ。この表現を発明したのは、その回の絵コンテと演出を担当した今川だと言われている。

その後、今川は『重戦記エルガイム』『機動戦士Zガンダム』というふたつのロボットアニメに関わってから、一転して非メカものの『プロゴルファー猿』（85～87年）に参加する。この時期、「謎の怪光線が噴出」や「エキセントリックすぎる博士」だの、すでに今川演出の基礎は確立していたことが分かる。

が、お行儀のいいスポーツアニメの中で、ひとり暴走していたわけではない。第62～64話（うち後半2話

が今川演出だが、脚本は3本とも城山昇）の強敵オヤジである「シャーク・キラー」にいたっては、主役の猿そっちのけでサメとの戦いに突入し、そのまま旅に出てしまう……えーと、ゴルフは？

今川が本作に参加した理由は「演出の幅を広げるため」というが、むしろ「狂気がスタッフに伝染しやすい原作」ありきではないか、と思えてならないのだ。

『プロゴルファー猿』の終了後、今川は料理対決アニメ『ミスター味っ子』の監督に抜てきされる。表の主役は、料理少年の味吉陽一。しかし、真の主人公は「味皇」こと村田源二郎その人だ。審判役として料理を味わうと、感動のあまり「うーまーいーぞー！」と口からビームを発射し、どんぶりを食えば巨大化して大阪城を破壊し、フンドシ一丁で海の上を走り回る。その強力無比な「リアクション芸」が、後世の料理漫画に与えた影響ははかりしれない。

過剰演出のエスカレートは話題を呼び、当初は半年の予定が2年に延長されるほどの人気を勝ちえた。しかし、今川ファンにとっては「良い想い出」では終わらない。ラスト4話では、味皇は記憶喪失になり、オーバーリアクションは嘘のようになりを潜める。そして「記憶を取り戻す味」のゴールが「陽一が心を込めて作ったカツ丼」とは……。

このオチが失望を呼んだのは、ひとつには「料理勝負は意味がなかったのか！」と2年間を丸ごと覆してしまっていること。そして「心を込めた」って……凡庸でありがち？

しかし、『味っ子』のオーラスは、同時に「生真面目にドラマの幕を引く」という、今川の意外な一面を明らかにした。今までの延長上にある荒唐無稽を封じて、「ちょっといい話」で風呂敷をたたもうとする。そうした几帳面さは、脚本家としては必要な資質と言えそうだ。

OVAの『ジャイアントロボ THE ANIMATION地球が静止する日』（92～98年）と『機動武闘伝Gガンダム』（94年）は時期的にも重なっているが、全体の作風や構成においても、ほとんど「兄弟」と言って差しつかえない。元の『ジャイアントロボ』や『機動戦士ガンダム』があとかたもない「原作クラッシャー」ぶり、生身で巨大ロボットを圧倒できる超人たち、うっかりクライマックスを前倒ししたために最終回近くの〝再起動〟に苦心が伺えたり、どこを取ってもウリふたつだ。

前者はラブストーリーとして、後者は「父（の作ったロボ）と子」の物語として、一応は収束している。「石破ラブラブ天驚拳」にも驚かせてもらった。が、やはり当たり障りがないという感は否めない。

そんな自覚が、後にシリーズ構成（脚本）をつとめた『ハーメルンのバイオリン弾き』で、20話以降の強烈な展開と衝撃のラストを書かせたのだろうか。予算がないために（音楽にお金を使いすぎたという説が有力）止め絵を多用した点に焦点が当てられやすいが、ストーリーテラーとしての完成にこそ注目したいものだ。

そして『七人のナナ』（02年）では「7人のヒロインが全員同じ顔（分身）」という奇抜な設定をオーバーアクションの演出で乗り切り、『鉄人28号』（04年）においては戦中・戦後の歴史とリンクして、予算のせいか「動かない鉄人」を補う重厚なドラマを描き、ようやく円熟の域に達しつつあるように思えた。が、最終回で鉄人を溶かしちゃったよ！　映画どーすんの、と頭を抱えさせた破たんこそ、今川作品を病みつきにするスパイスかもしれない。

カツ丼からビーム！　料林寺三十六房！

ミスター味っ子

文＝MAST

人気漫画のミスター味っ子がアニメ化される。原作漫画が好きだった私（当時高校生）は、漫画のアニメ化は出来が悪いのが多い、とすれた気持ちで観始めたらさあ大変。

この大げさなアニメはなんだ！カツ丼からビームが！　味皇様かっこ良すぎ！　てな感じでハート鷲づかみ。しかもオープニング曲、エンディング曲ともに素晴らしい。

毎週腹をかかえて笑いまくり、画面にツッコミ入れまくりだった。甲来軒の親父は頭から噴火し、肉の小西は原作以上におかしく、及川との幕の内弁当対決では料理同士がプロレスでバトル、お茶漬けから鯛や桜の木が出てきた時には、もう完全にメロメロ。

そんな破天荒な魅力たっぷりで、今見ても面白いこの作品を是非とも紹介させてほしい。

亡き父が残した日之出食堂を、母とともに切り盛りする天才少年料理人「ミスター味っ子」こと味吉陽一が、「味皇」との出会いをきっかけとして、さまざまな料理人との勝負を繰り広げて成長していく、というのが基本的な話なんだけど、とりあえずそれは忘れていい。なんといっても最大の魅力は、大げさすぎる演出とビックリ人間大集合だ。

普通に料理漫画をアニメ化するなら、美味しさを伝えるためにキャラに解説させるというのは誰でも思いつくし、この作品でもやっている。この作品は、そんな風に頭で理解させるだけでは満足しない。魂に直接叩き込むのである。

「うーまーいーぞー」と叫びながら口からレーザーを吐く。巨大化して大阪城を破壊する。海上をふんどし一丁で走り回る。ごく一部だが、これらはすべて料理の旨さの表現だ。この過剰な演出で、食べてもいない料理の旨さを無理矢理納得させられた。

演出だけでなくストーリーも破天荒で、キャラも奇抜なビックリ人間大集合だ。そもそも口からレーザーを吐くという時点でおかしすぎ。

あまりにも奇人変人だらけのため、ここではとても語りきれないが、代表的なものだけでも紹介しよう。

味皇：本作品の最重要キャラクターであり最大のビックリ人間。料理勝負の審査の度にその周辺を異空間に叩き込む。先に挙げた口からレーザーなどを含め、おいしさを伝える過剰演出の多くにはこのお方が絡む。

幻の遠洋漁業料理人・三船敏八：登場シーンが強烈だった味っ子の父の親友。沖合いから巨大なまな板で波乗りしながら登場した。ただの波乗りではなく、その上で魚をさばいて刺身を作るという超人っぷり。いや、そもそも遠洋漁業料理人ってなんやねん。

怪傑味頭巾：頭巾をかぶった謎の人。「桃太郎侍」をオマージュしたセリフ（たとえば「ひとつ、人より蕎麦が好き～」）とともに現れる。遠くからホバリングで急接近するなどの多彩な技を持つ。「口」と「未」と書かれた金の箸を投げ込み、器でからからと回った後にピタリと「味」となる登場はかっこよすぎ。

VIDEO

ミスター味っ子

DVDメモリアルボックス①

87～89年／原作：寺沢大介／監督：今川泰宏／シリーズ構成：鳥海尽三・鳳工房／チーフライター：城山昇／作画監督チーフ：加瀬政広／製作:テレビ東京・SUNRISE

DVD Release

ミスター味っ子　DVDメモリアルボックス1～3
バンダイビジュアルより発売中／各¥33,600（税込）

味将軍グループ：味皇料理会の敵、味将軍グループはいずれ劣らぬ奇人揃いだ。十分に変な味皇料理会が、常識人揃いに見えてしまう。その中でも幹部の七包丁は特におかしい。

ロボコップにそっくりなロボコック（ベタだ）、身長5メートル以上、指一本で寿司を握るゴッドハンド大虎、料林寺（料理の少林寺！）僧侶クアン・チャイ・カモン。当然この料林寺には、変な修行満載の三十六房が存在する。

特にイカれている最強の七包丁はドクターシェフ、阿部一郎。東大出身の天才医師で天才料理人という設定からわかるように、料理道具は手術道具という変人。などなど。

こんな風に、原作とはまったく異なった作品にアニメを仕立て上げてしまう今川氏の原作クラッシャーぶりは、監督デビュー作にしてすでに遺憾なく発揮されていたのだ。

普通、「原作の雰囲気を壊している」というような言葉は、できの悪いアニメを非難するときに使われるようなものだが、今川作品の場合は壊せば壊すほどに面白くなってしまうので、むしろ褒め言葉なのである。

これだけ異常なことがいっぱいな作品なのに、その世界の中でキャラに変な部分にツッコミを入れさせないことを徹底しているのもすごいところ。並の神経の持ち主には真似のできない芸風だ。このことが、画面に思わずツッコミを入れてしまうという楽しさを観ている人に与えている。

そして、どんなに大バカに見えることも作品世界の中では大真面目だから、こんな荒唐無稽なアニメなのに、不思議とリアリティを感じられる。このことは、後の今川作品にも通じる重要なポイントだ。

ここまでに記したようなわかりやすい部分の魅力は、大阪出身の今川氏の、楽しませてやろうという性格の顕れなんじゃないかなと思う。

しかし、この作品はそんな表面上のわかりやすい面白さだけではなく、シリアスなストーリーもきっちり作り上げられていることは忘れちゃならない。『ミスター味っ子』は社会派アニメでもあるのだ。

たとえば、味皇料理会と対立する味将軍グループは、一見、味っ子や味皇料理会と敵対する悪として描かれているが、両者の対立は単純な善悪の構図ではないことがシリーズ中で示される。

手作り、真心の味を重視する味皇に対して、味将軍はグループによる食料の安定供給を目指しているのである。その対照的な姿勢は太平洋戦争後まもない頃の食糧事情と、それによる悲劇が発端となっているのだが……。

親子・兄弟関係などを軸に置いて、家族というテーマが貫かれていることも重要なところ。ご家庭を持っている方は、是非ともお子さんにこの作品を見せてあげてください。今ならDVDレンタルも始まってます。親子の会話もはずみ、昨今の教育問題もこれで解決！

今川作品で人生を豊かに！

敵も味方も全部ガンダム！　ちっちゃな疑問も吹き飛ぶパワー！

機動武闘伝Gガンダム

文＝本間毅寛

「こんなのガンダムじゃない！」『Gガンダム』第1話を観た当時のファンは、例外なくそう思ったはずだ。もちろん私もだ。

『機動戦士ガンダム』は、それまでにないリアルな世界観やシリアスなドラマによって、ロボットアニメに革命をもたらした歴史的傑作。その後、『Zガンダム』、『ZZガンダム』、『Vガンダム』とシリーズは続き、そのテーマ性は受け継がれてきた。

しかし、『Gガンダム』はあまりにも違う。

まず、敵も味方もすべてガンダムなのである。両腕に龍の首が付いたドラゴンガンダム、バラ型のビットを飛ばすガンダムローズ、さらにはミイラ男の操縦するツタンカーメン風ファラオガンダム、風車小屋そっくりのネーデルガンダム、ガレー船と合体するバイキングガンダム、牛マスターガンダムは馬型ロボット風雲再起にまたがっていたりする。それまでのリアルな兵器的イメージは消え失せ、80年代に戻ったかのような個性的デザインばかり。しかも、戦闘はパンチ、キックのド突き合い。必殺技の名前を叫んだりもする。一瞬で命が奪われる戦場の非情さ……『機動戦士ガンダム』という作品が初めて描き出した過酷な戦闘の描写の数々。それがスポーツライクなガンダム同士の殴り合いになってしまったのである。

登場するキャラクターも全く雰囲気が違う。『Gガンダム』では、ほぼすべてのパイロットが全身タイツの熱血漢だ。漫画家の島本和彦氏がキャライメージの作成に参加されており、本当に熱い。ガンダムのパイロットといえば線の細い内向的な少年が定番であったのだが……。

ガンダムの操縦方法も一新。ジャンボーグAや勇者ライディーンのそれに近く、動きをトレースする装置を使って操縦する。暑苦しい男たちがコクピットの中で暴れまくる様は、当時の視聴者を唖然とさせた。

こうした設定はファンにとっては受け入れがたいものであり、拒否反応を示す者も多かった。あの名作がロボット同士の殴り合いになっていたのだから違和感を覚えて当然だ。

しかし、話数を重ねるごとに不思議な感覚に襲われる。しだいに違和感が減っていくのである。作品の持つパワーによって、違和感が吹き飛ばされてしまうのだ。

次々登場する強烈なキャラクターは、途方もない熱量を発して我々を虜にしてゆく。主人公のドモンを助け、導く、謎の戦士シュバルツ・ブリーダーは、ゲルマン流忍術を操るドイツ忍者。ドモンに思いを寄せる少女戦士アレンビー・ビアズリーは、セーラー服型デザインのガンダムに乗り、新体操の動きでリボンを武器に戦う。極めつけは、ドモンの武術の師匠、マスターアジアこと〝東方不敗〟。素手でモビルスーツを叩き壊すほどの達人だ。ドモンと東方不敗の合体技、超級覇王電影弾は、ガンダムを砲弾のように発射する技。マントのようなエネルギーを纏って飛ぶ東方不敗の姿を見ると、もはや「これがガンダム？」などという疑問はどうでもよくなってくる。

奇抜なガンダムも次から次へと登

場した。ドクロに手足が生えたスカルガンダム、コブラを背負ったコブラガンダム、シマウマ模様がラヴリーなゼブラガンダム、6本腕のアシュラガンダムなど。ここまでくると「次はどんなガンダムが出てくるのか?」と次回の放映を観ずにはいられない。

そしてドラマは熱く、緻密である。デビルガンダムの誕生にまつわる秘密、師匠であるマスターアジアの裏切りなど、謎をはらんだ展開をみせてゆく。こんなのガンダムじゃない! 怒れるファンのハートを、『Gガンダム』は凄まじい熱で、強引に鷲づかみにしてしまうのである。

"原作クラッシャー"今川泰宏監督の代表作のひとつなった『Gガンダム』。だが、後に今川監督の参加前から方向性が決定していたことが判明している。「ガンダムでプロレスをやる」と決定したのは富野由悠季監督であるらしい。今川監督ご自身はインタビューで、すでに決定していた路線を受け入れつつ設定を作っていく作業に大変な苦労をされたことを語っている。

当時、ガンダムシリーズがハードコアな路線に進みすぎたせいで、プラモや玩具の売り上げが低迷。そのため、それまでのシリーズの殻をやぶる「大胆な試み」が必要とされていたことが、『Gガンダム』の方向性を決定づける要因となったようだ。"敵も味方もすべてガンダム"という設定もまた商業的な理由から来ている。前作の『Vガンダム』において、敵メカの玩具販売が振るわなかったため〝すべてガンダムに〟ということになったという(普通は「敵メカのデザインを考え直そう」ということになるはずだが……すべてガンダムに、とは豪快だ)。

94～95年/原作:矢立肇、富野由悠季/総監督:今川泰宏/シリーズ構成・チーフライター:五武冬史/製作:tv asahi・SUNRISE

DVD Release
機動武闘伝Gガンダム　DVD-BOX1～3
バンダイビジュアルより発売中/各¥39,900

Gガンダムは、ガンダム作品の中でも異色と言われる。しかし、以後のガンダム作品の多くが「敵味方すべてガンダム」であること、そして、宇宙世紀シリーズの世界観にとらわれない独自の設定を構築したことなどを考えると、その後のガンダムシリーズに大きな影響を与えた重要な作品であるといえるだろう。

余談だが、私はゲーム製作を仕事としている。以前、今川監督が『鉄人28号』のTVアニメを製作された際、そのゲーム化を担当させていただいた。私は操作方法にこだわるタイプで……正太郎君が持つ「あのリモコン」をどうしても再現したいと思い、レバーと3つのダイヤルだけで鉄人が自由に動くように工夫した。リモコンももちろん3Dで製作し、操縦時にはリモコンから「ビビビ」と電波が出るようにしてある。

もし、私が『Gガンダム』のゲームを製作することになったら、モビルトレースシステムの再現に大真面目に取り組むことだろう。最新式のゲームマシンは、コントローラーに傾きや速度を検出できるセンサーが内蔵されており、『Gガンダム』の再現も、しだいに夢ではなくなりつつある(もちろん、完全に再現するのはまだまだ無理だが)。

もっとも直感的な操縦という意味で、モビルトレースシステムは、究極のゲーム操作法ともいえる。格闘家であるドモンが乗るからこそシャイニングガンダムが強かったように、格闘技そのものがゲームの攻略法となるようなゲームをいつか作ってみたいものである。いつか、『Gガンダム』という素材で、それが実現できればおもしろいかもしれない。

永遠に終わらない、大人のための子供の物語

ジャイアントロボ THE ANIMATION 地球が静止する日

文＝廣田恵介

「来るべき近未来！」

軽快なナレーションで始まる『ジャイアントロボ THE ANIMATION 地球の静止する日』。空には飛行船が舞い、高架上を未来的なデザインの列車が横切る——。「べき」という助動詞は「当然そうなるはず」の意、つまり「また実現していない仮定の未来」こそが『ジャイアントロボ』の舞台だ。

世界は絶対無公害・完全リサイクル可能なエネルギー〝シズマドライブ〟によって科学万能の時代を迎えていたが、それは10年前に人類を滅亡寸前にまで追い込んだ〝バシュタールの惨劇〟経たうえでの偽りの平和だった。謎に包まれたバシュタールの惨劇の真実をめぐるサスペンスと、シズマドライブを停止させるキーアイテムの争奪戦がメインプロットだ。壮絶なのは後者、つまり世界征服をもくろむ悪の〝BF団〟と正義の組織〝国際警察機構〟の戦い。両陣営とも超能力者ばかりなので、「鎖ガマで敵を真ッ二つ」「妖術で馬に変身」「変わり身の術」「切断されても生えてくる頭」など忍者漫画のような描写が続出。まさにギャグすれすれのカッコよさだ。

その荒唐無稽さは、ロボット同士の肉弾戦においても徹底している。全長30メートルという設定のジャイアントロボは、シーンによって大きさがまちまち。「カッコよく見えるなら、いくらでもデカく描こう」というわけだ。体内に、物理的に絶対入りきらない量の火器がギッシリ詰まっているのも理屈無視で爽快だ。特に第1話冒頭、列車が変形したBF団ロボットとの一騎打ちは白眉。コブシが雌雄を決するロボットプロレスが画面狭しと展開される。出現時、敵ロボットに睨みをきかせるジャイアントロボの鋭い眼光もシビれる。

さて、本作が初めて世に出た92年。その時点で、「両目があるロボット」などアナクロ以外の何物でもなかった。『機動戦士ガンダム』登場から10年以上が経過、アニメのロボットといえば〝人間の形をした量産兵器〟が不文律となり、そのトレンドも飽きられ、廃れはじめた時期だったのだ。

ロボットブームは去ったが、作画技術の向上、ビジュアル・イメージの洗練という財産が残された。今川泰宏がそれらの遺産を惜しみなく注ぎ込んだのは、とうの昔に忘れ去られた特撮番組『ジャイアントロボ』だった。今川はアニメ化に際し「原作者の横山光輝のマンガ作品から登場人物たちをキャストとして登用する」というマニアックな試みを行ったが、それは単なるファンサービスには終わらなかった。『三国志』の登場人物たちが鎧を着て歩き回る「未来」。それこそが『ジャイアントロボ』の自由奔放さを端的に表していたからだ。毎回、冒頭で謳われる「来るべき近未来」、それは長いことロボットアニメをがんじがらめにしていた〝リアリズム〟と隔絶したユートピアでもあったのだ。

アニメは、もっと自由であった。幼い頃に見たアニメ番組は常識になんかとらわれていなかった。『ジャイアントロボ』を観ていると、かつて日常的に聞きなれていたセリフが耳に飛び込んでくる。「怪しげな……何

やつ？」「おのれ！」「かかったな！」「こしゃくな！」「まさか？」「そのまさかよ！」「ここは俺にまかせろ！」などなど。しかも、それをアニメの第一線から退いた名声優たちが発するのだから、懐かしさもひとしおだ。
　また、先にあげたように80年代を通じて磨き上げられたアニメの作画技術とビジュアル・イメージが本作には惜しみなく投入されている。例えば、物語の発端となったバシュタールの惨劇の禍々しいイメージは88年公開の『AKIRA』を何倍にもスケールアップしたものだ。
　作画技術で言うと、第2話のジャイアントロボの砲撃シーンが分かりやすい。肩や腰から発射された砲弾は敵にまっすぐ命中するわけではなく、リアルな軌跡を描いて飛び、何発かは着弾がずれてしまう。さらには、画面の手前を吐き出された薬莢が横切る——この実写志向の砲撃シーンは87年公開の『オネアミスの翼〜王立宇宙軍〜』に通じる。
　単なる懐古趣味なら、ここまでやる必要はない。しかし、目が越えた年長のユーザーの目を意識する以上、最新のビジュアル・イメージを提示する必要があったのだ。
　音楽はワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団によるフルオーケストラ。しかも、部分的にはフィルム・スコアリング（場面展開に合わせて曲を演奏すること）まで試みられ、全7話、総計6時間に及ぶこの超大作にいっそうの贅沢さを与えている。たとえ、草間大作という12歳の少年を主人公にしていようとも、『ジャイアントロボ』は大人による大人のための作品なのだ。いや、少年向けアニメを大人用にアップデートしたものと考えてもいい。
　だが、まさしく「少年が主人公である」という様式を様式として割り切れず、なんとかテーマとして取り込もうとしたために、本作はジレンマを抱え込んでしまったようだ。
　第1話から、国際警察機構のエキスパート・戴宗は「大作を間違った大人にしてはいけない」と必要以上に気を使い、その妻である楊志も第4話で大作に「いい大人になるんだよ」と言い残して死んでいく。当初はコメディリリーフであったはずの鉄牛までもが第5話で「12歳のときに父を殺してしまった」とトラウマを告白しはじめ、ついには大作の父がジャイアントロボを息子に託す回想シーンが描かれる。死の間際、大作の父は息子に問う。「幸せは犠牲なしには得ることが出来ないのか」「時代は不幸なしには越えることが出来ないのか」。この重いセリフは、あまりに唐突だ。
　しかし、その牽強付会すら「ひょっとしたら狙いだったのでは？」と思わせるのがラストシーン。なんと、全7話にも及んだ物語がすべて次のエピソードへの伏線でしかないという。つまり、物語は完結せず、大作は永遠に子供のままなのだ。毎回繰り返されてきたアバン・タイトル——炎の中を駆けてきて、ジャイアントロボに命令を下す大作少年。それが本作のラストシーンだ。永遠に終わらない、大人のための子供の物語。だから、『ジャイアントロボ』は何度も繰り返し楽しめるのかもしれない。

92〜98年／原作：横山光輝／監督・脚本：今川泰宏／脚本：松山英一、上田浩ほか／製作：アミューズビデオ、バンダイビジュアル

DVD Release
ジャイアントロボ THE ANIMATION 地球が静止する日GR 1〜4 ＜プレミアム・リマスター・エディション＞
アミューズソフトエンタテインメントより発売中／各¥5,040（税込）

02年／原作：今川泰宏、吉崎観音／監督・シリーズ構成：今川泰宏／製作:TV TOKYO、nas、GENCO

DVD Release
七人のナナ 1時間目〜8時間目
キングレコードより発売中／各¥5,775（8時間目のみ¥6,825）

等身大の女の子の成長ストーリー（ただし7人に分裂中）

七人のナナ

文＝和智永妙

「ナナが7人に分裂！ ナナの恋と受験はどうなるの？」

熱い作風で知られる今川泰宏氏が原作・シリーズ構成・監督（第一問目＜第1話＞では声優としても登場）をつとめたTVアニメ『七人のナナ』は、中学生のやや内気な女の子・鈴木ナナを主人公とした「受験」、そして彼女の神近君への「恋」をテーマとした学園青春もの……なのだが、ナナの祖父の発明品「プリズム」のせいで、ナナから別人格が飛び出して、ナナが7人になっちゃった！ というSFな設定から始まる。

容姿はほぼ同じだが、それぞれ「短気・のんびり・前向き・泣き虫・冷静・セクシー（霊感あり）」という個性を持った6人と一緒に生活することになってしまったナナ。7人のシンクロボイスも動きもかしましいことこの上ない。しかも理由が理由なので、7人のことが周りにバレたら大変！とトラブルの種は尽きず……。

吉崎観音がキャラクター原案をつとめ（おなじみのキャラ「メロディ・ハニー」や「623」も登場）、その躍動的な魅力がよく引き出されている。服装も季節を問わずミニスカートなので、夕方6時放映としてはギリギリなカットが7人分だ。

もちろんナナは当初戸惑うが、祖父以外に唯一ナナが7人になったことを知っている、眼鏡っ子の親友・小野寺瞳に「みんな、もともとナナの中にある性格なんだよ」と言われたこともあり、6人を受け入れていく。

受験というのは孤独な戦いだし、恋愛も突きつめればやはり自分の問題だ。しかし、このように常時「リアル自分会議」ができる状態なら、心強いかもしれない。（とはいえ、つい一緒に遊んでしまって勉強しそこねたり、お互いに恋のライバルなので争うことも多いが）。さらにそれぞれのナナが自分の色の「プリズム」を手にすると、空を飛んだり怪力を出せたりする。アトラクション用衣装で顔を隠せばナナが7人いても大丈夫！というわけで「受験戦隊ナナレンジャー」を結成、舞台となっている京都を模した「古都町」上空を飛び回り、暴走した路面電車を素手で止めるわ、空中バトルのはずみで重要文化財を壊すわ、という今川作品らしい豪快さも見せてくれる。

このようにSFギャグ的要素も多いが、個性的な6人のナナに囲まれた等身大の女の子・鈴木ナナの受験を通しての成長が、他のナナたちや周りの人々との交流を通して描かれている。思春期まっただ中の高校受験特有の雰囲気を表現したエピソードも多い。

後半ではナナが神近君への失恋の痛手を負い、さらに神近君が片想いしている少女・月枝と、ナナのダークな部分から生まれた「8人目のナナ」が衝突、推薦合格を取り消されるなどの展開があり、ナナは窮地に立たされる。それでも合格＆恋のために奮闘する、少し成長したナナ。劇中の敵役だった意地悪3人組や厳しい教頭＆生活指導コンビでなくとも、ナナを応援したくなることだろう。ラストの意外なオチにも思わず唸ってしまう、今川監督の新境地開拓を感じさせた良作アニメである。

今川泰宏コラム その1

『鉄人』は『怪奇大作戦』の〝本歌取り〟をしていた

今川鉄人と「京都買います」

日本には古来より「本歌取り」という方法論がある。すぐれた歌や詩の語句を取り入れてアレンジすることだ。盗用やパクリとの違いは、自分なりの新たなものを付け加える〝創造性〟にある。

さて、今川監督もやはり「本歌取り」の達人だ。本人が『スタートレック』オタクにして横山光輝オタクであり……と〝本歌〟も多種多様にわたるが、ひとまず『機動武闘伝Gガンダム』を俎上に載せてみよう。

主役のドモンを食った「東方不敗」や「風雲再起」、「石破天驚」の名前は、香港映画の「スウォーズマン」シリーズから来ているのは有名な話。中国拳法をモチーフとしているのも、元ネタと同じだ。しかし、『Gガン』の『師匠』はオリジナルの「東方不敗」（美女）とは似ても似つかない。

そんな〝本歌取り〟の味わいは、〝本歌〟を知っていればいっそう深くなる。今川版の『鉄人28号』も、またしかり。「光る物体」（第13話）は原作の延長にありつつ『マックィーンの絶対の危機』×『遊星よりの物体X』のような怪奇ドラマ、そして幕切れも50年代のＳＦ映画テイストにあふれていた。なかでも、第15話「不乱拳博士の弟子たち」および第16話「京都燃ゆ」の前後編に目を見はれ！ということで、ようやく本題です。

京都の寺院で起きた国宝焼失事件。どうやら犯人は人工知能を積んだ「小さなロボット」らしい。おりしも、研究仲間である川原崎からの電話を受ける敷島博士。言われるままに見た新聞の紙面には、戦時中の研究仲間で死んだはずの綾子がいた。その直後、受話器の向こうから、放電音と川原崎の悲鳴が！　正太郎と大塚、敷島の３人は、京都へ向かうことにするが……。

35歳以上の特撮ファンなら、もうお察しだろう。この２話についての〝本歌〟とは、円谷プロの傑作ＳＦドラマ『怪奇大作戦』（68～69年）の一編である「京都買います」。そう、先日亡くなった（今回はこればっかりで鬱に……）実相寺昭雄監督が演出し、かつ日本一のドラキュラ俳優・岸田森の名演技＋どアップが堪能できる珠玉のエピソードだ。今川作品の〝本歌〟にしては、珍しくメジャーである。

「受話器と電話のスキマ越し」のような実相寺アングルこそないが、美しい京都の街並みを丹念に映しながら、敷島と今回のヒロインである〝敷島〟綾子（戦争の悲劇というやつです）の間に流れる大人の情感もしっとり。かと思えば、エンディングが今回だけ「なのにあなたは京都へ行くの」に変わっていてズッコケた。よりによって、チェリッシュですか！

しかし、この選曲はただのギャグ（？）ではなく、今川ならではのオリジナリティでもある。

元となった「京都買います」では、京都を売り払っても心が痛まない住民から仏像を奪い去ろうとする、「永遠に変わらない京都」を愛するヒロインが描かれた。それに対して敷島綾子は、自分から何もかも奪った戦争の後でも、「何も変わらない京都」を憎み、燃やし尽くしたいと願う。女としての情念が、より深くえぐり出されているのだ。

……まあ、そんな狂える〝元妻〟を、平気で現在の妻子がいる東京に連れ帰ろうとした敷島のマッドぶりこそ、いっとう「今川キャラ」してるかもしれませんがね。

今川泰宏コラム その2

触れずにはいられない！幻の今川作品!?

今川泰宏と「真!ゲッターロボ」

どこの誰かは明かされていないけれど、誰もがみんな知っている。OVA『真（チェンジ）！ゲッターロボ 地球最後の日』の第一話〜三話の監督が、今川泰宏であるということを。当時、1500円という低価格が話題になったLD（ビデオ）版の第一巻にも、すでに今川の名はなかった。しかし、序盤の監督が彼であったと、ためらいなく断言できる。直感や印象論ではない。発売前のアニメ雑誌に堂々と「あの今川泰宏が監督！」と記事にされていたのだ。

そもそも、本作の看板である真ゲッターロボ自体が、数奇な星の下に生まれている。この11月に急逝した石川賢氏のマンガ版『ゲッターロボ號』は、同名のTVアニメの"原作"としてスタートした。が、主役メカだったゲッターロボ號を退場させ、真ゲッターが「本当のゲッターロボ」として初登場。じゃあ、今までの號はパチモンですか先生……？

その原作版・真ゲッターは恐竜帝国を道連れにして火星に旅立ったが、アニメ版には反映されていない。というより「石川賢版ゲッター」といえば、恐竜帝国が相手とはいえ情け容赦ない暴力を振るう主人公・流竜馬や、学生運動のリーダーにして同志の目を潰したり耳をそぎ落とした神隼人。わざわざ「漫画でしかできない（ヤバイ）こと」を掘り下げていて、その作風をアニメ化するのは困難だった。

そこに、今川泰宏という"爆弾"が投下された。「原作クラッシャー」の異名も、「アニメ化不能と思われた原作」と出会えば、意味がひっくり返る。今川監督なら「石川ゲッター」の精神を映像化してくれるという期待。何より、今川の前作「ジャイアントロボ」とは同じ「Gロボ」である。世代的にも、横山光輝と石川賢のファンは重なりやすい。

そして日の目を見た第一話は、まさに良くも悪くも「Gロボ」だった。冒頭で「10年にもわたったインベーダーとの月世界戦争」が申しわけ程度に説明されると、いきなり突き放される。ゲッターロボを開発した早乙女博士が復活し、全人類に対して宣戦を布告！　しかも、かつて博士は竜馬に殺されたというではないか。一方、武蔵と弁慶（原作ではあり得ないコンビだ）が守っていたカプセルからは、謎の男・號が現れて、なぜか生みの親である博士に逆らう。全てを知ってそうな連中は、思わせぶりな台詞ばかりしゃべってはぐらかす。いったい誰が敵で誰が味方やら、さっぱり見えてこない。

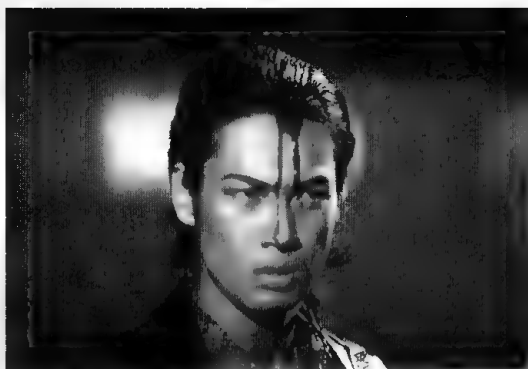
しかし、めくるめくような映像はまぎれもなく「今川版の石川ゲッター」である。まず、早乙女抹殺のために釈放された竜馬はワイルドで、石川ファンには馴染みの「グルグル目」である。竜馬が乗ったゲッターはマントをたなびかせ（＝石川的）、無数の量産型・ゲッターロボGをなぎ倒していく（＝今川的）。まるで映像の大ぶろしきを広げるために、矛盾だらけの物語を用意したかのようだ。

しかし、やはりストーリーは論理的な帳尻を求めるし、気合いの入った作画はばく大な予算を食いつぶす。だから、後になって必ず「ロボットが動かなくなる」だの「ストーリーが破たんするか妙にこぢんまりする」「続刊のペースががっくり落ちる」といったツケを支払わされる。そんな行く末までも、本作は第二の「Gロボ」だったのだ。

諸事情で画像は
載せられませんが
『真（チェンジ）！ゲッターロボ』は
DVDが4月にリリースされます。
石川賢先生に黙祷！

風よ！ 光よ！ 獅子丸ちゃんでぇ〜〜す！

ライオン丸G

あの『快傑ライオン丸』がリメイク!?
しかも2011年の歌舞伎町のホストが主人公!?
期待と不安が渦巻く中、スタートした『ライオン丸G』だが……
これが予想以上に下品！ そして抜群に面白い！ 神ドラマ認定！
獅子丸はお調子者で臆病者でスケベでインキン……いいところないじゃん！
ライバルの錠之介はクールでカッコいいけど……童貞だし！
『オトナアニメ』に特撮記事があったっていいじゃない！
というわけで、『ライオン丸G』特集、スタート！
2ちゃんの実況も盛り上がれよ！

錠之介（大田恭臣）
豪山興業に雇われている用心棒。「ギンサチの太刀」でタイガージョーに変身する。武闘派で、徹底的に弱者、特に「男らしくない」ものを嫌う。だが実は童貞

獅子丸（波岡一喜）
ネオ歌舞伎町きってのダメホスト。「キンサチの太刀」でライオン丸に変身するが、戦う意欲などこれっぽっちもない。なぜかブスふたりには異様に好かれている

果心居士（大久保鷹）
一見ただのホームレスだが、獅子丸に「キンサチの太刀」を与えたネオ歌舞伎町のマスターヨーダ

コスK（小田あさ美）
サオリの妹。定時制に通う女子高生だが、『ネオ歌舞伎町マガジン』のライターでもある。姉思いのいい子

サオリ（小林恵美）
オッパイ自慢のキャバ嬢。錠之介のことが好き。なぜか「キンサチ」のことを「キンタマ」と言い間違い続ける

マスター（ひかる一平）
サオリとコスKを暖かく見守るスナックZのマスター。元探偵で、通り名は「仕事人エレキテル」。錠之介以上に無口

豪山（石橋蓮司）
ネオ歌舞伎町を仕切る豪山興業のボス。額には第二の眼がある怪物である。キンサチとギンサチを狙い暗躍する

ジュニア（遠藤憲一）
豪山興業の若頭。コスプレマニアでファザコン。豪山興業に借金のある獅子丸とサオリをこき使う

真影（唐橋充）
キンサチとギンサチを奪い、謎の怪人ライオンタイガーに変身する。ニャー！

ユリ（清水ゆみ）
かつては錠之介と一緒に活動していた謎の女。マスターとの因縁も深い

オザキ（山岸拓生）
コスKの学校の教師。「オザキ式二次関数」などを教えている。なんだそりゃ

亜仁丸（高山猛久）
身寄りのない獅子丸を雇ったホストクラブ「Dreamin'」のオーナー。いい人

おおね・ひとし
68年生。テレビドラマ、バラエティ、PV、舞台と幅広く活躍中。監督作品に『ヴァンパイアホスト』『30minutes』『アキハバラ@DEEP』など

やり逃げしようとした女に本気になっちゃった、みたいな

『ライオン丸G』監督・脚本

大根仁 INTERVIEW

聞き手・文＝結城らんな

——まず、大根監督はどんな経緯で『ライオン丸G』を監督することになったのでしょう？

大根　今回はキングレコードの大月（俊倫）さんのほうから、「『快傑ライオン丸』のリメイクをやりたいんだけど、どう？」と打診があったんです。僕も『ライオン丸』は子供の頃に観ていて好きだったんですけど、子供心に「ちょっと変だな」と思ってまして（笑）。勧善懲悪とは微妙にズレてるじゃないですか。

——タイガージョーとのライバルストーリーが中心だったりしましたね。

大根　あと、最後も切ないんですよね。ゴースンと刺し違えて終わる。そういうところに惹かれていたんです。それで今回のお話も面白そうだな、と。脚本やストーリーも、現代や近未来に置き換えてもらえればどんなものでも構わない、という良い条件をいただいたので、ならやってみようか、と。

——主人公がホストなのはどなたのアイディアだったんですか？

大根　僕です（笑）。まず主人公に白い服を着せたかったんですよ。お医者さんとかコックとか、いろいろ考えていたんですが、プロットを考えていたときにちょうどホストもののドキュメンタリーを見まして（笑）。歌舞伎町にあるギャルソンというホストクラブの優河さんという社長が面白かったんですよ。まだ若いんですけど、白いスーツを着て、お調子者で憎めない感じで。獅子丸はこの人がモデルです（笑）。「ついてこいー　ついてこいー」とか「ダウンサービスー」ってところは設楽さんの乱丸に振りました（笑）。

——ダウンサービスって本当にあったんだー（笑）　設定をホストに決めてから、あとは最後までお話を作っていったんですか？

大根　そうでもないです（笑）。僕は特撮ものは門外漢なので、横紙破り的なことをしてやろう、と思ってたんです。やりたい放題やってやり逃げしてやろう、と。でも、やり逃げしようと思った女に本気になっちゃった（笑）。大月さんからのオーダーだった『獅子丸と錠之介の友情物語』には沿っていこう、とは考えてました。

——遠藤憲一さんのコスプレはどなたの発案なんですか？

大根　遠藤さんです（笑）。最初は、少し面白い若頭、ぐらいの設定だったんですよ。でも、あるとき事務所に電話がかかってきて「俺、コスプレやりたいんだよな」。この人は何を言い出すんだろう、と（笑）。「変身ヒーローものなんでしょ？　そう

いうのに憧れてる男、ってのはどうかな?」って言われて。11話のストーリーも、そこからできたようなものですよ。
――ほとんど偶然の産物ですね（笑）。『ライオン丸G』のもう一本の柱のような話なのに（笑）。
大根　偶然の産物ばっかりです（笑）。
――小ネタが多いんですけど、そんな中、獅子丸が徐々に男として目覚めていくんですよね。9話ぐらいでようやくヒーローとしての自覚を持った気がするんですが。
大根　いや、最後までヒーローとしての自覚を持ったかどうかは微妙な描き方ですね。特撮ヒーローって変身のきっかけが「義憤」だったりするじゃないですか。それは避けたいと思ってて。最後まで個人的な理由で戦うことにしたかったんです。
――最後まで「正義」とか「悪」とかって言葉が出ませんでしたからね。
大根　ないですね（キッパリ）。僕、人間ってあんまり変わらないし成長もしない、と思ってるんですよ。
――果心居士が「この街の平和を守ってくれ」と獅子丸に言いますが、あれはどういう意味なんですか?
大根　えーと、なんかそれっぽいことを言わせておこうかな、と（笑）。細かい設定は脚本の川崎（ヒロユキ）さんが考えてくれたんです。「錠之介の両親は殺されていたんです」「へー、なるほど」みたいな（笑）。
――果心居士と豪山は旧知の仲だったようですが、実際はどんな関係だったんですか?
大根　昔、一緒に悪さをしていた…と川崎さんが言ってました（笑）。
――豪山はキンサチとギンサチで何をしようとしていたんでしょう?
大根　えー、日本を邪悪な道に導こうとして……。そのへんは突っ込みポイントなんです（笑）。
――わかりました（笑）。毎回、予告編も楽しかったですね。
大根　『探偵物語』のオマージュ、というかパクリというか（笑）。
――最終回で街の仲間を殺された主人公が復讐する、という物語も『探偵物語』の最終回を思い出しました。
大根　……そんなに意識したつもりはないですけど、影響受けてるのかも。イレズミ者が殺されるところとか、びっくりするじゃないですか。
――僕らもオザキが殺されてびっくりしたんですよ!（笑）ゴールデン街をひとりで歩く獅子丸の姿と、表参道を歩く松田優作の姿が被りました。
大根　『探偵物語』も『傷だらけの天使』も寂しい終わり方ですよね。アメリカンニューシネマの影響なんでしょうけど、僕もちょっと影響を受けているんです。続編を作れないような終わり方にしてるんですけど、錠之介の死体も見せてないから、できないことはないのかな。やるなら、海外でロケとかしてみたいですね。

くしだ・あきら
48年生。ソウルシンガーであり、日本を代表するアニメ＆特撮シンガー。代表作多数。２月に宮内タカユキ氏とロフトプラスワンでイベント開催予定

ライオン丸の変身は「変心」でもあるんです！

主題歌はもちろんこの人!

串田アキラ INTERVIEW

聞き手・文＝編集部

——串田さんは『ライオン丸G』の放送はご覧になってますか？

串田　ビデオに録って観ています。普通、ヒーローって変身前からカッコいいじゃないですか。それが今回はいきなりズッコケムードだから、入りっていきやすかったですよ。

——今回のオファーがあったとき、どのように思われましたか？

串田　『快傑ライオン丸』は放映当時、観ていなかったんですよ。僕はその頃、リズム＆ブルースのバンドで米軍のキャンプなどを回ってましたから。名前は聞いたことがありましたね。その後、新しいライオン丸のイラストを資料としていただいたのですが、「うぉっ！　カッコいい！」と思って（笑）。

——今回の「風よ光よ」はＴＵＣＫＥＲさんによるかなり斬新なアレンジでした。

串田　実は録音したのは、あのオケじゃなかったんですよ。最初は爽やかなフォークロックみたいなアレンジのオケで（笑）。だから、出来上がったものを聴いたら「えっ!?」って。完成品のオケで歌っていたら、歌い方は違っていたでしょうね。自分でも面白かったですよ。こうなるんだ、って。

——元曲は秀夕木さんの歌でした。

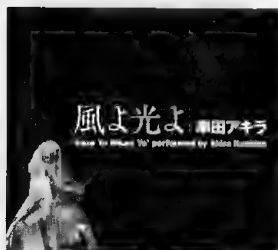
串田　すごくきれいなメロディを、すごくきれいに、落ち着いて歌っているなぁ、と思いました。だから、「どうやって歌えばいいんだろう…」って考え込んじゃって（笑）。最後は「自分なりにやるか」と。まぁ、こういう声ですからね。聴いてみたら「ぜんぜん違うわ」と（笑）。

——串田さん流を貫いた結果が今回の「風よ光よ」になったわけですね。

串田　ただ、今までは「ヒーローは強くなければいけない」「イケイケでなければいけない」と思う部分が強かったんですが、今回はそのあたりを少し抑えました。全部「ゴーゴー！」ではなくて、少し優しく歌う部分も出すようにしたんですね。

　歌詞はやっぱり時代劇っぽい内容なんですけど、ただ一箇所だけ、みなさんにも自分に置き換えて聴いてほしい部分があるんです。「今だ、今こそ変身だ！」という歌詞なんですが、これは誰にでもあてはまることだと思うんですよ。苦難にブチ当たったとき、僕らは実際に正義の味方に変身できるわけではない。なら、気持ちを切り替えて、苦難と戦えばいい。つまり「変〝心〟」ですね（笑）。この歌詞は自分なりに、そういう気持ちを込めて歌いました。

——ライオン丸が戦っているとき、獅子丸の姿に戻ることがあるんですよね。つまり変身しても、戦っているのは自分自身である、と。これはまさに「変心」ですよね。臆病なままでは敵と戦えないわけですから。

串田　そうそう、あとから放映を観て「おお！」と思いましたよ！（笑）

CD Release
「風よ光よ」串田アキラ
キングレコードより発売中
／¥1,050

キャビンアテンダント。本人的には満足な出来らしい

車掌。マニアックな小道具まで準備した。
出発進行～

女子テニス選手

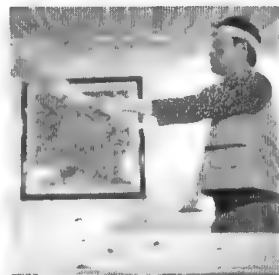
アマレス選手

『ライオン丸G』に欠かせないもの、それがジュニアの手作りコスプレ。可笑しく、そして哀しい男のこれが魂の叫びだ！（順不同）

フレンチカンカン

マタドール

「選ばれし者」になること、つまり「変身」を諦めたジュニアが最後になりたかったのは「カタギ」だった。花嫁としてサオリをさらい、愛憎渦巻く父・豪山に拳銃を向ける！　額の傷が哀しすぎ！

メイドさん

大工の棟梁

鉄人ゴーザンセブン

寿司職人

『ライオン丸G』小ネタ小事典

「あれは初めてだったな」
『ライオン丸G』有終を飾るサオリの台詞。下ネタで始まった『ライオン丸G』は、最後もキッチリ下ネタで終わる。

『ウォリアーズ』
KISSメイクでベースボールスタイルの悪党ども、スワンキーズはこの映画のベースボール・フューリーズが元ネタ。

『援助交際撲滅運動』
我らがジュニア、遠藤憲一の怪演が光るVシネシリーズ。援交をする女子たちを片っ端から成敗する変態地獄オヤジ・クニはジュニアのテンションそのまんま！

『傷だらけの天使』
獅子丸がショーケンの真似をして朝食を食べるシーンがある。BGMもニクい。

北村一輝
11話にゲスト出演。『夜王』の聖也そのままの役柄だが、『アキハバラ@DEEP』の中込役も混じってた。当時、『龍が如く 劇場版』の撮影で歌舞伎町にいたから実現。

キラーカン
アルバトロス殺法を駆使した往年の名レスラー。歌舞伎町にて「居酒屋カンちゃん」を経営。中井で開店していた頃は尾崎豊が常連だった。

キンタマ
サオリが「キンサチの太刀」を「キンタマ」と言い間違えるネタは、最終回近くまで繰り返された。当初、脚本には書かれておらず、現場での思いつきで挿入されたもの。小林さんはエラい！

紅テント
歌舞伎町に隣接する花園神社にテントを張って公演していたのが唐十郎とその一派（状況劇場、唐組など）。大久保鷹は一座の看板役者だった。

『工業哀歌バレーボーイズ』
村田ひろゆき・作の青春エロコメディ漫画。悪党・トッポギの部下がサオリを指して「『工業哀歌バレーボーイズ』に出てくるようなエロい女だ」と言い放つ。

サオリとコスKの両親
実は会社員の父親と専業主婦の母親がいるらしい。成田市在住。

サオリの携帯
妹の名前を「コスK」で登録してある。獅子丸の登録名は「あのバカ」。

『3年B組金八先生』
マスター役のひかる一平が俳優デビューしたのが『金八』の第2シリーズ。沖田浩之、直江喜一（加藤！）らが暴れる人気エピソードのタイトルが「腐ったミカンの方程式」。

10話のOPナレーション
「2011年ネオ歌舞伎町。俺ことホストの獅子丸ちゃんは……ってもういいだろ！ 飽きたよ、このナレーション！ 毎回毎回丁寧にあらすじやってるのは初めて見る人に向けてのホストならではの優しさっちゅーか親切心っちゅーか。サービスでやってんのに視聴率はずーっと横ばい状態だよ。見てる奴は決まってんならもうやーめた！ もう説明しなーい！ ウンコブリブリー！ チンコボリボリー！ インキンカイカイーー ってなわけで、今夜はライオン丸とタイガージョーがお送りするサオリちゃんのオッパイ祭りだじょーー 2ちゃんの実況盛り上がって

っかー!? 勃たせて待ちやがれ！ あぁ〜、オープニング始まっちゃった！ ♪光よ〜正義の祈り〜（以下、最後まで主題かを歌いきる）」

スナックZ
「金八先生」で加藤優がバイトしていた店の名前と同じ。ひかる一平は押しかけバイトだった。スナックZの壁には、ひかる一平が憧れていた暴走族「魑魅怒呂」のフラッグがかけてある。ロケは新宿三丁目の老舗居酒屋「どん底」で行われた。

ソープ
錠之介の筆下ろしをするため、獅子丸が連れていくことを約束する。残念ながら、哀しい結末の伏線になってしまうのだが……。ちなみに、獅子丸のオススメは「抜きタロー」のよっちゃん（清水美子）。

タイガーマスク
新宿でタイガーマスクの覆面とカラフルなコスチューム、花飾りをつけたまま自転車で新聞配達をしている実在の人物。

チビライオン丸
10話に登場する、酔っ払った獅子丸が変身した小型ライオン丸。同話に登場したなべやかん（筋金入りの特撮マニア）が中に入っているのでは、と噂されたが……。「みんなと一緒に行った焼肉屋の定員さんが入ってるんですよ（笑）」（大根監督）。

童貞
最終回間際で錠之介が実は童貞だったことが明らかになる。「カッコいいヒーローって意外と童貞だと思うんです。矢吹丈も星飛雄馬も童貞でしょ？ それをちゃんと突っ込んでやろうと」（大根監督）。

ナンバーガール
向井秀徳を中心に95年に結成されたロックバンド。「ライオン丸G」のサブタイトルはナンバーガールの曲名やアルバム名を意識している。たとえば第1話「2011 NEO歌舞伎町ライオン丸TRANSFORMED状態！」は99年のライブアルバム「シブヤROCK TRANSFORMED状態」より。

バイク
獅子丸が乗っている大型三輪バイク（愛称・ヒカリマル）はスズキ・スカイウェイブ650がベース。

富士サファリパークのCM
ライオン恐怖症になった獅子丸が街角の電気屋で目にして腰を抜かす。もちろん、歌は串田アキラ！

「フルメタル・ジャケット」
スタンリー・キューブリックの名作。新兵を罵詈雑言でシゴキ抜く人気キャラ、ハートマン軍曹をジュニアが完コピ。

リリー・フランキー
謎の外人アジタが露天で「東京タワー」を叩き売り。5年後には行方不明になっているらしい。

DVD Release
『ライオン丸G』

原：うしおそうじ／企：大月俊倫／監・脚：大根仁／脚：川邊優子／制作：「G」委員会

特装版：初回特典Gカード3枚組付／映像特典：メイキング＋『快傑ライオン丸』1、2話収録（！）／¥8,190（税込）
通常版：初回特典Gカード3枚組付／¥3,990（税込）
いずれもキングレコードより2月21日発売

殺しが静かにやってくる！　地獄の若草物語が帰ってきた！

爆裂天使 －INFINITY－

ジョウ、メグ、エイミー、セイ、犯罪都市TOKYOを駆け巡る４人の少女の正体は、闇の任務を迅速に遂行する必殺必中仕事屋稼業だった！
爆裂天使たちが完全新作オリジナルアニメとともに、DVDで帰ってくる！
ジョウとメグの出逢いを描いた14話の「その後」を描いたストーリーとは？

GIRLS！ GUNS！ GONZO！ 映画界の「３G決戦」は『ゴーストバスターズ』『グレムリン』『ゴジラ』だったわけだが、こっちは別の意味で３G決戦！ 気鋭のイラストレーター、白亜右月によって生み出された美少女キャラが近未来犯罪都市・TOKYOを駆け回る！と、04年にスタートしたのがテレビシリーズ『爆裂天使』である。新作DVD『爆裂天使―INFINITY―』は、大畑晃一監督による新作「ジョウとメグのブルース」と白亜右月初監督作品となるショートフィルム「赤ク爆ス天ノ月」の２本がパッケージされたファン必買のアイテムだ。来るべき「INFINITY」の前に、『爆天』世界をおさらいしておこう。

時は21世紀、凶悪犯罪の増加にともなって銃の所持が合法化された東京は、荷物をひったくられた老婆が拳銃をぶっ放す無法の世界である。

謎の華僑組織「白蘭（バーレン）」のエージェントを務める４人の少女たち――二挺拳銃を操る銀髪の早撃ち殺戮マシーン・ジョウ、勝気だがいつも敵にさらわれてしまうメグ、情報収集などを担当するコンピュータのエキスパート・エイミー、冷徹かつセクシーなリーダー格のセイ、そしてジョウが駆る二足歩行型戦闘サイボット、ジャンゴ（『続・荒野の用心棒』！）――彼女ら〝地獄から来た天使たち〟は、与えられたミッションを片付けていく。

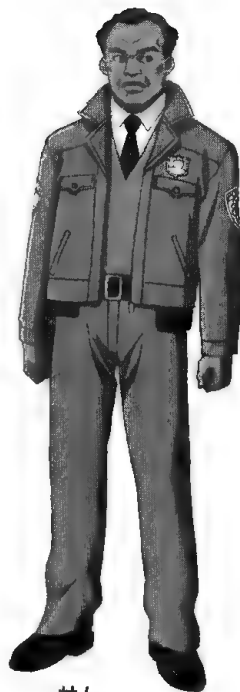
ストーリーは、ジョウの無敵っぷりについての秘密と陰謀、東京を牛耳ろうとする組織ZEROとの戦いを軸に、ロボット、ゾンビ、怪物、黒人警官、ヤクザ、人情、セーラー服刑事、侍、フルメタル極道、バイオニック美女、暴走パトカーなどなど、アクション映画のエレメント山盛りに、乳揺れ描写をトッピングしてエンディングまで突っ走る。〝ジェノサイド・エンジェル〟と呼ばれるジョウの最後の戦いとは――？

以上でサイバーマカロニアクション『爆裂天使』のおさらいは終了！『INFINITY』の登場を震えて待て！

フレッド
謎の殺人鬼とともに殺人ゲームを楽しむ冷酷な男

シャーリー
メグとともに暮らしていた孤児。現在はサムのもとに引き取られているが……

ジョウ
正体不明、凄腕のガンマン。過去の記憶を一切持たない。ホラー映画好き

メグ
NYで暮らす孤児のひとり。ジョウと出逢った後、ともにTOKYOへ渡る

サム
NY市警の警官。正義感に篤く面倒見がいい。3人の子供を引き取って育てている

殺人鬼との死闘！ in NY「ジョウとメグのブルース」

『爆裂天使――INFINITY』に収録される「ジョウとメグのブルース」は、テレビシリーズの近過去――ジョウとメグの出逢いを描いた14話「ワイルド・キッズ」の後日譚である。

この連作の舞台はニューヨーク。カッパライで生計を立てている4人の孤児たち。もっとも幼い少女シャーリーが、川に浮かんでいた銀髪の少女を助け上げる。謎の女刺客を撃退した銀髪の少女は「ジョウ」と名乗り、孤児たちのリーダー格だった少女「メグ」とTOKYOに旅立つ。シャーリーたちは実直な黒人警官サムに引き取られていった。

年月が流れ、ジョウとメグが再びニューヨークの地に降り立つ。シャーリーの誕生日にプレゼントを渡すためにやってきたのだ。

しかし数日前、シャーリーは謎の無差別殺人鬼に襲われ、瀕死の重傷を負っていた。憤激するメグとジョウは復讐を誓い、殺人鬼をおびき寄せて対決するが取り逃がしてしまう。

そんなふたりにサムが重い口を開く。「犯人なんてとっくにわかってる――」しかし、殺人鬼の背後の「力」は警察署長まで抑え込んでおり、一介の警官であるサムにはどうすることもできない。凶悪な殺人鬼――サイバロイドと、それを操る謎の男がメグとジョウに迫る――ふたりはこの窮地を脱することができるのだろうか？

DVD Release
爆裂天使 -INFINITY-

【収録内容】
DISC1：OVA「ジョウとメグのブルース」＋特典映像
DISC2：スペシャル特典ディスク「赤ク燃ス天ノ月」（白亜右月発監督作品）ほか
初回特典：豪華60Pブックレット、白亜右月描き下ろし特製BOXなど
¥10,290（税込）／3月23日より、IMAGICAイメージワークスより発売

ライオン丸G DVDで見参!

vol.1 特装版

メイキング映像 ＋“快傑ライオン丸”［第1話「魔王の使者 オロチ」第2話「倒せ!!怪人ヤマワロ童子」］収録DVD付

2月21日発売 2枚組 KIBF 9148 9 税込価格¥8,190（税抜価格¥7,800）

vol.2 特装版

オリジナルサウンドトラック付

3月28日発売 KIBF 9150 税込価格¥8,190（税抜価格¥7,800）

vol.3 特装版

メイキング映像 ＋“快傑ライオン丸”［第27話「人魔ー!ブースン怒る!」第28話「悪の剣士 タイガージョー」］収録DVD付

4月25日発売 2枚組 KIBF-9151 2 税込価格¥8,190（税抜価格¥7,800）

vol.4 特装版

【初回限定版】

JAP工房完全監修 メディコム・トイ制作
オリジナルフィギュアRAH ライオン丸 付

6月13日発売

KIBF-9453 税込価格¥18,690（税抜価格¥17,800）

vol.5 特装版【初回限定版】

JAP工房完全監修 メディコム・トイ制作
オリジナルフィギュアRAH タイガージョー 付

7月18日発売 KIBF-9454 税込価格¥18,690（税抜価格¥17,800）

発売日・特典内容等は変更になる場合がございます
オリジナルフィギュアは「ライオン丸G」の“ライオン丸”“タイガージョー”のバージョンです

vol.1 通常版	vol.2 通常版	vol.3 通常版	vol.4 通常版	vol.5 通常版
2月21日発売	3月28日発売	4月25日発売	5月30日発売	6月27日発売

全巻にオーディオコメンタリー収録! Gカード（3枚1組）も封入!（初回製造分のみ）

ライオン丸G
OPテーマ

風よ光よ

串田アキラ

発売中

KICM 3136 定価¥1,050 税抜¥1,000

ライオン丸G
トリビュートミニアルバム

新宿狂詩曲（ラプソディ）

angela

1. 接触 2. 人生遊戯 2nd ED
3. 僕の両手 4. 鳥 ED
5. 独り 6. 月の無い夜
7. 移り気

発売中

KICS 1285 定価¥2,200 税抜¥2,095

CAST 獅子丸 波岡一喜 錠之介 大田恭臣 サオリ 小林恵美 コスモ 小田あさ美 果心居士 大久保鷹 ジュニア 遠藤憲一 ハルナ 近藤春菜 ハリセンボン ハルカ 箕輪はるか ハリセンボン

STAFF 原作 うしおそうじ 企画 大月俊倫 音楽 TUCKER-HIFANA 脚本・演出 大根仁ほか 特撮ディレクター 造形・衣装デザイン 音楽協力 テレビ東京ミュージック 脚本協力 川崎ヒロユキ・中津留章仁 製作 G製作委員会

放送日
MBS毎週木曜日
TBS毎週

文／和智永妙

神聖ブリタニア帝国は、極東の国日本の地下資源サクラダイトを巡る外交上の対立のため、日本に宣戦布告する。ブリタニアは本土決戦において初めて人型兵器・ナイトメアフレームを投入、その圧倒的な力に日本は為す術もなく敗れた。

自由と権利、そして名前を奪われた日本は「エリア11」と呼ばれるようになった。人々は国籍を捨て名誉ブリタニア人となり暮らすか、日本人としてゲットーに籠もるかの選択を迫られる。ブリタニア皇帝の皇子ルルーシュは、宮廷の陰謀で母を殺され、妹ナナリーは障害を負い、父ブリタニア皇帝からは切り捨てられる。外交の駒としてナナリーとともに日本に送られていたが、最後の総理大臣・枢木ゲンブの子、枢木スザクと出会い、平穏な日々を過ごしていた。しかし、祖国はその生活すらも奪い、幼いルルーシュはブリタニア帝国を滅ぼすことを決心する。

表向き死んだことになったルルーシュは、アッシュフォード学園のクラブハウスでナナリーと共にかくまわれつつ、その決心は揺らがなかった。レジスタンスが奪取した謎の少女・C.C.と出会ったルルーシュは、どんな命令でも従わせる絶対遵守の力「ギアス」を契約により左目に宿す。相手を自殺させることすらできる力を使い、ルルーシュはブリタニアに革命を起こす行動を開始する。母の死の真相を知るため、腹違いの兄弟たち、実の父との対決が待っていようとも。

一方、スザクは名誉ブリタニア人として入隊し、ブリタニアの最新型ナイトメアフレーム試作機・ランスロットのパイロットに抜擢されていた。純血ブリタニア人の軍人たちからは蔑視され、またイレヴンたちには裏切り者呼ばわりされるという立場でありながら、ブリタニアを内側から変えるという理想と信念を貫こうとする。

ルルーシュとスザクは学園の生徒会に属し幼馴染の友情を保ちつつ、戦場ではお互いの正体を知らず敵対している。また、同じ生徒会に病弱を装いながら裏でレジスタンス活動をするカレンは、ルルーシュの扮装した姿である「ゼロ」の正体を知らずに指導者として仰ぐ。そうした学園の群像劇も楽しめる。

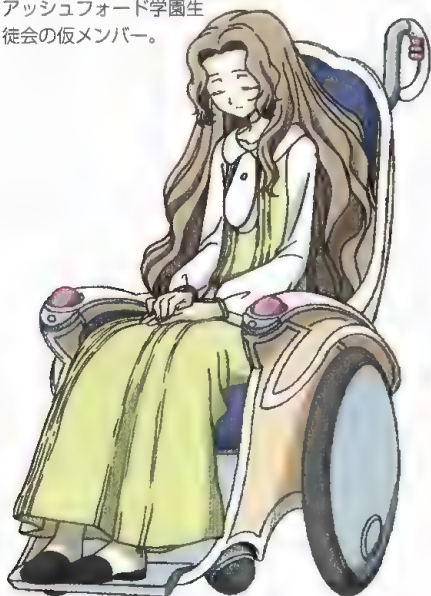
皇子でありながら帝国を倒そうと手を血で染める悪役のルルーシュ、亡国の指導者の息子でありながら支配国軍のエースパイロットになるスザク。一概に彼らの善悪を決め付けられないのも面白い。ジャーナリストの暗躍や政治的駆け引きもあり、見所が非常に多く、一秒も見逃せない。全力で見ろ！

アッシュフォード学園

ルルーシュたちが通う全寮制の学園。ブリタニア人とイレブンをわけ隔てなく扱う自由な校風で、アッシュフォード学園では生徒会がストーリーの主な舞台になっている。

ゼロ
主人公ルルーシュの仮の姿。アッシュフォード学園では旧友のスザクと学園生活を過ごしながらも、ゼロになったルルーシュはブリタニア帝国軍のスザクと戦闘を繰り返す。

ルルーシュ・ランペルージ
（CV：福山潤）
謎の少女C.C.と出会い、どんな命令でも相手を従わすことができる『ギアス』を手に入れ、ブリタニア帝国に革命を起こそうと画策する。

ナナリー・ランペルージ
（CV：名塚佳織）
ルルーシュの実妹で本名はナナリー・リ・ブリタニア。権力闘争に巻き込まれたことによって視力を失い、足も不自由に。アッシュフォード学園生徒会の仮メンバー。

シャーリー・フェネット
（CV：折笠富美子）
アッシュフォード学園の生徒会のメンバー。ルルーシュが気になっているが……。

ニーナ・アインシュタイン
(CV：千葉妙子)
アッシュフォード学園生徒会のメガネ娘。科学には造詣が深いが、自分の容姿にコンプレックスがある。イレブンへのトラウマがあり、イレブンであるスザクも苦手。

カレン・シュタットフェルト
(CV：小清水亜美)
レジスタンス活動に参加しながらも、アッシュフォード学園で学生生活を送っている。学園内では病弱を装っているが、素の性格が露呈することも多い。

枢木スザク
イレブン（日本人）だが、名誉ブリタニア人としてブリタニア帝国軍に参加している。Stage5からアッシュフォード学園に通い始めた。

アーサー
黒猫なのに右目の周りがさらに黒いぶちがあるのが特徴。アッシュフォード学園生徒会室で飼われている。スザクにはなぜか懐かない。

ミレイ・アッシュフォード
(CV：大原さやか)
アッシュフォード学園の生徒会長。名前のとおりアッシュフォード学園の理事長が祖父。生徒会の頼れるお姉さん的役割。

リヴァル・カルデモンド
(CV：杉山紀彰)
アッシュフォード学園生徒会のお調子者。ルルーシュとは悪友だが、ルルーシュを連れ回しているだけという話も…。

C.C.
(CV：ゆかな)
ルルーシュに世界を変えるという力『ギアス』を与えた謎の少女。ルルーシュ達の住むクラブハウスに居候中。好物はピザ。

神聖ブリタニア帝国

コードギアスの世界3分の1を支配する神聖ブリタニア帝国。強大な軍事力によって広大な版図を有し、磐石に見えるブリタニア帝国だが、血生臭い権力闘争や血族による支配など皇室内の結束は危うい。

ブリタニア皇帝
(CV：若本規夫)
ブリタニア帝国の皇帝であり、ルルーシュの父。子供達の能力を見定めるため、最前線へと送りこむ実力主義者。

コーネリア・リ・ブリタニア
(CV：皆川純子)
クロヴィスの後任としてエリア11の総督に就任したブリタニア帝国第二皇女。幼いころから第三皇女のユーフェミアを溺愛している。

ユーフェミア・リ・ブリタニア
(CV：南央美)
コーネリアと一緒にエリア11の副総督に就任したブリタニア帝国第三皇女。穏やかな性格でブリタニア帝国の理想と現実の狭間で悩んでいる。

クロヴィス・ラ・ブリタニア
(CV：飛田展男)
ナルシストなブリタニア帝国第三皇子。Stage3でルルーシュの母マリアンヌの死についての情報にあっさりと自白させられ、射殺されてしまう。

ジェレミア・ゴットバルト
（CV：成田剣）
爵位を持った純血派の若手将校。普段は真面目だが、先頭になると好戦的。数々の失敗によって「オレンジ」と揶揄される日々を過ごしている。

ヴィレッタ・ヌゥ
（CV：渡辺明乃）
ジェレミアの部下でサザーランドに搭乗する銀髪で褐色肌の女騎士。冷静かつジェレミアへの忠誠心も高い。

コードギアスの世界の3分の1を支配する超大国である神聖ブリタニア帝国は、巨大な国土を有しており、そのほとんどを血族によって支配している。皇位継承権を持つ者たちが総督として各エリアを統治するという、近未来のストーリーながら前近代的な専制国家として存在し、帝国VSレジスタンスという構造は非常にわかりやすい。またブリタニア帝国の首都はアメリカ大陸にありながらも、その起源は英国となっている。当然ながら専制国家ならではの貴族制度も敷かれている。

ストーリー前半のキーパーソンと思われた第三皇子のクロヴィスがエリア11の総督だったが、Stage3と早い段階で暗殺されてしまい、第二皇女コーネリアが総督として赴任する。また第三皇女ユーフェミアまでも副総督として集まっており、ブリタニア皇帝が、なぜエリア11にこれほどまでに固執するのかが、今後の注目の一つだろう。

ロイド・アスプルンド
（CV：白鳥哲）
最新鋭KMFであるランスロットの開発者。丁寧な口調ながら、技術者にありがちな斜に構えた発言が多い。

セシル・クルーミー
（CV　井上喜久子）
ランスロット開発メンバーの一員で、スザクなど騎士のケアも担当。スザクの勉強を見てあげるなどの優しさを見せる。独特の味覚の持ち主でもある。

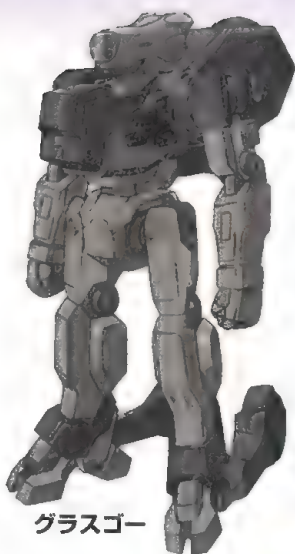
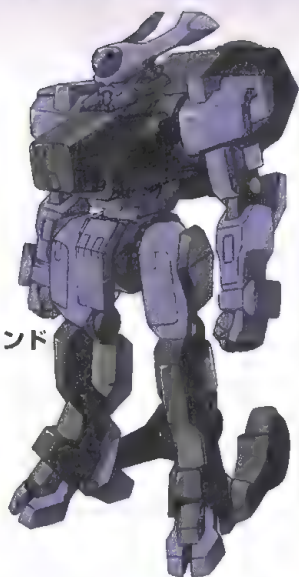
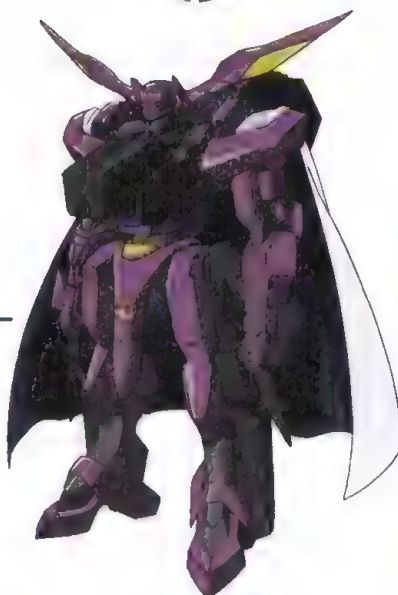
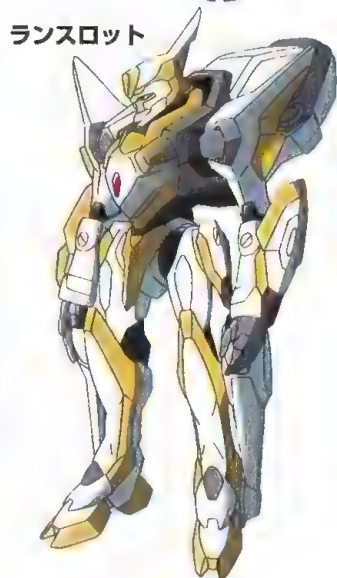
玉城 真一郎
(CV：田中一成)
反帝国レジスタンスのメンバーの一人。勝気な性格で過激な発言も多い。表情や行動は若干ヤンキー風。

扇 要
(CV：真殿光昭)
カレンが所属している反帝国レジスタンスの現リーダー。カレンの兄で元リーダーである紅月ナオトとは友人だったため、カレンの面倒をみている。

藤堂 鏡志朗
(CV：高田祐司)
7年前の対ブリタニア戦で一度も負けなかった伝説の将軍。現在は反ブリタニア組織・日本解放戦線に客分として在籍している。

ディートハルト・リート
(CV：中田譲治)
TV局のプロデューサーだったが、独断専行が多い。ブリタニア帝国には好感を持っておらず、黒の騎士団寄りな人物。

ナイトメアフレーム

サンライズアニメの基本ともいえるロボットはナイトメアフレームと呼ばれる人型兵器。コードギアスの世界で主力兵器として活躍する。通称KMF。全長4．5mとロボットとしては小さめで、コックピットが背面にあるのも特徴的だ。

コードギアス CODE GEASS Lelouch of the Rebellion 反逆のルルーシュ

各話解説

超大国ブリタニア帝国に占領された日本＝エリア11。と設定はハードながら、学園生活と戦争という両面が描かれ、非常にエンターテイメント性の高い作品に仕上がっている。各話を見られなかった人はこれから佳境に向かう物語を把握するためにも、今までの物語を確認しておこう。

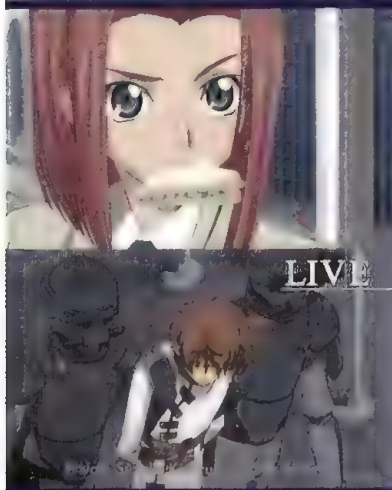
>>>>> Stage 1

魔神 が 生まれた 日

【物語】学校から抜け出し賭けチェスの代打ちをするルルーシュ。戻る途中、カレンらレジスタンスのトラブルに巻き込まれ、トラックの荷台に入り込んでしまう。ブリタニアから盗み出した新兵器には毒ガスと思われる大型カプセルが積まれていた。それは総督・クロヴィスにとって最高機密のモノ。激しい追撃を受けながらも逃走するトラックから脱出したルルーシュはレジスタンスと勘違いされ、ある兵士に取り押さえられる。兵士は幼馴染のスザクだった。その時カプセルが開き、中身が少女（C.C.）だったことが分かる。追ってきたブリタニア兵士に責任を問われ、問答無用で撃たれるスザク。少女も眉間を撃ちぬかれ倒れてしまう。自分の無力を嘆くルルーシュに、少女の声が聞こえ、左目に王の力・「ギアス」が宿る……。【解説】「日本が神聖ブリタニア帝国により侵略され、エリア１１と呼ばれている」という、視聴者が何らかの感情を起こさずにはいられない世界設定が語られる。その頭脳を使って貴族から賭け金を巻き上げていた、冷笑的なルルーシュ。一緒にいたリヴァルは感じないが、ルルーシュには離れたトラックからC．C．の声が聞こえる……という二人の因縁を感じさせる描写がある。ブリタニア軍の非情な描写の後、ギアスの発動→「イエス・ユアハイネス！」と斉唱→一斉に首を銃で打ち抜いた兵士たちの返り血を浴びるルルーシュ、というシーンはあまりにも強烈だが、ある種の爽快感すら覚える。

Stage 2 覚醒 の 白き 騎士

【物語】ギアスの力でナイトメアを奪取したルルーシュ。一方身につけた時計により、軽傷で済んだスザクは、ランスロット搭乗を命じられる。レジスタンスの回線に割り込み、天の声ともいえる命令を出したルルーシュにより、完全に手玉に取られた形になったクロヴィス。レジスタンスの圧倒的優勢だったが、戦闘能力の優れたランスロットの出現により戦況は一変する。スザクはルルーシュのナイトメアを捕捉しかけるが、途中で一般人を救い見失ってしまう。その時、ゲットーを焼き払おうとする軍に、総督直々の停戦命令が出された。【解説】全高4.5m程度の人型兵器・ナイトメアフレーム戦がメイン。ゲームをプレイするかのように、レジスタンスもクロヴィス軍も「駒」としか見ておらず、戦略を巡らせ「ブリタニアを倒せる！」と手応えを感じるルルーシュと、何も知らずに「ルルーシュと少女を助けるため」ランスロット搭乗を決心し、敵捕捉の手柄よりも人命救助を優先するスザクの人道主義との対比が顕著だ。

Stage 3 偽り の クラス メイト

【物語】クロヴィスの元に潜入し、ギアスで母殺しの首謀者を聞き出した後、射殺したルルーシュ。翌日、学園に行くと、久しぶりに登校した病弱な女生徒・カレンが、レジスタンスの少女だと気づく。ギアスで彼女が同一人物である事は確認できたが、続けてシンジュクのことは忘れろと命令するが通じず、逆に声の主かと怪しまれてしまう。お互いに隙あらば始末しようと考え、カレンはナイフを突きつけ問い詰めるが、ルルーシュはトリックで疑いを解く。【解説】学園色が強く、ナナリーも登場。ルルーシュの「妹思い」に注目。腹違いの兄を射殺した翌日、生徒会の仕事をするルルーシュと、病弱と偽り欠席中にレジスタンス活動をするカレン。彼女が物陰で蜂を手刀で仕留め「病弱なんて設定にしなきゃよかった！」と叫ぶシーンは必見。また、カレンへギアスの力を使った際に、同じ相手に二度使えないことが判明する。ギアスの力は万能ではなく、使い方をルルーシュは少しずつ覚えていく。

Stage 4 その 名 は ゼロ

【物語】スザクはクロヴィス殺害容疑をかけられていた。カレン達レジスタンスは、声の主と名乗る仮面をつけた男・ゼロ（ルルーシュの扮装）に会い、スザク奪還を持ちかけられる。強い自己顕示欲を持つ純血派の筆頭・ジェレミアによって護送されるスザクに愛国ブリタニア人の罵声が浴びせられる中、ゼロが現われる。ゼロに以前クロヴィスから奪ったカプセルを見せられ、毒ガスと思い込むジェレミア。さらに収賄疑惑を示す「オレンジ」と言われ、ひるんだ隙にギアスを使うゼロ＝ルルーシュ。ジェレミアはスザクを「全力で見逃せ！」と大衆の目前で命令する。ゼロはスザクに自分たちの元へ来ないかと誘うが、スザクはゼロに礼のみ告げ、軍事法廷へ自ら向かう。【解説】ジェレミアの「全力で奴らを見逃すんだ！」発言がやはり注目。「オレンジ」と共に公式でも使われる程に親しまれている。今のところジェレミアがギアス一番の被害者かも。報道に熱中するディートハルトも存在感にも注目。

>>>>> Stage 5 皇女と魔女

【物語】死んだと思われたC.C.は何事もなかったようにルルーシュの屋敷にいた。一方釈放されたスザクは、空から降ってきた夢見がちな少女・ユフィと知り合う。彼女はスザクにシンジュクゲットーを見せてほしいと頼むが、観光気分のブリタニア学生をイレヴン（ユリナハの住民）の若者が取り囲む騒ぎに巻き込まれる。一方、競技場跡地ではキューエルによるジェレミア粛清が行われそうになる。ランスロットで粛正を制止するスザクに割って入ったユフィは第三皇女ユーフェミア・リ・ブリタニアだと名乗る。彼女は冷静かつ有能な新しいエリア11総督・コーネリアの妹だった。【解説】「男は床で寝ろ」発言、勝手にピザを注文など、C.C.の傍若無人さに注目。スザクら名誉ブリタニア人の辛い立場が描かれており、ルルーシュとスザクは思想がほぼ同じだが、全く違う結論を出している点にも注目したい。さらにユーフェミアと共感したスザクはブリタニアに居場所を築き始め、ルルーシュとの決別を予感させる内容だ。

>>>>> Stage 6 奪われた仮面

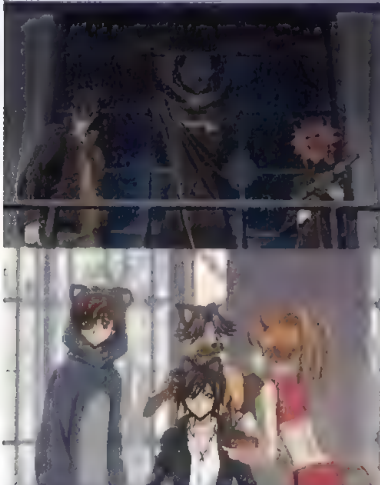
【物語】ルルーシュが何か大切なもの（実は仮面）を猫に持ち出されたとナナリーから聞き、きっと彼の「恥ずかしい物」であると考えたミレイが「部費上乗せと生徒会メンバーからのキス」を賭けて、全校挙げて猫を捕まえさせるというお祭り騒ぎに。その中で、学園に転入したが容疑者扱いされ、陰湿な嫌がらせを受けているスザク。しかし、猫を追ったルルーシュが屋根から転落しかけるのを救ったことで、生徒たちに受け入れられるようになる。一方、クロヴィスの葬儀が盛大に営まれ、ブリタニア皇帝が「弱肉強食こそ進化の源」と演説すると、人民は「オールハイルブリタニア」と声をそろえる。【解説】深刻なタイトルだが、ルルーシュが「ゼロ変装セット」の仮面部分を猫に奪われ、かつ追いつけないという、彼が結構抜けているという弱点を見せる話である。ラストに薔薇を持って微笑むクロヴィスの遺影をバックにした皇帝演説は、ガンダムのガルマ葬儀で演説するギレン以上の迫力だ。

>>>>> Stage 7 コーネリアを撃て

【物語】サイタマゲットー包囲作戦を大々的に行うコーネリア。無論ゼロ捕縛のための罠である。あえて乗ろうとするルルーシュに、C.C.は「契約を果たす前に死ぬな」と銃を向ける。だが、ルルーシュは死を恐れないことを示す。サイタマでもシンジュク戦と同様にテロリストを動かすルルーシュだったが、コーネリアは親衛隊を差し向け、ルルーシュが奪って搭乗しているナイトメアに面通しを命じる。危機に陥るルルーシュだったが、その時、ゼロ（正体はC.C.）が現れ、隙を見て逃走、激しい屈辱感を味わう。【解説】回想シーンの父皇帝による「お前は生まれた時から死んでおる」宣言がルルーシュの人生観に影響を及ぼしているのは明白だ。とはいえ一筋縄ではいかないコーネリアと親衛隊に惨敗し、ルルーシュも未熟な少年であることが描かれている。また、学園では恋バナに熱中するシャーリーや一人パソコンを操るニーナがいい味を出している。スザクの食べたセシル製ブルーベリージャム入りおにぎりも強烈。

>>>>> Stage 8 黒の騎士団

【物語】河口湖で日本解放戦線による人質テロ事件に巻き込まれた生徒会女子三人組。怯えたニーナは思わずテロ犯をイレヴン呼ばわりしてしまい、さらに怒りを買う。人質の中で身分を隠していたユーフェミアが、見かねて名乗りを上げる。妹を溺愛するコーネリアは、人質に妹がいるため強行突破できない。それに気づいたゼロは、テロ首謀者の元へ乗り込み、意見の違いを確かめギアスの力で自決させる。だが、ユーフェミアに銃を向け、クロヴィスの死に様を語る。スザクは不利な陽動作戦を成功させるが、ホテルは崩壊してしまう。スザクは人質を救えなかったことを嘆くが、メディアにはゼロと救出された人質が写されていた。レジスタンスと共に、ゼロは「黒の騎士団」の名乗りを上げる。【解説】ブリタニア打倒を目指すレジスタンス組織が決して一枚岩でない事がはっきりとする。この中で、自分達「黒の騎士団」の役割を「正義の味方」である、としたルルーシュの人心掌握術に注目したい。

>>>>> Stage 9 リフレイン

【物語】カレンはブリタニア名門の令嬢だが、ブリタニア人の継母の家の使用人として、父親にすがりつくように暮らす日本人の実の母を軽蔑している。カレンは黒の騎士団の一員として、社会悪を断罪する覆面の正義の味方・ゼロと行動を共にすることを決意する。相変わらずイレヴンへの差別は横行し、そんなイレヴンの間に過去の栄光を思い出させる薬・リフレインが蔓延。その製造・密売ルートを壊滅させようとする黒の騎士団。その倉庫で、薬にすっかり蝕まれた母を見たカレンは、強い憎悪をもつが母の「ずっとそばにいるから」という言葉から自分を思う母の真意を知る。母には禁固刑が下ったが、カレンは母のため世界に変えることを決心する。【解説】8.5話でルルーシュの軌跡を描いた後、スポットが当たったのはカレン。名門の令嬢だがレジスタンスである彼女のバックヤードが語られている。一方で、ジェレミアとヴィレッタが途切れた記憶の手がかりとなる「学生」(ルルーシュ)を怪しみ始める。

>>>>> Stage 10 紅蓮 舞う

【物語】日本解放戦線の本拠地、成田連山へコーネリアの軍が奇襲をかけると知ったルルーシュは、新たにキョウトからブライと、カレンの搭乗機である純日本製の「紅蓮弐式」を得た黒の騎士団と共にナリタへ向かう。日本解放戦線はコーネリアの軍に圧倒され、ひるんだ黒の騎士団でも内紛が起きかけるが、ゼロは「奇跡を起こす」と宣言。それは、紅蓮弐式の輻射波動で大規模な水蒸気爆発による山崩れを起こさせ、コーネリア隊を孤立させることだった。作戦は成功したが、ルルーシュの前にジェレミアが立ちはだかる。だが、紅蓮弐式の威力になす術はなく、コックピットごと放り出されてしまう。いよいよ本陣に乗り込むのみ。【解説】新型機の山中での攻防戦を軸に、ルルーシュとC.C.の「正義の味方の顔ではないな」などのセリフの応酬にも注目。ディートハルトの黒の騎士団への接触、ナリタ麓の「コードR研究データ」も気になるところだ。

幕末機関説
いろはにほへと
ＧｙａＯにて
毎週金曜日正午放送

…の書き手で戯作者。…剣の腕も確か…も厚い。

旅一座「遊山赫乃丈一座」を率いる座長。普段は女であることを隠し、男装している。

秋月耀次郎
（CV：浪川大輔）
…「覇者の首」封印の使命を負った「永遠の刺客」。

歴史の陰には、世に混沌を招く「覇者の首」と呼ばれる存在があり、手にした者は"天下"をわがものに出来るという。そして、この「覇者の首」を封じようとする「永遠の刺客」の存在。この二つの対立が歴史を変革してきたとする説を「機関説」という。

時は幕末、永遠の刺客、秋月耀次郎は、横浜の地で子供を助けたことから、遊山赫乃丈（ゆやまかくのじょう）の率いる旅一座と出会う。この一座は仇討ちの相手を追っていたが、その敵の背後には「覇者の首」が……。

『幕末機関説 いろはにほへと』は、『装甲騎兵ボトムズ』や『ガサラキ』などを手がけた高橋良輔氏が総監督をつとめる本格時代劇。インターネットの動画配信サイト・GyaOにて毎週金曜日に1話ずつ更新、1話につき2週間というペースで公開されている。

アニメと現実が交錯した空気感が高橋アニメの魅力だが、本作では勝海舟や西郷隆盛、坂本龍馬など実在の人物が登場し、秋月耀次郎も「かつて坂本龍馬を守れなかった用心棒」という過去を持つ。キャラクターも凝りに凝っていて、第一話の山岡鉄舟VS茨木蒼鉄の殺陣からして美しい。史実を踏まえつつ、謎の美剣士や邪剣士や悪の豪商、そして維新の志士たちが織りなす歴史のうねりを目撃せよ！

坂本龍馬
（CV：山寺宏一）
…藩浪士。勝海舟に師事し、神戸海軍操練所の設立に奔走。長崎にて日本初の貿易会社となる「亀山社中（のちの海援隊）」を設立。薩長同盟を締結させ、大政奉還を成し遂げた。慶応三年十一月十五日、京都「近江屋」にて何者かにより暗殺される。

…により、幕臣・勝海舟の護衛に就くが、その行動には謎が多い。「覇者の首」を追いかける耀次郎と対立し、彼の前に幾度も立ち塞がる。

いわゆる勝海舟。幕府軍事取扱。大政奉還後の幕府側の代表者。

Lantis

見逃すな！ 2大アーティスト ライブ追加公演決定!!

2.18［日］東京厚生年金会館

開場17:00／開演18:00
料金（税込）：全席指定 ¥6,000（整理番号無し／ドリンク無し）※6歳未満は入場不可
問］ちけっとぽーと 03-5403-3330　フューチャーシンジケート」 03-3586-1489　主催

ちけっとぽーと 03-5403-3330　電子チケットぴあ 0570-02-9994　ローソンチケット 0570-000-463
CNプレイガイド 0570-08-9977　イープラス http://eplus.jp

ちけっとぽーと 03-5403-3330　電子チケットぴあ 0570-02-9999・0570-02-9966（Pコード：248-740）
CNプレイガイド 0570-08-9999　ローソンチケット 0570-00-0777・0570-084-003（Lコード：36215）
イープラス http://eplus.jp

1.8［月・祝］名古屋：愛知厚生年金会館
開場17:00／開演18:00 ［問］キョードー東海 052-972-7466
主催

1.13［土］福岡：Zepp Fukuoka
開場17:00／開演18:00 ［問］キョードー西日本 092-714-0159
主催

1.14［日］大阪：NHK大阪ホール　SOLD OUT!!
開場17:00／開演18:00 チケットセンター 06-6233-8888
主催

1.20［土］東京：東京厚生年金会館　SOLD OUT!!
開場17:00／開演18:00 ［問］ちけっとぽーと 03-5403-3330
フューチャーシンジケート」 03-3586-1489
主催

1.21［日］東京：東京厚生年金会館　SOLD OUT!!
開場15:30／開演 ［問］ちけっとぽーと 03-5403-3330
主催

1.27［土］仙台：Zepp Sendai
開場17:00／開演18:00 ［問］G/i/P 052-972-7466
主催 TBC

料金（税込）／※6歳未満は入場不可：［大阪／名古屋／東京］全席指定¥6,000（整理番号無し／ドリンク無し）
［仙台／福岡］1F自由¥6,000（整理番号あり／ドリンク代別途¥500）［仙台／福岡］2F指定¥6,000（整理番号なし／ドリンク代別途¥500

特別協賛：　協賛　後援：ランティス　企画制作：ランティス／フューチャーシンジケート」
協力：スターカラオケ　招聘：エイベックス・ライヴ・クリエイティヴ（東京公演のみ）

TVアニメ
「スーパーロボット大戦OG ディバイン・ウォーズ」
オープニング主題歌
Break Out
NOW ON SALE!!
LACM 4310 ¥1,200（税込）

SSI（スーパー スピリット・インスパイア）テーマソング
RISING FORCE
2.21 ON SALE!! LACM 4344 ¥1,200（税込）

オフィシャルサイトホームページ
http://www.jamjamsite.com/をチェック!!

2月17日（土）サンプラザホール

開場17:00　開演18:00
料金：全席指定・¥5,500（税込）※6歳未満は入場不可
［問］ちけっとぽーと 03-5403-3330　フューチャーシンジケート」 03-3586-1489　主催

追加公演チケット'07年1月28日［日］発売開始!!

ちけっとぽーと 03-5403-3330　CNプレイガイド 0570-08-9911　イープラス http://eplus.jp
電子チケットぴあ 0570-02-9991　ローソンチケット 0570-084-633

ちけっとぽーと 03-5403-3330　CNプレイガイド 0570-08-9999　イープラス http://eplus.jp
電子チケットぴあ 0570-02-9999　ローソンチケット 0570-000-777
（Pコード：248-739）0570-02-9966　（Lコード：36216）0570-084-008

名古屋 2007年2月3日（土）愛知厚生年金会館
開場17:00 開演18:00　［問］キョードー東海 052-972-7466
主催：東海ラジオ

大阪 2007年2月4日（日）NHK大阪ホール
開場17:00 開演18:00　［問］キョードーチケットセンター 06-6233-8888
主催：ラジオ大阪

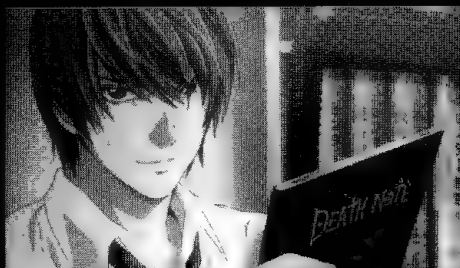
東京 2007年2月10日（土）東京厚生年金会館　SOLD OUT!!
開場17:00 開演18:00　［問］フューチャーシンジケート」 03-3586-1489
ちけっとぽーと 03-5403-3330
主催

料金：全席指定・¥5,500（税込）　※6歳未満は入場不可

協賛：　後援：ランティス　企画：アシッド／ランティス　制作：フューチャーシンジケート」

"栗林みな実"の現在がここにある
書き下ろし中心の全12曲オリジナルアルバム
fantastic arrow
LACA-5588 ¥3,000（税込）
発売元 ランティス　販売元 キングレコード

デスノート
アニメ「DEATH NOTE」
日本テレビ系毎週火曜日24:56～放送中

Animation

DVD「DEATH NOTE」
第1巻：好評発売中/第2巻：1月24日発売/発売元：「DEATH NOTE」製作委員会/販売元：バップ

文／和智永妙

「デスノート」このノートに名前を書かれた者は死ぬ。退屈な死神が人間界にノートを落とし、拾った夜神月（ライト）は新世界の神になるべく、キラとして悪に対する裁きを開始した。そして、キラを大量殺人犯として追う名探偵L――。社会現象となった大ヒット漫画のアニメ化作品だ。大場つぐみ・小畑健によって緻密に計算され、完成度が非常に高い漫画原作を、アニメはかなり忠実に再現している。「ノートに名前を書くことが攻撃方法」という、表現によっては地味になりうる設定を、競技かるたのように腕を振って名前を記入、と大仰な描写にしたり、月とLの頭脳戦の口火である「小型テレビを菓子袋の中に潜ませる」描写も劇画的に表現したりと、ケレン味が溢れる。イラスト風の原作の雰囲気を壊さずに「動き」を意識し、あえて古風な分割画面を使うなど、未読の視聴者にとって楽しめるだけでなく、原作ファンにも「月とLが絡むシーンはどう動くのか？」「Lのカポエラは？」という期待を抱かせるのに十分な出来だ。なお、西尾維新による小説『DEATH NOTE アナザーノート ロサンゼルスBB連続殺人事件』を正史として扱ったり、リュークの声が劇場版と同じ中村獅童だったりと、他メディアとのリンクも楽しめる。

DEATH NOTE デスノート

Movie

デスノート　前編
2007年2月14日/DVDレンタル開始/発売元：バップ

先だって完結した実写映画版は、前後編4時間程で原作漫画12巻分をなぞるには無理があるため、大幅にエピソードを削り再構成し、原作のゴシックな雰囲気よりも現実感を重んじている。

実写版の月はすでに大学生になり、司法試験に合格しているという設定。月は藤原竜也が演じ、原作の野心的な月に比べ、「育ちがよく、法を重視する善人」という性格が強調されている。月はノートを拾った当初葛藤するが、法の限界を知り悪の裁きを始める。前編のラストではLから派遣された捜査官南空ナオミを怪しまれずに始末するため、幼馴染の秋野詩織（映画オリジナルキャラクター）まで自ら殺し、捜査陣の前で嘘の涙を流すという、より「人間の恐ろしさ」を感じさせる展開となった。逆にL役の松山ケンイチの再現度は高く、容姿のみならず並外れた甘味好きや動物的な仕草は、原作派を唸らせた。脇役には「仮面ライダー響鬼」の細川茂樹、「ウルトラマンマックス」の青山草太など特撮ファンの心をくすぐる役者を起用。前編は月がLのキラ捜査陣に加わるところで終了し、後編では月とLのさらに本格的な頭脳・心理戦が描かれ、原作とは違う結末に辿り着く。もう一つの「デスノート」を堪能しよう。

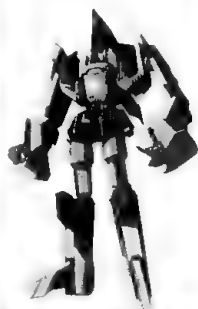
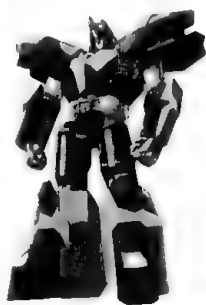
文／廣田恵介
©藤原忍／ダンクーガノヴァ製作委員会
獣装機攻
ダンクーガノヴァ
DANCOUGA NOVA

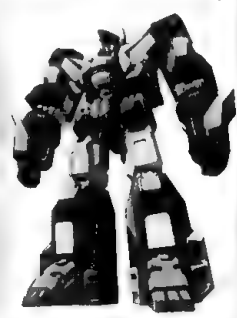
飛鷹葵
（CV：池澤春菜）

加門朔哉
（CV：鈴木達央）

館華くらら
（CV：桑島法子）

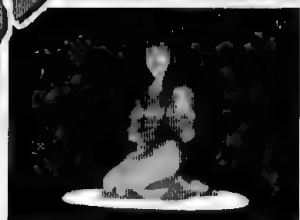
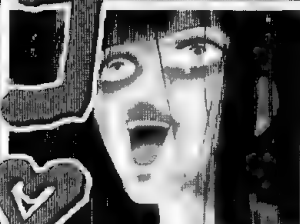
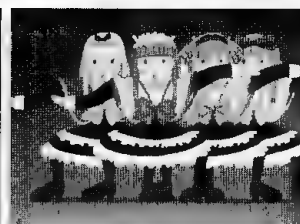
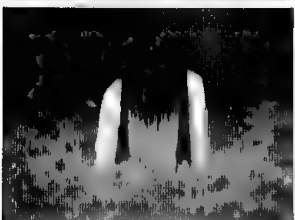
ジョニー・バーネット
（CV：泰勇気）

ノヴァイーグル

ノヴァライノス

ノヴァライガー

ノヴァエレファント

1985年は、ロボットアニメにとって節目の年だった。『機動戦士Zガンダム』では、「リアル」と謳われていたはずのモビルスーツが飛行機に変形し、玩具展開を前提にしないOVAという商材で『メガゾーン23』が大ヒットした。『超獣機神ダンクーガ』がテレビ放映されたのは、そんなロボットアニメ混沌期の85年春のことだった。

4人の若者が、4台の獣型マシンに乗り込み、それらが合体して無敵の巨大ロボになる……という合金玩具のセールスを見込んだ懐かしのフォーマット。ところが、肝心のダンクーガの初登場は第16話。しかも、ロボットの等身や体型が設定画と大きく異なり、パースの効いたポーズで派手に描かれていたのが衝撃だった。その傍若無人のアレンジを当時は「バリしてる」と呼んだ。語源は、デザイナーの大張正己氏の苗字から。彼が描くと、四角いはずのダンクーガがシャープに決まり、「バリ」してしまう。「バリ」こそは85年のロボットアニメ界の最先端モードだった。

そして、あれから22年。「バリ」の生みの親、大張正己氏自らが監督となって『ダンクーガ』が帰ってくる！　大張監督といえば、『超重神グラヴィオン』シリーズで合体ロボット物が2000年代にも成立しうることを証明した立役者。今回の『獣装機攻ダンクーガノヴァ』では監督だけでなく、もちろんデザインも担当。堂に入った「バリ」っぷりは、各メカのイラストからも強烈に伝わってくる。また、コンセプトデザインに超合金で知られる玩具界の草分け、村上克司氏が参加しているのも気になるところ。首藤剛志氏によるストーリーは、局地戦の絶えない22世紀の地球が舞台だ。世界各地の戦場に現れる謎のロボット、ダンクーガ。その前に現れるライバル、そして真の敵……と、現代的でありながら、まごうことなきスーパーロボット物のテイストが香る。しかも、声優陣に「やってやるぜ！」でファンを魅了した矢尾一樹氏の名前が！　単なるリメイクを越えた作品を期待したい。

ヤマトナデシコ七変化♥

大家のオバちゃんから「姪のスナコを立派なレディにしてくれたら家賃タダ！」の命を受けた恭平・武長・蘭丸・雪之丞のイケメン4人組。自信満々で引き受けたのはいいけれど、やってきたのは超ネクラで切株系ホラーと人体模型が大好き、しかも男嫌いなうえ、いるだけで周囲の空気を凍り付かせる最凶少女‼ 登場時点で既にマイナス針振り切りな彼女を素敵なレディへと導くべく、4人の無謀で長い闘いが始まる……。

文／天野裕之

『別冊フレンド』（講談社）で大人気連載中の同名コミックが原作。ひとりのヒロインを中心に据えて複数男性が絡む〝逆ハーレムもの〟といえば『桜蘭高校ホスト部』が記憶に新しいが、本作がそうした女子向け逆ハーレムものと圧倒的に違うのが、登場キャラクターたちの破壊的な個性である。

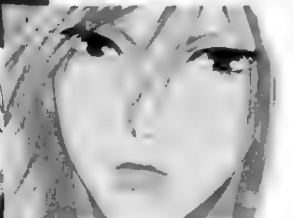
だいたいヒロインのスナコからして、先述のように暗黒趣味バリバリなホラー女。しかもイケメン軍団を恐れ、鼻血を吹き出しつつ殺害をも企てる（しかも死体を想像してウットリしてるし！）、そんな危険人物オーラをビンビン放っている。

さらには自身にピンチが訪れると、途端に目もくらむような美少女に変身し、タイトル通りの「七変化」であらゆる困難を解決するスーパーレディぶりを披露。もはや個性的を通り越し、完全に突き抜けている。

いっぽう迎え撃つイケメン衆も、

一方、いざという時のスナコはこの通り。強くて美しいレディに変身するぞ!!

普段のスナコはこの通りのSDキャラ。そのドス黒思考で周囲を暗黒面へと誘う!!

四人組中最も冷静沈着な武長。でも恋愛には奥手で乃依のアタックにタジタジ!!

スナコと衝突も多い恭平だが、端からはお似合いのカップルに間違われる事も。

普通のラブコメならヒロイン級の完璧美少女・乃依。スナコ唯一の女友達だ。

美女なら誰でもお構いナシな女たらしの蘭丸。でもその情報網はバカにできない。

四人組一の常識人で心優しい少年だが、女顔&チビが災いして女装要員の雪之丞。

ケンカ上等の女難男・恭平をはじめ、無類の女好き・蘭丸に、いつも女装要員と化す雪之丞と「おまえら、スナコを何とかする前に自分を何とかしろ!」と言わずにいられない連中ばかり。さらには「地獄の黙示録」のキルゴア中佐もかくやのヘリ編隊で毎回登場する大家のオバちゃんや、武長大スキな暴走美少女・乃依ちゃん、そしてスナコ以上に謎の多いゴスロリシスターズなど、個性がインフレしまくった面々が画面狭しと暴れまくり、恐怖と耽美とズンドコギャグの波状攻撃を浴びせまくるのだ!

監督は「はれときどきぶた」「エクセルサーガ」の暴走ぶりでアニメファンに強烈なインパクトを残したワタナベシンイチ(通称:ナベシン)。昨年「はれぶた」の盟友・浦沢義雄と再びコンビを組んだ「練馬大根ブラザーズ」で、テレビアニメとしてはタブー寸前の社会派ネタに挑戦しつつ、本格的ミュージカルアニメという荒技をこなしたナベシンだが、本作でもその暴走ぶりは健在。原作のビジュアル系&ホラー風味を活かしつつ、相変わらず反則ギリギリのギャグ攻勢で、観る者をひたすら呆然とさせるのだ。もちろん監督本人もお約束で声優として登場し、ちゃっかりと劇中コーナー「レディへの道」のMCをゲットしたうえ、ドラマ内でも不意打ち的に出てくるウルトラ出たがりっぷりも相変わらず健在なり!

組織の「お祭り部隊」などと言われ、昼行灯なボス（本当は切れ者）に率いられた小隊……。と書くと『機動警察パトレイバー』の特車二課のようだが、『パンプキン・シザーズ』つまり陸軍情報部第3課、通称陸情3課は、ドイツを思わせる架空の帝国陸軍に属する戦災復興のために設立された課だ。

帝国とフロスト共和国の永きに渡る戦争、そして停戦から3年、戦災は飢餓・疫病・野盗化兵などを生み、国民に絶望感を植えつけていた。貴族出身のアリスは士官学校卒業の日に停戦の報せを聞く。一方、焦土と化した帝国辺境の村でそれを聞いた非公式部隊901ATT（対戦車猟兵部隊）所属のオーランドは、帰る場所もなく各地を放浪していた。オーランドはアリス、オレルド、マーチスと出会い、事件に協力して村を救った事を機に3課の一員となる。巨躯に似合わず優しい性格のオーランドだが、腰のランタンに蒼い光を灯すと、狂戦士を思わせる驚異的な戦闘力を持ち戦車に体一つで向かっていく。

ミリタリーアクションとしても見応えがあるが、3課メンバーそれぞれの戦争観や生き方の違いから生まれるドラマが重視される。戦争を経験していないが正義感が強く、武官出身の貴族であることを誇りに思いつつも、

文／和智永妙

飢餓に苦しむ人々から誤解を受けたり正義では通じない壁に当たったりと、悩みながらも自分のできることをしていくアリス。飄々としたナンパ男に見えるが、街のチンピラ出身ゆえ人々の痛みを良く知るオレルド。オーランドのいた「不可視の9番」を疑問視する常識派のマーチス。戦争を引きずり悪夢にうなされながらも、アリスをはじめとする3課メンバーを信頼し、戦災復興に生きる意義を見出していくオーランド。一見冴えないが、密かな情報収集に余念がない課長。ストーリーに明るさを添えるステッキンと、伝令犬マーキュリー。

アニメ前半は原作から短編をピックアップ、またはオリジナルエピソードで、3課メンバーの戦災に苦しむ人々との対立、そして交流を描くエピソードが多めだが、後半は過酷な「水道局」のエピソードが登場する。お祭り部隊と呼ばれる3課だが、任務への障害は多く上層部からの圧力も度々ある。タイトルに取られた3課の呼び名「パンプキン・シザーズ」とは、分厚い社会の欺瞞・腐敗を抉り出す事を、カボチャ細工用の鋏に例えたもの。なお、聴き応えのあるオープニング『蒼き炎』とコミカルなエンディング『GO☆マーキュリー』、どちらも3課をよく表している名曲だ。

文／廣田恵介

『ブラックラグーン』は大人のアニメだ。大人の条件とは持ち物にこだわりがあることだ。この華麗なガンアクション・アニメを見ていると確信が強まる。

全編にわたって「これでもかー」と弾丸の雨を降らせるレヴィの愛銃は、〝ソードカトラス〟。これは架空の銃で、改造のベースになったのはベレッタM92。ベレッタは映画と相性がよく、『ダイ・ハード』シリーズでブルース・ウィリスが愛用し、『男たちの挽歌』ではチョウ・ユンファがレヴィさながらの二挺拳銃でベレッタを撃ちに撃った。では、レヴィ愛用のソードカトラスの改造ポイントを見てみよう。印象的なのはグリップに彫られたマーク。頭蓋骨に剣を二本並べたお馴染みの海賊マークだが、その二本の剣こそが〝カトラス刀〟だ。なるほど、レヴィの銃さばきは海賊が剣を振るうがごとく軽やかで切れ味するどい。また、グリップ

は雪のようなアイボリー色で、ベレッタ特有の男臭さを脱臭しているのも大きな特徴だ。米軍の制式拳銃でもあるベレッタは、いってしまえばありふれた銃だ。が、その平凡さを逆手にとった小粋なカスタマイズぶりがソードカトラスの魅力であり、レヴィのこだわりというわけだ。

さて、そんなレヴィがソードカトラスを手放さねばならないのが＃19〜＃21にかけての日本編だ。"バラライカ"率いる"ホテル・モスクワ"が関東の暴力団に介入、レヴィは通訳役のロックの用心棒として来日する。そこで持たされたのが日本の裏社会でもお馴染みのトカレフ。だが、トカレフになじめないレヴィは在日米軍基地を経由させてまで、ロアナプラからソードカトラスを取り寄せるのだ。そこでレヴィはウインクをして一言。「やっとこさトカレフとおさらばだ。これがねぇと一歩も歩けねぇ」。実にさり気ないが、これ以上にレヴィとソードカトラスの関係を端的に言い表したセリフはない。レヴィにとって、「歩く」とは生死の境をまたぐことだからだ。そのためには、他人から宛てがわれたトカレフごときでは「一歩も歩けない」のである。

この日本編に登場する"人斬り銀次"は日本刀で弾丸をも両断する。「さすがに、それはウソだろう」という突っ込みは野暮というもの。持ち物なくして、その人となりは語れない。床に転がる薬莢ひとつにもズシリと人生を感じさせるアニメ、それが「ブラックラグーン」なのだ。

BLACK LAGOON
The Second Barrage 001
DVD 1.31 OUT
初回限定版／通常版
価格：¥5,775（税込）
初回限定版特典：原作者・広江礼威描き下ろしDVD-BOX（全6巻収録可能）
予約先着特典：メタルプレート付オリジナル携帯ストラップ
全6巻 毎月リリース予定
各2話収録/¥5,775（税込）
http://www.blacklagoon.jp/

かかしあさひろの
冬は…働いとけ。な。
ローライフキング
そのさん

アメリカ大好き!!
かかし朝浩です
HAHAHA
いや面白いですね
コードギアス
画面端が
焼けてきました
モニタ=ブラウン
です
誰への
悪意ですか
?
えーまあ
今回はですね
かかしだけた。
「いろはに」
大特集行こうと
思ってたんですけど

性質的には
見事に
「オトナアニメ」
なんだけどなあ
意外に幕末ってアニメの題材になってないのな。
ここでの
「オトナ」基準て
どこにあるん
ですか?
ひとつは!!
ぴし

完成度高すぎて
弄るところが
ありません。
最初から弄る気で
観ないで下さいよ

「子供には
見せられない」
やだ!!
消去法で
大人?

ついでだから「ひぐらし」の話だけど
内容はさておきあれ実はすごい作品じゃないかと思うんだ
元々すごいしさて置いていい内容でもないでしょうに
原作で竜騎士07氏は「選択肢は一切ないがこれはゲームである」と主張していた
ということはこれも「ゲーム」じゃないか⁉
あー何かホタなスイッチえってるなー
しかしコレが「子供に悪影響」と苦情が来たって聞くけど…
すはぁ
深夜一～三時子供にアニメ見せてる環境は子供に良いんですかねェ？
CV.茶風林
AT-Xじゃないんですか
あとそのコスどっちかっつうとキンリシンザンです。
まあネタバレになってもなんだし他の作品も…
わきまさみ調
「オトナアニメ」にふさわしいと言えば河森正治作品‼
ゼロ姉
妹
変形メカの大御所じゃないですか…
モロ子供向けでは？
今の河森作品見るべきはメカに非ず‼
これ…比喩にしてもなあ…
余計露骨でヒワイですね
H
「地球少女アルジュナ」も主人公カップルの初体験失敗とか
一話まるまる子作りの話とか（放送中止）
色々すごいので必見である
ザム
ザザ
マクロスZERO では一巻で南洋の孤島の恋愛風習が出てくるのだが…
・・・ヤリベエという棒を削って戸に挿し入れ気に入った男の棒なら女はついていくという代物
ズボッ
♡
さて後はアクエリオンだな‼
あたッ
ずぶ
だから最初から弄る気で観るなっつうのに。

まつもと泉 INTERVIEW

**超能力一家の長男、春日恭介が新しく引っ越してきた町で出会ったふたりの少女。
ひとりはミステリアスな不良少女、鮎川まどか。
もうひとりは、彼女を姉と慕う屈託のない少女、檜山ひかる。
ひょんなことからひかるに気に入られた恭介だが、まどかと恭介も惹かれあっていき――
『週刊少年ジャンプ』で84年に連載開始されるやいなや爆発的な人気を呼び、
87年からスタートしたテレビアニメも大ヒットを記録した
三角関係ＳＦラブコメ『きまぐれオレンジ☆ロード』。
そのＤＶＤ化を記念し、原作者のまつもと泉先生にロングインタビューを敢行！
まどかの元ネタはなんとあの……ファン必読！**

聞き手・文＝加野瀬未友

―まずは漫画家になるまでを教えていただけますでしょうか。

まつもと　生まれは富山県高岡市で、藤子不二雄先生の通っていた高校出身なんですよ。高校時代から音楽が大好きだったんですが、姉の影響で子供の頃から洋楽を聴いてました。高校はグラフィックデザイン科だったんですが、軽音楽部でバンドをやるために学校に行ってましたね。この高校は富山では音楽で有名だったんです。クリームのコピーバンドをやってたりしたんですよ（笑）。

　僕が高校生ぐらいになるとブリティッシュロックは斜陽になって、パンクが流行るんです。でも、僕は同時に流行ってたフュージョンのほうに行っちゃった（笑）。それから東京のデザイン系の専門学校に行きました。

―先生は子供の頃はどんな漫画を読まれていたんでしょうか？

まつもと　『鉄腕アトム』のアニメをリアルタイムで経験した世代です。手塚治虫先生や永井豪先生の作品を模写してましたね。特に、ＳＦ色の強い永井先生の作品には影響を受けていると思います。『ハレンチ学園』は『オレンジ☆ロード』に影響を与えていると思います。エッチな展開もある学園もの、という部分ですね。

　あと、姉が少女漫画が大好きだったので、それも一緒に読んでました。姉は漫画も描いていたんですよ。『りぼん』の一条ゆかり先生や陸奥Ａ子先生、弓月光先生なんかが好きでした。弓月光先生は少女漫画時代の作品の印象が強いですね。けっこうトンデモないＳＦギャグを描いていたりしたんです（笑）。

　少女漫画はＳＦもあるし、音楽の話もよく出てきたので馴染み深かったんですよ。当時の少年漫画では、そういったサブカルチャーが描写されることはなかったですからね。

「まつもと泉」は合同ペンネーム

―実際に漫画を描き始めたのはいつごろからですか？

まつもと　絵はもともと好きで描いていたんですが、きちんと漫画をペン入れしてまで完成させたことはなかったです。でも、デザイン学校でスクリーントーンやカラスロの使い方を憶えていたので、描けるだろうなあとは思ってました。学校を卒業してどうしようか考えた時、せっかくなので漫画を持ち込もうと思って、高校時代からの友達と一緒に完成させたのが初めての作品です。ネームは友達にやってもらって、絵は自分が担当してました。「まつもと泉」というペンネームはこの友達との合同ペンネームなんですよ。

―そうなんですか！　どんな漫画を描こうとされたんでしょうか？

まつもと　80年代はじめに『Ｄｒ．スランプ』や『すすめ！パイレーツ』といったギャグ漫画のブームがあって、それらを見てギャグ漫画を描きたくなったんです。流行ってる要素をすべてぶちこもうと、大ファンだった吾妻ひでお先生の漫画を読みまくって、不条理ＳＦギャグ漫画を描き上げました。

――なんか、意外と計算ずくじゃないですか？（笑）

まつもと　ほとんど『サルまん』の世界でしたね(笑)。ふたりで頭をくっつけあって「どうする？」「これだ！」みたいな（笑）。

　せっかくだから大手出版社に持ち込もうと思ったんですが、当時の『少年サンデー』はライバルが多そうなのでやめて、『少年マガジン』なら穴だろうと思って最初に持ち込みました。編集さんには「女の子が可愛い」と言われたんですね。「うちにはラムちゃんがいないよね」って。これも計算どおり（笑）。そこで漫画家のアシスタントにならないか？と誘われて、ラッキー！と喜んでました。

　調子にのって、せっかくだから『少年ジャンプ』にも持ち込みにいったんですけど、そこでその後の担当になる高橋（俊昌）さんに会って、すごく誉められたんです。高橋さんはちょうど同世代でまだ新人編集者だったんですよ。高橋さんも吾妻ひでお先生が好きで、話もいろいろ合いました。それで、『ジャンプ』にお世話になる決心をしたんです。

『オレンジ☆ロード』の誕生

まつもと　『ジャンプ』に行ってからは、江口寿史先生を意識しました。やっぱり江口先生の作品はどれも面白かったですからね。実は、『ジャンプ』でのデビューは江口寿史先生の穴埋めの2ページ漫画だったんです（笑）。急に連絡があって、二日で完成させました。

　当時、若手の漫画家はまず『フレッシュジャンプ』で連載をするんです。そこで何作か描いたんですが、ギャグ漫画はいまいちアンケート結果が悪い。そのうち、一緒にやっていた友人が就職することになって、漫画を続けるかどうか決断を迫られました。

　結局、ひとりで漫画を続けることを決意するんですが、ギャグ漫画はやめて、少女漫画の要素を少年漫画に持ち込んだ作品をやろうと考えたんです。ラブコメでも、少年誌のものより少女漫画風のものをやりたかった。『別マ』とか『りぼん』の作家さんの雰囲気……時代感や日常感を取り入れようとしたんです。絵の主線が徐々に細くなっていったのは、高野文子先生の影響ですね。それから描いた『パニックinオレンジアベニュー』が人気が出て、『ジャンプ』での連載が決まりました。

――かなり『オレンジ☆ロード』の原型が見える作品ですよね。「ひかる」という女の子が出てきますし、なによりタイトルも（笑）。

まつもと　パニック＝きまぐれ、アベニュー＝ロードですからね（笑）。

――『オレンジ☆ロード』のキャラクターはどんなふうに作られていったのでしょうか？

まつもと　ラブコメって、やっぱりヒロインのキャラクター次第で決まっていくと思うんです。単に可愛くて素直、だけでは自分としても描き続けられないだろうなぁ、と思ってました。あと、当時の漫画のヒロインは、学級委員みたいなエリートで、ショートカットの子が多かったんですよ。だから、それ以外にしたくて中森明菜や川島なお美をモデルにしました。あと、松本零士先生『男おいどん』に出てくるような絶世の美女との不釣合いな恋愛を話にしたかったんです。不良っぽい女の子が好きだったんですよ（笑）。なんか、そういう女性って手が届かなさそうでいいじゃないですか（笑）。そう

いったイメージがまとまって、鮎川まどかはミステリアスなヒロインになっていったんです。
「まどか」という名前は、ダディ竹千代&東京おとぼけCatsというバンドのボーカルだったまどかさん（さんままどか）という人が元ネタなんです。
――ビートたけしの前にオールナイトニッポンの木曜のパーソナリティだった人ですね（笑）。
まつもと　そうそう、最初は高岡で見たのかな？　とにかく衝撃だったんですよ。ロックバンドなのに演歌みたいなことをやってたり。それまで真面目にロックをやってたのがバカバカしくなるぐらいで。東京に来てからもライブにはしょっちゅう行きました。
――では、「鮎川」というのは……。
まつもと　シーナ&ロケッツの鮎川誠さんですね。
――やっぱり！（笑）
まつもと　『オレンジ☆ロード』では、ミュージシャンから一杯名前をいただいているんですよ。

『オレンジ☆ロード』は友情対愛情の物語

まつもと　実は、ひかるの兄の「研二」という幻のキャラクターがいたんです。『オレンジ☆ロード』を連載開始したときの『ジャンプ』の表紙にはこの研二の顔が出ているんですね。
　この研二はすごくカッコよくて、界隈の不良のボスみたいなヤツなんです。で、研二とまどかが付き合っていて、そこに恭介が入ってきて、という三角関係にするつもりでした。
――あ、なるほど！　まどかが不良たちに恐れられている描写がありましたが、不良のボスの彼女だったからなんですね。
まつもと　いわゆる〝姐さん〟ですね。でも、編集さんに「そろそろ研二を出しましょう」と言うと「まだまだ」って言われちゃうんです。そろそろかなぁ、そろそろかなぁ、と思いながらどんどん引っ張られていくうちに、コミックスが出たあたりで諦めてしまいました（笑）。だから、連載当初、よくまどかが遠くを見ているような顔をしている場面があるんですが、あれは実は研二のことを考えてるんです（笑）。研二が出て来ないことによって、なんか凄く思わせぶりな感じになってしまったんですけどね（笑）。まどかとひかると恭介の三角関係の話になっていったのは、自分でも本当に不思議でした。
　でも、『オレンジ☆ロード』は読者が話を作っていったという印象があるんです。アンケートでも、せつない話、心に傷を負うような話だとガクンと順位が落ちるんです。反面、恭介がすごく楽しい思いをするような話だと順位が上がる。
――そうやってだんだん恭介がモテモテになっていったわけですね（笑）。
まつもと　もう、作者ひとりでは話を変えられない（笑）。たとえば、まどかの髪型を「もうレイヤーじゃないだろう、これからはワンレンだろう」と思って変えたんですが、読者からすごい不人気で元に戻しました（笑）。だから、みんな、まどかとひかると恭介の関係の決着を見たくないんじゃないんでしょうか。楽しい状態のまま、引き伸ばしてほしい。その気持ちはよくわかるんです。青春時代のモラトリアムを楽しみたい、っていう。
　これは後から考えたんですけど、まどかとひかるは友情で、まどかと恭介、ひかると恭介の間は愛情。なら、愛情と友情はどちらが勝つの

か？　これが『オレンジ☆ロード』のテーマだったと思います。夢として描くのなら、愛情が勝つのではなく、友情に勝たせたかったですね。

アニメ版について

――アニメ版についてお聞かせください。

まつもと　最初の「ジャンプスーパーフェスティバル」版は、長崎で見たんですよ。なかなかスケジュールが空かなくて、唯一、長崎でのイベント日にだけ行けたんです。当日、長崎に行って、イベントでサイン会をやって、一泊して朝帰るという強行スケジュールでした。でも、初めて自分の絵が動いているのは感動しました。

その頃、体調が思わしくなくて、休載させていただいてたんですが、一年ぐらい経ってからテレビアニメ化されるという話になって、連載再開をしました。

――お好きなアニメ版というと、どれになるのでしょう？

まつもと　テレビ版ももちろん好きで、ちゃんとビデオに録って見ていたのですが、OVA版は35ミリフィルムで作られていたのでクオリティが高かったですね。OVAだと冬山の話（「白い恋人たち」）などスペクタルな話で、一味違った『オレンジ☆ロード』の一面が出ていて気に入ってます。

――『オレンジ☆ロード』の声優さんについてはいかがですか？

まつもと　あのメンバーが本当にベストです。まどかは鶴ひろみさん以外考えられません。古谷徹さんも、恭介役が大変気に入られているようで嬉しいですね。

――では、最後に、今後の活動について教えてください

まつもと　現在闘病記についての漫画を描いています。描き下ろし作品として発表する予定なので楽しみにしていてください！

■profile
まつもと・いずみ

58年生。『きまぐれオレンジ☆ロード』の大ヒットに至る道のりは本文のとおり。すべて初期短編集『Graffiti』に収録されている（現在絶版。残念！）。ほかの作品に『せさみ☆すとりーと』『EE』など。現在、最新作『幕末綿羊娘情史（ばくまつらしゃめんじょうし）』を準備中。また、長年苦しんできた脳脊髄液減少症の闘病記を描き下ろしコミックとして刊行予定（三五館より）。がんばってください！

まつもと泉・WAVE STUDIO公式サイト
http://www.comic-an.co.jp/

『きまぐれオレンジ☆ロード』シリーズ構成・脚本

寺田憲史 INTERVIEW

テレビアニメのシリーズ構成、脚本はもとより、ＯＶＡ版、劇場版、さらには小説版まで手がけた、もうひとりの『オレンジ☆ロード』世界の担い手がこの寺田憲史氏だ。マルチな才能を誇る氏が語るアニメ版『オレンジ☆ロード』！

――まず、寺田さんが『きまぐれオレンジ☆ロード』に出会った経緯をお教えください。

寺田　もともと、僕はラブコメを書きたかったんですよ。あの当時、『タッチ』とか『めぞん一刻』とか、あのへんが流行ってて。なんで俺に仕事がこないんだろう、と思っていたんですよ（笑）。それまではＳＦロボットものが多くて、『超時空騎団サザンクロス』（84年）とか『未来警察ウラシマン』（83年）とか。その頃、スタジオぴえろの布川（郁司）社長が「やってみない？」とおっしゃってくれまして。『ウラシマン』でもけっこう好き勝手にラブストーリーをやっていて、調子に乗っていた時だったんで、是非やらせてください、と。

――原作を読まれた感想は？

寺田　まどかがかっこいいな、と思いましたね。最初に印象に残ったのは、１００段の階段を昇って赤い麦わら帽子が飛んできてってところ。原作のあそこが上手いな～と思った。映像化したらいいだろうなあと思って。かなりのめり込みましたね。いわゆるラブコメの部分と、超能力もの、あとギャグパターンとパラレルワールドもの。４つぐらいの要素があるんですよね。それがいい感じに配分されていたんで、これはおもしろく作れるな、と。

――まつもと先生からの要望とか、逆に寺田さんからの要望などを交わしたんでしょうか？

寺田　まどかにアルトサックスを吹かせたいって言ったかもしれない。ただ単に、自分がジャズ好きだったもんだから（笑）。

――あ、まどかがサックスを吹くのは、寺田さんのアイディアなんですね。

寺田　セーラー服姿で、サックスを吹いたらかっこいいだろうなと思ったんです。あともともとテレビアニメも音楽的にもおもしろいものにしたいよな、と思っていて。まつもとさんも音楽がお好きなので、快くＯＫを出していただきました。

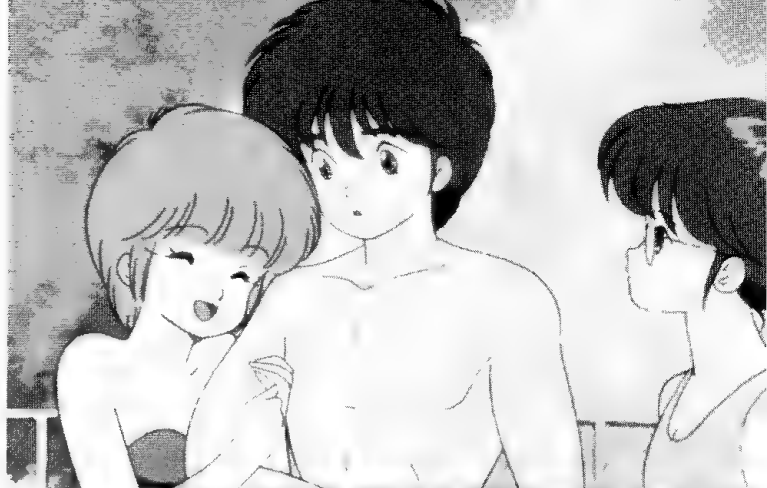
――アニメ化に際して、寺田さんのアイディアがどんどん採用されていったわけですね？

寺田　意外と好きにさせてくれましたね（笑）。東宝から唯一言われたのは「マーチャンダイジングになるものない？」って（笑）。それで、猫のジンゴロを考えたんです（笑）。

アニメだからこそ、キャラの内面が必要

――今回、あらためて観て気づいたんですけど、まどかたちは中学生なのにタバコ喫ったりお酒飲んだりしてますよね（笑）。原作どおりなんですけど、今のテレビアニメじゃなかなかできないかもしれませんね。

寺田　たしかに（笑）。原作では、まどかたちは最初、中学生なんですよね。途中で高校に入学するんだけど、実はアニメのほうは最初からだいたい高校生ぐらいの年齢設定でやったつもりなんです。高校生ならお酒ぐらい飲むだろうなぁ、って。

――同じラブコメでも、『うる星やつら』ならＳＦ、『タッチ』なら野球がありますが、『きまぐれ～』は

途中から超能力もほとんど出てこなくなって、三角関係だけで突き進んでいきますよね（笑）。しかも、それが1年続くってすごいと思いました。

寺田　よく許してくれたなぁ（笑）。後半は3人の関係がおもしろくなっちゃったので、そこを膨らませていったんです。もともとラブコメをやりたかったんですけど、超能力を使うとやっぱりある程度ギャグっぽい展開になっちゃうんですね。でも、考えてみれば、けっこうシリアスな関係じゃないですか。ひかるちゃんがあんなに真剣なのに、恭介は超能力でまどかとひかるの間を行ったり来たりしているわけで。だから、恭介が嫌な奴に見えないようにシナリオ作りの中ではけっこう気をつけてました。まどかも、気をつけないと嫌な奴になっちゃうんですよね。だから『あの日にかえりたい』（劇場版）で、ひかるちゃんに「まどかさんはずるいです」って言わせたりしたんです。3人の心の壁みたいなものは、とてもナイーブに扱ったつもりです。

——他に苦労した点などは？

寺田　いつも考えていることなんですけど、いわゆる単に〝つっぱった女の子〟なんて人間はいないと思うんですよ。例えばつっぱった女の子はひとりで泣くとき、どうやって泣くのかな、とか、いつもキャッキャと笑ってるひかるちゃんは寂しいとき何してるのかな、とか考えるんです。類型的なキャラクターではなく、アニメでも、というか、アニメだからこそ、キャラクターの内面に〝生〟なものが常にないとラブストーリーにはならないんじゃないかな、と思ってるんです。それをふんだんに出せたのは『オレンジ☆ロード』だな、という気がするんですよね。

——特に大きな事件があるわけではないので、山場を作るのは大変だったんじゃないですか？

寺田　例えば恋人が死ぬ話っていうのはよくあるじゃないですか。恋人が死ねば悲しいの当たり前なんです。普通クライアントはそういう話を欲しがるんですけどね（笑）。そういうのをドラマだって勘違いしている人が多いですよ。だけど、例えばひかるちゃんがどこかから帰ってきた、お土産をまどかに渡して、恭介にもお土産を渡す、その違いがあったとき、それでもうポンと波紋ができるじゃないですか。それだけで話はできるはずなんですよ。お土産を渡されたときの恭介の反応がまどかはつらかった、とかね。そこでわだかまりが生まれた恭介がひかるに言っちゃったことが、今度はひかるを傷つけちゃって、まどかが反省して、みたいな。それで恭介がおろおろして（笑）。それだけでシナリオは作れるはずなんですよ。別に戦争が起こらなくても、人が死なくてもいいんです（笑）。

——彼らの内面が、話の根幹を成しているアニメですからね。

寺田　尖がってる女の子がいたとしても、どこか寂しいからそういうふ

うにしてるわけだし。まどかにしても、恭介に何か言う。そうすると、言った自分に傷ついちゃったりする。そういうところを書いてやらないと、キャラクターの魅力が浮かびあがってこないんじゃないかな、と思うんです。

――今回、DVDがリリースされるわけですけど、放送されてからちょうど20年経っています。大人になった視聴者に『オレンジ☆ロード』のどういうところを観てほしいですか？

寺田　キャラクターそれぞれをただ一面性だけに描いたつもりはないので、その表に出ている面とその裏にある面をシナリオに書き込んだつもりなので、大人になられたら、たぶんそこにも気付いてもらえるんじゃないかな、と思います。

怒られるかもしれないけど、僕にとって『オレンジ☆ロード』は『北の国から』みたいなものですね（笑）。長い間付き合っているから、もうキャラクターたちがどんな台詞を言うのか、どんな行動をとるのか、血肉になっているんです。例えば恭介が40になっても、僕は書けると思いますね。

――なるほど、寺田さんの歌の中では『オレンジ☆ロード』が大河ドラマとしてまだ続いてるんですね（笑）。ありがとうございました！

■profile

てらだ・けんじ

脚本を担当したアニメ作品は『キン肉マン』『よろしくメカドック』など多数。ゲーム『ファイナルファンタジー』シリーズⅠ～Ⅲの脚本も担当している。『サンダーバード』のジェリー・アンダーソン原作アニメ『FIRSTORM』では監督を担当したマルチな才人。現在、アニメ制作現場を舞台とした実写映画進行中！

■DVD Release

きまぐれオレンジ☆ロード　DVD-BOX

THE SERIES（テレビシリーズ全48話）

特典映像：ノンクレジットOP＆ED・番宣スポット／ブックレット付　　初回生産分特典：鮎川まどか＆ジンゴロフィギュア（まつもと泉デザイン・監修）

¥29,400（税込）／東宝より、2月23日発売

きまぐれオレンジ☆ロード　DVD-BOX

THE OVA（オリジナルビデオアニメ全8話＋ミュージッククリップ集）

特典映像：未定／ブックレット付　　初回生産分特典：檜山ひかる＆ジンゴロフィギュア（まつもと泉デザイン・監修）

¥14,175（税込）／東宝より、3月23日発売　（画像は「THE SERIES」のものです）

音楽ライターが厳選!!

今、聴くべきアニメソング50

文／冨田明宏・前田 久

今や国を挙げてオタク文化を推奨する時代である。「人気声優のシングルがオリコン・チャート○位！」、「人気アニメ主題歌がAMAZONチャート○位！」、「A-POP、萌えソングって何？」、「アニソンの祭典、武道館で開催！」などのアニソンを取り巻く現象が、新聞やニュースなど、非アニメ媒体で報道される機会も多い。アニソン周辺が騒がしい、と感じているのはコアなアニメファンだけではない。ましてやコアなアニメファンであるならば、より濃厚な語りを欲しているはずだ。

アニソンは様々な音楽の影響を受けながら、「アニメに関連する音楽」と言う括りの中で多彩に変容を遂げ、独創的で個性豊かな文化を育んだ。アニソンの範疇には収まらない〈進化〉を遂げた菅野よう子、川井憲次、大嶋啓之のような作曲家達の楽曲も生まれた。一方では、雅楽を楽しむ作法でロックを語れないのと同じように、他ジャンルの音楽作法では評価出来ない、〈電波系〉など独自の価値観に基づく〈深化〉を遂げたものもある。

しかしここまで発展を遂げた現在のアニソン・シーンを充分に語れる媒体が、実はほとんどないに等しいのである。アニメ作品を語り、紹介する媒体がこれだけ増えた現在において、アニソンだけが無視されている。そう感じたのは筆者だけではないはずだ。既存のアニメ・声優情報誌の力不足と、音楽専門誌の勉強不足に原因がある。前者はファンのスタンスが強すぎ、加えて音楽を語る力を持たないために作品紹介すら満足に機能していない。後者に到っては、アニソンを知ろうともしなければ話題に上がることすらない。だったら、オトナアニメがやっちゃうもーん！ということで、今回は00年代にリリースされたアニメ関連楽曲で、なおかつアニメファンに向けて制作された楽曲に絞り、その中でも特に重要だと考えたものを選んだ。00年代で区切ったのは、年代的な区切りの良さは勿論、やり尽くされた「懐かしのアニソン」との差別化と、現在のアニソン・シーンの動向、傾向を知ってもらうためだ。並び順に関しては、配置の便宜上若干の作為はあるが基本的に順不同であり、作品の優劣順ではない。また00年代を語る上でエポック・メイキングになった作品やアーティストは、筆者の独断と偏見で大枠にした。ページの関係上、掲載出来る作品数や文字数も限られた。読者皆様のご不満は承知の上で、何卒ご理解願いたい。今回の企画が、今後のアニソン文化発展の為に撒かれた種になればいいなぁ、と心から願うばかりだ。（冨田）

01 桃月学園1年C組feat.片桐姫子
「黄色いバカンス」
『ぱにぽにだっしゅ！』

音楽番組で取り上げられるような類いのアニメソングを「表」とするなら、『ぱにぽにだっしゅ！』関連楽曲は裏番長とでもいうべき存在。当然、それは質の低さを意味していない。60's～70'sの湘南サウンド～GS～ゴーゴーサウンドを現代風に解釈したキレのいいサーフサウンドに、アニメ本編のスラップスティックなノリをなぞるかのような不条理な歌詞がのったアヴァンギャルドな楽曲を、声優ならではの表情豊かな歌唱（折笠verと雪野verを聴きくらべると、キャラクターソングの醍醐味が味わえる）でパッケージ。それによって角を取って丸くするどころか破壊力を増してみせるという荒技を達成したタイトル曲をはじめ、萌えを逆手にとってポップスというジャンルがもつ諧謔と快楽の要素を極限まで高めてみせた楽曲たちは珠玉の作品ばかり。監督の新房昭之は、『月詠 -MOON PHASE-』でDimitri From Parisや菊池成孔といった大物ミュージシャンを主題歌に起用し、『ネギま！？』ではキャラのセリフを楽曲に大胆にフィーチャーしたハードコアテクノ風萌えソング「1000%SPARKING!」を生み出すなど、昨今のアニソン界の「エッジ」の部分を語る上では外せない存在。（前田）

キングレコード／KICM3112／05年

02 堀江由衣
「心晴れて　夜も明けて」
『十兵衛ちゃん2～シベリア柳生の逆襲』

言わずもがな、絶大な人気を誇る実力派女性声優。楽曲提供アーティストの豊富さから彼女の持ち歌は驚くほど名曲揃いなのだが、今回は岡崎律子が生前、堀江のために書いた楽曲の中で「笑顔の連鎖」と並んで最も印象深い本作を選ばしていただいた。アニメ本編の主人公、菜ノ花自由を演じた堀江ならではの、自由の葛藤と気丈さを歌った歌詞が胸を打ち、話数が進むと味わいも深まる、感動的なシンクロ率の高さで涙を誘った。（冨田）

キングレコード／KICM3061／04年

03 下川みくに
「それが愛でしょう」
『フルメタルパニックふもっふ!?』

元チェキっ娘、という経歴を知るファンの方がもはや少ないのではないか。それほどに、今やアニソン歌手としての確かなポジションを築き上げた下川。アコースティックギターを効果的に用いた繊細な手つきのバンドサウンドに、自作の詞に乗せて柔らかだが確かな説得力に満ちた歌声が乗る本作は、そんな彼女の転機になった一曲。学園生活と戦争を行き来する主人公を見つめる、作中ヒロインの微妙な心情にも上手く寄り添っている。（前田）

ポニーキャニオン／PCCA01927／03年

04 CooRie
「センチメンタル」
『美鳥の日々』

「せつなさは疾走する」。ある文芸批評家がモーツァルトについて述べた言葉をもじって、CooRieの歌うアップテンポな楽曲に捧げたい。本作は、坂本真綾「プラチナ」あたりからアニメソング内での流行が始まった、小気味の良いストリングスによってサビへと勢いを上昇させていくスタイルの楽曲なのだが、潤みを帯びた瞳のようなCooRieの歌が入ると「せつなさ」としか呼びようのない位置へ聞き手の感情を運んでいってしまう。（前田）

ランティス／LACM4129／04年

05 涼宮ハルヒ（平野綾）
「God knows…」
『涼宮ハルヒの憂鬱』

小田原豊（ex.レベッカ）を始めとする腕利きのスタジオ・ミュージシャンによるタイトでハイエナジーなモダンパンク・サウンド。音楽と映像の強度が密接にシンクロした『涼宮ハルヒの憂鬱』１２話のライブ演奏シーンは、今年のネット上の話題をかっさらっていった。もどかしい感情を喉から出血するのも辞さない熱いシャウトで聞かせる平野は、元々ＵＳモダンパンクを愛聴する新世代型の声優。今後の歌手活動も期待される。（前田）

ランティス／LACM4268／06年

08 川田まみ 「緋色の空」

『灼眼のシャナ』

爆走するロッキンなトランス・ビートと火花散るギター・サウンドの衝突から「そして」と唐突な歌い出しで始まる。身構える隙を与えずに放たれた鮮烈な斬撃のような展開で、一気に作品世界に引き込まれてしまう。サイケ・トランスを基調とした、ジュノ・リアクターも顔負けのウネリまくるシンセ・サウンドにピアノやギターをアクセントにするなど、さすがはI've、芸の細かさがハンパではない。

川田まみも、ファンの間では〈まみブラート〉と呼ばれる特殊な響きを持つビブラートと気合みなぎる攻撃的な歌唱で、見事期待に応えた。彼女作詞によるアニメの世界観をなぞった美しい歌詞も特筆で、総合的に見ても、本作こそが現代アニソンの最高峰であると断言したい。

I've が札幌を拠点に音楽制作を始めたのが98年。KOTOKO、MELL、島みやえい子らI've歌姫と呼ばれる多数の実力派シンガーを擁する彼らの楽曲は、そのハイクオリティな曲作りで多くの人を魅了し、生み出したトレンドは数え切れない。現在はオリコン・チャート上位の常連クリエイター集団であり、05年は武道館公演も成功させた。(冨田)

ジェネオン/GNCA-0020/05年

06 福山芳樹 「キングゲイナー・オーバー」

『オーバーマン・キングゲイナー』

バンド「HUMMING BIRD」の活動と平行して『マクロス7』の主人公・熱気バサラの歌吹き替えとして活躍していた福山が、主戦場を本格的にアニメソングに移行して最初に関わったのが本作。田中公平の本領発揮といえる、分厚いコーラス・暴れるギター・筋肉質なブラスなど各パートが有機的に連関した怪物級の伴奏に、真っ向から立ち向かった限界突破の歌いっぷりは悶絶もの。井荻麟=富野由悠季の手による歌詞も熱い!(前田)

ビクター/VICL35427/02年

07 田村ゆかり 「恋せよ女の子」

『極上生徒会』

デビュー作で主題歌を任されるなど、活動初期から歌唱力に関して高い評価を得ている田村。要所で入る「GO!GO!」の合いの手も楽しいキュートな萌えボサノバで、ラウンジミュージックの新たな地平を開きつつ、彼女の実力と小悪魔的な魅力を同時に引き出したのは、作編曲で広く活躍する小松一也(Koma2Kaz)。アイドルマニアには、異様なノリのカルト・パーティソング「私の彼は石油王」を生み出したことで知られている。(前田)

コナミ/GBCM1/05年

10 千葉紗子・折笠富美子・川澄綾子・能登麻美子 「いちごコンプリート」

『苺ましまろ』

ジャニーズ関連アーティストへの作詞提供でも知られるくまのきよみと、G-クレフの元メンバーで最近は石田燿子との仕事で知られる渡辺剛作曲による、スカを基調としたオイ・パンクばりのキャッチーさを誇るシンガロング・ナンバー。イベントを見越して用意された絶妙な合いの手の間合いと、人気声優勢揃いの豪華さで一気にアニソン・カラオケの定番曲に。脳内をリフレインし続けるメロディは、アニソン屈指の中毒性を誇る。(冨田)

ジェネオン/GNCA-0013/05年

09 折笠富美子 「輪廻の果てに…」

『月姫』

凛とした声質で伸びやかに歌う折笠は、アニメとの接点も保ちつつ、夢幻の世界観を演出するオーケストレーションに繊細な芯を持たせている。2曲目のリミックスがこれまた素晴らしく、無機的な電子音を織り交ぜたカットアップとコラージュで原曲を再構築し、グリッジノイズまで躍動するエレクトロニカに仕上げ、原曲の世界観とのメタな異層空間を生んでいる。作曲はoranges&lemonsとしての活動でも知られる上野洋子。(冨田)

ジェネオン/PICA-0028/03年

11 MOSAIC:WAV
「最強○×計画」

『すもももももも～地上最強のヨメ～』

UNDER17後の萌えソング・シーンを一手に引き受けたようなハードコア萌え路線を、8 bit世代のレトロ・フューチャーなデジメロ感覚で回収したブッ飛んだ音楽性で、他の追随を容赦しない壮絶な作品。圧巻はBPMをブチ上げまくってパルス化した音速ビートで、間奏部はほぼブラスト・ビートか速射砲。まさに驚愕の秋葉原電波祭りである。小池雅也氏もギターで参戦したタイトル曲以外にも、同人時代の楽曲含めて佳曲多数。（冨田）

ランティス／LACM4313／06年

12 石田耀子
「OPEN YOUR MIND」

『ああっ女神さまっ！』

「乙女のポリシー」、「永遠の花」に続く、彼女の新たな代表曲と呼ぶに相応しい本作は、世界が認めるアニメ音楽の大家、田中公平の作曲。ケルティックなバイオリンの音色とアイリッシュ・ホイッスルを大胆に導入し、生楽器で静と動の交錯を雄大に表現。爽やかな高原と抜けるような青空を想起させる、プログレッシヴなフォークロア・サウンドだ。石田の無垢な歌声との相性も最高で、多重コーラスの美しさは鳥肌ものである。（冨田）

ジェネオン／GNCA-0007／05年

13 水樹奈々
「ETERNAL BLAZE」

『魔法少女リリカルなのはA's』

彼女の歌唱力は現在のJ-POPシーンを眺め回しても並び立つものがいないほど際立つものであり、女性シンガーとしての存在感も一級。堀越学園時代は演歌歌手を目指していたと言うだけあり、張りと伸びのある歌声は武道館の様な大舞台とも互角以上に渡り合った。オリコン・チャート2位を記録した本作は名匠、上松範康（栗林みな実の項参照）作曲。作詞は水樹本人で、「夜」を「かげ」と読ますなど、独創的な言葉遊びも白眉。（冨田）

キングレコード／KICM1148／05年

14 坂本真綾
「ヘミソフィア」

『ラーゼフォン』

近年、再び声優業で表に出る機会が増えてきたが、ちょっと前まではコアな音楽マニアを唸らせる歌手としての活動の方が前面に出ていた。彼女の透明感のある声は、素材として楽曲に完璧に溶け込むことで逆説的にその固有性が浮かび上がってくる。だからこそ本作のように目まぐるしいサウンドスケープの変化にも十全に対応できる。作詞曲は「プラチナ」をはじめ坂本といくつもの名曲を生み出してきた岩里祐穂・菅野よう子コンビ。（前田）

ビクター／VICL35358／02年

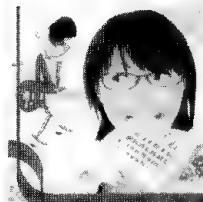
15 高田梢枝
「秘密基地」

『交響詩篇エウレカセブン』

多くのヒット曲を生んだ『交響詩篇エウレカセブン』の主題歌の中では異質なほど派手さの無い楽曲ではある。しかし唯一ハードコアなアニソン・リスナーを虜にする事が出来たのがこの曲なのだ。少年期の葛藤を紡いだ高田梢枝の詩と歌が、アニメ本編の主人公レントン少年との圧倒的なシンクロ率の高さを誇り、アニメ主題歌の役割を完璧に果たしていた事がウケた理由だろう。アニソン界での更なる活躍を切望する声は止まない。（冨田）

ソニー／SECL193／05年

16 UNDER17
「くじびきアンバランス」

『くじびきアンバランス』

後期アンセブはアーティスト桃井はるこの音楽性の幅と深さを隠さず反映させた楽曲が多く、どれもアニソンを語る上では極めて重要。本作も彼女のインディー・ロック～パワー・ポップ、嗜好がモロに出ており、片思いの切なさを綴った歌詞と相俟って、力強くも涙を誘う感動的な楽曲に仕上がっている。桃井の要求に巧みに応えるアレンジャー兼ギター職人、小池雅也氏の細やかな仕事も特筆。最強のアニソン・ユニットここに極まれり。（冨田）

ランティス／LACL4144／04年

19 岡崎律子
「Morning Grace」
『プリンセスチュチュ』

粉雪のようにヒラヒラと舞うリッツ（岡崎の愛称）のウィスパー・ヴォイスを聴いているだけで、胸がじんわり温かくなる。ワルツのリズムでクルクルと可憐に舞うプリマのように、美しく楽しげなムードがピアノ、オーケストラ、歌のシンプルな構成で繊細に紡がれる。詩を耳で追う度に込み上げる、どうしようもない感情を押さえなきゃならないのが、辛い。勇気と優しさと愛を歌で伝え続けたリッツ。彼女が残した功績は余りにも大きい。（冨田）

キングレコード／KICM3037／02年

17 栗林みな実
「翼はPleasure Line」
『クロノクルセイド』

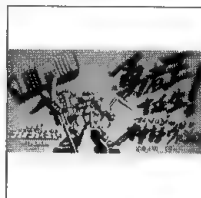
夏の青空を自由に滑るような軽快なメロディの疾走感と、豊潤な表現力で情感タップリに歌い上げげる彼女の歌声が存分に楽しめる。作曲者の上松範康は数々の名曲を世に放つ現代最高峰のアニソン・ヒットメイカー。ストリングス・アレンジの名匠としても名高く、流麗なストリングスとタメを効かせたブレイクの多用が楽曲に美しいコントラストを生んでいる。作詞は『涼宮ハルヒの憂鬱』関連CDでお馴染みの畑亜貴。（冨田）

ランティス／LACM4110／04年

20 時乃&律子（野中藍&小清水亜美）
「Harmonies＊」
『くじびきアンバランス Harmonies＊』

オレンジ色の西陽が揺れる通学路をそのまま楽曲に封じ込めたような、郷愁感溢れるピアノの音色が切なく胸を打つ。アニメ本編での、二人の微妙な幼なじみ関係のその先を予感させる歌詞も趣き深く、メロディの良さとキャラソンらしさもしっかりと際立った。カップリングの“heaven17girl”はダンスグルーヴ×渋谷系のいわゆる〈A-POP〉の王道とも言える楽曲。収録曲3曲全てがタイアップ付きと言うのも珍しい。（冨田）

ランティス／LACM4312／06年

18 遠藤正明
「勇者王誕生！」
『勇者王ガオガイガーFINAL』

監督・米たにヨシトモの情念が迸った歌詞に、田中公平の熱いメロディー、ゴージャスなオーケストレーションの技術に定評のある職人・根岸貴幸によるアレンジ、と三拍子そろった熱い楽曲に、遠藤正明の硬質で伸びるハスキー・ボイスが乗る、新世代の「燃えるアニソン」の嚆矢にしてひとつの頂点。シリーズ新作ごとにアレンジが尖鋭化されていき、最終的に、丸々一枚この曲のバージョン違いが収録されたアルバムが発売された。（前田）

ビクター／VIDL30470／00年

アニソンのレーベル買い
+ + + COLUMN 01

音楽マニアたちの文化に、アーティストや内容を知らなくても贔屓にしているレーベルなら買ってしまう〈レーベル買い〉と言うものがある。これは各レーベルが抱えるプロデューサー、アレンジャー、スタジオで生まれるサウンド・カラーに重きを置いた蒐集方法だが、最近ではアニソンでもレーベル買いをするコレクターが増えている。近年はアニソン・レーベルが数多く誕生し、それぞれが独自のカラーを打ち出してきた結果生まれた文化で、例えばビクターは牧野由依、See-Saw、坂本真綾などアニメ・ファン以外からも評価を受けやすい楽曲志向が強く、ランティスならガール・ロック系アレンジの楽曲やキャラソン、栗林みな実、Coolie、yozuca＊などのアニメ・ファンに向けた楽曲志向がより強いレーベルもある。他にもスターチャイルド、ジェネオン、アニプレックスなどそれぞれにカラーがあり、お気に入りのレーベルを見つけて集めてみるのも面白い。

24 AKINO
「創聖のアクエリオン」
『創聖のアクエリオン』

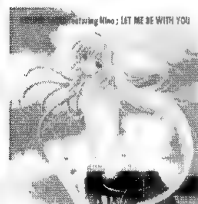
菅野よう子が手掛けた『マクロスプラス』のサントラ登場後と登場前で、アニメ音楽はニュー・スクール、オールド・スクールと言った分け方も可能なほど一変してしまったワケだが、本作も菅野が手掛けた河森正治監督作品の主題歌。サウンド成分は複雑だがサビでシンガロングに雪崩れ込む、菅野楽曲にしては珍しく合唱系アンセム仕様。コーラス・グループ「bless4」の次女、AKINOの卓越した歌唱力も衝撃的だった。(冨田)

ビクター/VICL35792/05年

21 angela
「shangli-la」
『蒼穹のファフナー』

「明日へのbrilliant road」で鮮烈デビューを飾ったアンジェラによる、これぞ21世紀の燃えるアニソン！　掻き鳴らされるスパニッシュ・ギター！　打ち鳴らされるピアノと打楽器！　炸裂するオーケストラ・ヒット！　そして中島みゆきをも凌駕したアクの強いヴィブラートと節回しで畳み掛けるatsukoの歌声！　圧倒的な熱量の奔流に飲み込まれる、ダイナミック極まりない楽曲だ。ロボソン分野での更なる活躍を期待したい。(冨田)

キングレコード/KICM3075/04年

25 ROUND TABLE feat.Nino
「let me be with you」
『ちょびっツ』

97年にデビューした「遅れてきた渋谷系」ことラウンド・テーブルがアニメ『ちょびっツ』のOP主題歌に提供した本作から、アニソンや声優CDの渋谷系化が一気に進行。その影響が現在まで止まず続いていることが、いかに彼らのアニソン参入がエポック・メイキングだったかを証明している。オシャレなストリングスに乗る軽妙なメロディ、愛らしくも切ないNinoの歌声。積載オーバー気味に胸キュン要素が詰め込まれた一品。(冨田)

ビクター/VICL35372/02年

22 suara
「夢想花」
『うたわれるもの』

人気インターネットラジオ「うたわれるものらじお」で認知度があがったアニソン界期待の新人（実はゲームの主題歌歌唱歴はそこそこ長いのだが）。オリエンタルな曲想に日本語の抑揚を辿った丁寧な歌詞がのった端正な作りのこの楽曲は、安定した中音域と綺麗な発声という特徴を持つ彼女の歌いまわしにピタッとハマった。歌い手とサウンドプロダクションチームの信頼関係が曲に結びついた、現代アニソンの現場を象徴する一曲だ。(前田)

ランティス/LACM4259/06年

26 MELL
「Red fraction」
『BLACK LAGOON』

I'veのダーク路線が、タフな奴等のシビアな世界を描いた作品という絶好のポジションを手に入れ、ついにメジャー解禁。あえて感情を押し殺したかのようなハードボイルドなキックの連発から、エフェクトをかけたスクリーム一呵、怒涛の勢いでサビへと流れ込む様は鳥肌もの。作品にかなり入れ込んだというＭＥＬＬの自作の英詞による怒りを吐き捨てるような迫力のある歌唱も震える。(前田)

ジェネオン/GNCA-0033/06年

23 See-Saw
「Obsession」
『.hack//sign』

祝祭感漂う民俗音楽からゴア・トランス、プログレッシヴ・ハウスのグルーヴ感までも取り入れた、電脳に埋没するアニメ本編の世界観との共振性も極めて高い楽曲。同年10月にリリースされた「あんなにいっしょだったのに」(『機動戦士ガンダムSEED』) はオリコン・チャート5位をマーク。梶原由記のソロプロジェクトから発展したFiction junction YUUKAの動向も含め、アニソン業界では極めて重要な存在である。(冨田)

ビクター/VICL35384/02年

29 eufonius
「Idea」
『ノエイン〜もう一人の君へ〜』

アニソンとして制作された彼らの楽曲は全てが重要作で、全部買え！と言ってしまいたいところではあるが、今回は悩んだ末にコレに決めた。近年活況を極める同人音楽シーンから登場した彼らの初期楽曲はメルヘンチックな北欧系フォークトロニカに近いが、本作はその透明感を活かしつつスリリングな曲展開と複雑な転調で、彼らの新たな地平を切り開いた。現在多方面で活躍する作曲担当、菊地創の名前だけは覚えておきたい。(冨田)

ランティス／LACM4223／05年

30 大嶋啓之feat.片霧烈火
「why, or why not」
『ひぐらしのなく頃に』

明かしてしまえば、本作との出会いが今回の『今聴くべきアニソン』を筆者が企画した理由の一つである。それは余りにも衝撃的な出会いだった。連続怪死事件と言うミステリーの古典とも言える題材をモダンに革新させた『ひぐらし』の世界。その鮮烈な後味を司る、極めて重要な位置を占めた本作の音楽性は驚くほど高度である。徐々に緻密さが増すビートで美しく妖艶なメロディ・ラインを紡ぐ斬新な曲構成、卓抜したセンスが漲る神経質な音選び等、聴き込む度に見えてくる本作を構成する要素は、世界中で活躍するトップ・クリエイターと言われるアーティストに比肩するレベルである。大嶋氏や彼とも関係が深い『Voltage of Imagination』のアーティストが活躍する同人音楽シーンが、現在のメインストリームを底から混ぜ返しかねないほど先鋭的な音楽を生み出していると知ったのも、その直後のこと。vo.は同人シーンが生んだ気鋭のマルチ・アーティスト片霧烈火。声音の色香を自在に操る彼女の真の才能を引き出した功績も、本作を語る上で忘れてはならない。『ひぐらし』×大嶋氏のコラボ続投を期待する、同人ゲーム時代からの熱狂的なファンの賞賛は今も止まない。(冨田)

フロンティアワークス／FCCM0136／06年

27 Ｌｉａ
「鳥の詩」
『AIR TV ver.』

２０００年代前半のオタク系楽曲からアンセムを一曲選べ、と言われたら迷うことなく本作を挙げる。ゲーム版でもアニメ版でもいいが、一度でも『ＡＩＲ』を最後まで体験したら、イントロのピアノフレーズだけで涙腺が決壊しないはずがない……と思わず痛々しく信仰告白をさせてしまうほどに、９０年代末から２０００年代中盤にかけて、現在十代から二十代のオタク青年の想像力を美少女ゲームメーカー「Ｋｅｙ」のゲーム、とりわけ代表作『ＡＩＲ』は決定的に拘束してしまったのだった。そのことを若干差し引いて以降は読んでほしいが、麻枝准の手による叙情性の高い歌詞、久石譲から古代祐三へと連なった「日本的」な情緒の系譜に連なる、折戸伸治の良い意味で朴訥な曲想、高瀬一矢の、風切り音を思わせるＳＥや作品世界に引き込むようなディープなキックといった、原案の持ち味を殺さない気の利いた編曲、そしてＬｉａの包容力の強い歌唱の絶妙な混成は、おそらく、再び同じメンバーで楽曲を作っても再現は出来ないだろう。時代がもたらす一回性の魔法が、本曲のオリジナルテイクには閉じ込められている。そこに思いを馳せるのも、アニソン聴取の、いや、音楽の醍醐味だ。(前田)

ビジュアルアーツ／KSLA4／02年

28 KOTOKO
「SHOOTING STAR」
『お願い☆ティーチャー』

I've が擁する"歌姫"たちの中でも、爆発的な声量と千変万化の表現力、伸びやかなハイトーンで「最強」の名を欲しいままにする彼女。バラードから電波ソングまで膨大にある持ち歌から一曲選ぶのは心苦しいのだが、ここでは作品のセンチメンタルな雰囲気を見事に音像に落とし込んでいる正統派泣きトランスの本作を挙げておこう。惜しげもなく投入された複数の美メロに、重層的にシンセ・サウンドを重ねた様は上質な絹織物のよう。(前田)

ランティス／LACM4045／02年

31 林原めぐみ
「サクラサク」
『ラブひな』

本特集で大御所・田中公平に並び複数の曲が取り上げられている故・岡崎律子。彼女が持っていた「陽」の側面の魅力が衒いなく発揮された、スピーディで愛らしいテクノ・ポップ。賑やかな音像をすっきりと聞かせる手腕は実に見事で、難病による早逝が本当に惜しまれる。岡崎にとっても、後の「メロキュア」につながる転機となった楽曲だが、同時にパワーポップ路線で円熟の時期に入っていた林原にとっても新境地を開く作品だった。(前田)

キングレコード／KICA506／00年

32 タイナカサチ
「disillusion」
『Fate/stay night』

あえて隙間を残した音作りで浮遊感を漂わせていた原曲を、押井守監督との長年のタッグで知られ、世界的な評価も得ている大御所・川井憲次が大人の雰囲気漂うスタイリッシュな楽曲へとアレンジ。サビ直前の駆け上がるようなストリングス、間奏のロマンチックなホーン、そしてイントロやラストなど要所で繰り出される、"川井節"とファンに称される、引き込まれるようなシンセ・ワークが、作品の深遠な闇の世界を幻視させる。(前田)

ジェネオン／GNCX-0003／06年

33 RYTHEM
「ホウキ雲」
『焼きたて!!ジャぱん』

『NARUTO』EDテーマ、『とっとこハム太郎』EDテーマ、そして『焼きたて!!ジャぱん』EDテーマと、アニメ鑑賞後のデザート的な立ち位置を確立してきた現役女子大生ユニット。公私共に深い友情で結ばれているという二人が、全くブレの無い呼吸と声音で、胸を締め付けるような黄昏色のメロディを歌い上げる。このコーラス・ワークの美しさは鳥肌モノである。中高生からの支持が厚く、長く愛される楽曲になるだろう。(冨田)

ソニー／AICL1585／05年

34 奥井雅美
「ZERO G」
『RAY THE ANIMATION』

自主レーベル『evolution』を率いる音楽プロデューサーとして、そしてアニソン界を代表する最強の女性シンガーとして尋常ならざる仕事量を誇る彼女の新たな代表曲とも言えるのが本作。複雑なリズムを刻むハイ・スピードなブレイク・ビーツ、歪みまくったモダン・ヘヴィネス級のギターがかなり強烈だが、奥井節ハイトーン・ハードな歌声はあくまでもクールに、しかし圧倒的な存在感を示す。頭上に輝く帝冠は伊達じゃない。(冨田)

evolution／EVCS-0005／06年

35 ALI PROJECT
「亡國覚醒カタルシス」
『.hack//Roots』

オリコン・トップ１０圏内の常連人気ユニット。サディスティックな世界観が魅力的な大正浪漫～昭和モダン・ムード漂う過激な絢爛舞踏曲だ。奇態なダンス・ビート、妖艶なストリングス、ヒステリックに咲き乱れる軍服アリカ嬢の歌声に、世のM男共は歓喜に震え咽び泣く。『愚カノ民ハ鏖(みなごろ)サレル』はアニソン史に残る怪文句で、SMホテルで撮影されたPVも壮絶。永世不出の存在感、アニソン界の至宝とは、まさに。(冨田)

ビクター／VICL36089／06年

36 三重野瞳
「Dearest」
『あぃまぃみぃ！ストロベリー・エッグ』

少年が抱える不安定な心情を歌で表現させたら右に出るものはいない、と筆者が勝手に主張している、アニソン歌手歴１３年、三重野瞳のアコースティック・バラード。誰もが頭を抱えた思春期の青さを、大切な相手を想い語り聴かせるように歌い上げた。快活で、真っ直ぐ歌を届けようとする彼女の声に宿る〈少年性〉はまさに唯一無二。その天性とも言える才能がこの一曲に集約されている。(冨田)

ビクター／VICL35271／01年

40 大槻ケンヂと橘高文彦
「踊る赤ちゃん人間」
『NHKにようこそ！』

文系ロック少年少女の永遠のカリスマバンド・筋肉少女帯の中心メンバーふたりが、ファンを公言する作家・滝本竜彦の作品がアニメ化されるにあたって久々にタッグを組んだのがこの曲。円熟した手つきで作り上げられた様式美溢れるメタル・サウンドに、葛藤が一周して開き直ったかのような潔い自己模倣ぶりを繰り広げる大槻の絶唱が重なる様は涙なしには聴けない。なお、このユニットが2006年末からの筋少再結成を生み出した。(前田)

ビクター／VICL36098／06年

41 牧野由依
「ユーフォリア」
『ARIA THE NATURAL』

例年よりも多くの名曲が誕生したと言われる０６年のアニソン・シーンの中でも、奇跡の様な完成度を誇る最重要作品である。水泡が弾けるSE、水滴が跳ねるように爪弾かれるピアノの音色、オーロラの様なストリングスの調べが、静謐な水面に広がる波紋のように響き渡り、丁寧に歌い上げるイノセントな歌声と徐々に絡み合う。後半の壮大な盛り上がりではアニメ本編の舞台、水の都ネオ・ヴェネチアの美しい街並みと、ウンディーネ達のゴンドラが水路を行き交う情景が浮かび、それだけで思わず涙が溢れそうになるほど。本作最大の魅力は何と言っても牧野由依の歌声。「ウンディーネ」と共に、彼女の心の底に染み入るような柔らかく愛らしい声の響きに、心捕らわれたアニメ・ファンは多いだろう。牧野は岩井俊二作品でピアニストとしても活動する現役音大生で、歌手、声優としての活躍が今後最も期待される逸材。作曲は英国王立音楽院で学んだ俊才、窪田ミナ。作詞はCM、ドラマなど多方面で活躍する歌手としても有名な河井英里。まさに生まれるべくして生まれた名曲ではあるが、『ARIA』の世界から溢れ出した魔法を感じずにはいられない、不思議な魅力と美しさを湛えている。(冨田)

ビクター／VICL35986／06年

37 サイキックラバー
「TAKE MY SOUL FOREVER」
『リングにかけろ！』

「歌謡曲＋正統派メタル」＝「ジャパメタ」の遺伝子を正しく受け継いだ、高いテクニックに裏打ちされたソリッドなギターワークとキャッチーな歌メロを持った本格派の音作り。そこに作品名を織り込んだ歌詞を嬉々として乗せる、新世代型のユニット・サイキックラバー。以前からファンだったという原作のアニメ主題歌であるこの曲では、キレのいいシンセアレンジの妙も受け、彼らの爽やかな持ち味が遺憾なく発揮されている。(前田)

ポニーキャニオン／PCCR90013／04年

38 yozuca*
「キラメク」
『女子高生GIRL's-HIGH』

ランティスのシンガーの中でも看板娘の一人に数えられる彼女。メディアミックス展開されたPCゲームの超人気タイトル『D.C～ダ・カーポ～』の主題歌「ダ・カーポ～第二ボタンの誓い～」のソフトなイメージ強かったが、ランティス・カラーとも言えるガール・ロックな本作のような楽曲にも柔軟に対応、シンガーとしての実力を見せ付けた。女の子らしい芯の強さや気丈さを漂わせる声質にやられたアニソン・ファン多数。(冨田)

ランティス／LACM4256／06年

39 savage genius
「想いを奏でて」
『うた∽かた』

2枚のシングルを残してワーナーからビクターに移籍。アニソン・フィールドへ活動の場を移した彼らは、切ないサビのメロディが印象的な本作でアニソン・リスナーを魅了、現在では「OUTRIDE06」に参加するほどの人気を獲得するまでに到った。アニソン界にその名を轟かす、ビクターが誇る名プロデュサー野崎圭一氏のアレンジが素晴らしく、音の層が複雑に絡み合う緻密なサウンド・スケープはまさに圧巻の一言。(冨田)

ビクター／VICL35714／04年

42 閻魔あい（能登麻美子）「かりぬい」

『地獄少女』

能登キャラソンの最高峰。感情の起伏を押し殺し、まるで人形のような無表情さで訥々と歌うことで、妖美な歌詞がより一層、クッキリと浮かび上がる。７０年代に大野雄二が手掛けた伝説のシンガー、佐井好子の妖気漂う世界に近い味わいを感じる。近年作詞家としても大成しつつある三重野瞳が作詞を担当し、作曲は坂本龍一のアシスタント経験もある、CM音楽やアニメ関係、特にキャラソンの作曲で高名な重鎮、西田マサラ。（冨田）

アニプレックス／SVWC7331／06年

43 ハレンチ☆パンチ「Doki!Doki! My Sister Soul」

『ちょこッとシスター』

井出安軌作詞、西田マサラ作曲、そしてハロプロ関連の仕事で有名な鈴木Daichi秀行編曲のエンディング曲でありカップリング曲の「ねこにゃんダンス」目当てのアニソン・ファンが多いようだが、タイトル曲にも注目。サビで差し込まれる裏打ちハイハットなど、トレンドもしっかり取り入れたビート感溢れるダンス・ロックに、プロデューサー野崎圭一の手腕が光る。夏の海ではしゃぐ様な３人の元気な歌声が癖になる楽曲だ。（冨田）

ビクター／VICL36092／06年

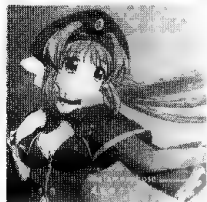
44 奥華子「garnet」

『時をかける少女（06年）』

ピアノの路上弾き語り等の活動経歴を持つ彼女の名前は『TEPCOひかり』のあの歌で一躍お茶の間に知れ渡ったが、本作は〈思春期〉〈性徴〉〈放課後〉〈夏〉などの、『時かけ』を彩る情景を言葉で切り取り、詩情溢れるメロディに盛り込む事で、実力派シンガー・ソング・ライターとしての才能も広く認知させる事になった。映画本編との効果的な相乗効果で、映画鑑賞後の爽やかなカタルシスはこの歌に縁るところが大きい。（冨田）

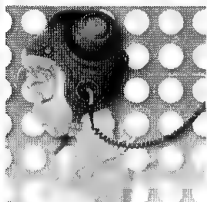
ポニーキャニオン／PCCA70148／06年

45 高橋洋子「metamorphose」

『この醜くも美しい世界』

奥井雅美と同じくユーミンのバック・コーラス出身と言う経歴を持ち、９０年代アニソン最大のアンセム「残酷な天使のテーゼ」のメガヒットで一躍トップ・アニソン歌手としての地位を築いた彼女が、「魂のルフラン」を作曲した大森俊之とのコンビで再びガイナックス作品の主題歌を担当。アニメのタイトルや本編が歌詞とリンクする、くまのきよみ作詞のアニソンらしさが存分に発揮された、力強くも母性的な印象の作品だ。（冨田）

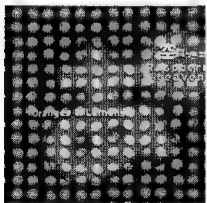
ジェネオン／GNCA-0001／04年

46 OKINO,SHUNTARO「Cloud Age Symphony」

『ラストエグザイル』

UKで巻き起こったセカンド・サマー・オブ・ラヴやマッドチェスター・ムーヴメントを日本で体現した９０年代の伝説的ロック・バンド、ヴィーナス・ペーター（０５年再結成）のvo,沖野俊太郎による本作は、バグパイプの音色やマンチェ～アシッド・ハウスのグルーヴを駆使した、疾走感漲るヘヴィなダンス・ミュージック。沖野の歌声が空を舞い上がるように広がり、アニメ本編のオープニングと奇跡的な融合を果たした秀曲。（冨田）

ビクター／VICL35484／03年

47 Oranges&Lemons「空耳ケーキ」

『あずまんが大王』

洋楽好きならニヤリとするユニット名である。「oranges& lemons」とは英国ヒネクレ・ポップの大家XTCのアルバム・タイトルであり、彼らの音楽性を継承したドリーミーかつ変拍子も多用したポップ・センスが本作からも溢れ出ているからだ。このユニットはアニソン界の重要人物、伊藤真澄＆上野洋子によるもので、『あずまんが』の世界に寄り添う愉快でエキセントリックな楽曲を生んだ。作詞はまたしても畑亜貴である。（冨田）

ランティス／LACM4053／02年

50 JAM Project
「Break Out」

『スーパーロボット大戦OGディバイン・ウォーズ』

正式名称「Japan Animation songs Makers Project」。アニメソング界を代表する歌手である「アニキ」こと水木一郎の呼びかけによって集まった、単独でも十分活動していけるだけの実績・実力を持つアニメソング歌手たちによるボーカル・ユニット（最初期は発起人の水木自身も参加していたが、現在では「非常勤」という位置付け）。結成から数年間はさかもとえいぞう（ex.ANTHEM、アニメタル）を初めとする何度かのメンバー移動や加入を経験したが、ここ数年は現メンバーで活動中。暗雲立ち込める大空を想起させるようなシンフォニックなイントロを切り裂く、稲光の如きギターの激弾きが、一瞬で聞き手を鋼鉄の巨体が飛び交う異次元の戦場へと誘う……。そんなロボットアニメソングの美学に溢れた導入部から、緊張感を保ったまま一気呵成に怒涛のサビへと歌い上げていく本作は、彼らの新たな代表曲と言って過言ではないだろう。もう迷いはない。ＪＡＭよ、僕はアニメソングに魂を惹かれた奴隷として、君たちに惜しみなく生涯の忠誠を捧げようではないか……と思わず紹介するこちらも『ＢＵ○ＲＮ!』調。アニソン初心者はＪＡＭから各々のソロへと広げる聞き方もアリだ。（前田）

ランティス／LACM4310／06年

48 エンジェル隊
「ギャラクシー☆Bang!Bang！」

『ギャラクシーエンジェル』

モーニング娘。以降、オタクと音楽の関係には、ライブの場を通じた「祭り」の感覚の共有が重要なファクターとなった。それにいち早く対応したのがブロッコリー。精力的な自社フェス開催と、それに合わせるかのような大人数対応のパーティチューンのリリースはアニメソングの風景を変えた。おもちゃの宝石箱を引っくり返してぶちまけたかのような、大人の悪乗り感漂うガチャガチャした賑やかさを持つこの曲は、その流れの代表例。（前田）

ランティス／LACM4014／01年

49 Sleepin' JohnnyFish
「テレスコープ」

『HAPPY☆LESSEN』

単純にギターが掻き鳴らされるオープニング。しかしパッと景色が変るような、それだけで耳を引き付けて離さない魅力がある。UHF局の深夜アニメの主題歌としては驚きのクオリティーで、０２年当時の２ちゃんねるアニメ板でも圧倒的な支持を集めていた。９０年代中期UKロック的な歯切れ良いサウンドと、青空へ駆け上がるような解放的なメロディは、爽やかな思春期のような甘酸っぱさ。残念なことに現在は活動を休止している。（冨田）

ポリスター／PSCR6046／02年

『現在のアニソン・シーンを支えるトップ・クリエイター』

+ + + COLUMN 02

最近のアニソンに興味を持ち、歌い手以外もちょいと掘り下げてみるとする。恐らく、やたらと同じ名前にぶち当たる事になる筈だ。それが菅野よう子や川井憲次クラスなら、アニメにそこそこの興味があれば分かるだろう。しかし例えば、編曲に西田マサラや飯塚昌明、作詞に畑亜貴やくまのきよみ、作曲に上松範康、梶原由紀、プロデュースに野崎圭一や矢吹俊郎、高瀬一矢となると、途端に？になる人もいるのではないか。上記に挙げた方々こそ、現在のアニソン・シーンを支えるトップ・クリエイターだ。飯塚昌明のように過去に表舞台で活躍していた人や、畑亜貴のようにアーティスト活動と並行する人もいる。J-POP等と同様にアニソンにも当然トレンドがあるが、アニソン・シーンのトレンドは、実は数少ない一部のトップ・クリエイターにより牽引されており、需要に供給が追いつかず常に引く手数多だ。アニソンは、彼ら裏方の存在を語れてこそナンボの世界である。

ランティス社長
井上俊次
対×談
影山ヒロノブ
ボーカリスト

写真／四宮 義博
文／冨田明宏

井上　はい、いいです（キッパリと）。

——（笑）では始めさせて頂きます。レイジーが解散して、一方は高崎（晃）さん、樋口（宗孝）さんのラウドネス。もう一方は井上社長、田中（宏幸）さんのネバーランド。そして影山さんだけがソロの道を選ばれて。一人の不安ってありませんでしたか?

井上　そんなのないよな?彼当時、センチュリー乗っててね。後ろにこう（踏ん反り返るように）乗ってな。

影山　マネージャーが買ってきた16万円のセンチュリーという高級車があって（一同爆笑）。何か知らんけど1日経つとサスペンションのエアーが全部抜けてね。それでガソリンを入れたときにそのエアーも入れて、グーンと上がって。次の日にまた迎えに来るとプシューッって戻ってて（笑）。先の事は、考えてなかったのかもしれないね。今思い返せば割と脳天気で。徳間ジャパンがまだ徳間音工と言っていた頃に移籍し1枚出したのかな。それもたいして売れなくて。ライブばかりやってました。そんな時にコロムビアの当時の学芸部ディレクターから「歌ってみない?」と言われたのが『電撃戦隊チェンジマン』です。そこからもう（現在まで）止まらず、という感じですよね。

——その頃、井上さんはプロデューサー業ですか?

井上　バンド活動をしている時、キティレコード（現在ユニバーサル・ミュージックに吸収）から『サイレントメビウス』のイメージ・アルバムのアレンジをやってくれという話があって。僕がアレンジするからバンドで演奏させてほしいとお願いしたら、「OKです」となったんですよ。それで何曲か依頼を受けてるうちに、これ全部やりたいなと。仕事を依頼されるじゃなくて、アルバムをトータルで、バンドで出来れば最高だなと考え方を変えて。それで麻宮（騎亜）先生に全部やらせてほし

て、でも全然売れなくてね。今度は
コロムビアに移籍して、アルバムを

いと話してね。いい先生で「どうぞ」ということになって。でもややこしいことがいっぱいあるじゃないですか、キャラクター使用料とか契約とか。角川（書店）さんにお話をしに行ったら「君そんな簡単なもんじゃないんだよ」って（笑）。僕フリーでしたからね。知り合いのレコード会社のデスクをお借りして、そこで契約を結んで、アルバムを何枚か作らせて頂いている間に、アニメのことを勉強したんですよ。それを1、2年くらいやってたよね?

影山：うん、やってたね。

井上：その時から彼に歌ってもらってて。レコード会社で1人アニメの部署やってました。「ちゃんとレーベル名を考えて」と言われてね。その時に麻宮先生に名付け親になって頂いて、「ランティス」と言う名前が出来たんです。当時僕1人だったから、アルバムを作っては、背中にポスターを付けてね。アニメ専門店を回ったりして。個人レーベルのランティスを全部1人でやってて、その後就職をして。それがエアーズという会社。でも『サイレントメビウス』がTVアニメ化される中で、突然その会社が新譜を発売出来なくなってね。その時そこで務めていた私を含めて4人でランティスをやろうとなったんです。

――アニメだけに特化した音楽出版事業に、可能性は感じていらっしゃいましたか?

井上　あまり考えてなかったですね。8月にエアーズがなくなるという話を聞いて、9月になくなったんですよ（笑）。たった1カ月。

影山　酷い世の中やね―（笑）。

井上　酷いですよ。『エクスドライバー』とか、『真ゲッター・ロボ～地球最後の日～』とか、OVAの音楽を作る打ち合わせをしていたにも関わらずそれがなくなってしまった。じゃあその作品をやる会社が必要だと。

――影山さんはいかがでした?

影山　チェンジマンをやったディレクターが他に担当していたのが『聖闘士星矢』『宇宙船サジタリウス』とかで、短期間にどんどんレコーディングを重ねていったという感じでね。当時のコロムビアってアニソンでは凄い勢いがあって。井上君は、エアーズという会社の時にかなり一緒にやりましたね。

井上　普通に「もう一回やろか?」と言う感じでね。バンダイさんとアミューズさんの会社だったので、バンダイ関連の曲は結構やった。その頃レイジーの再結成をやったりね。

――そうですよね、98年。

影山　そうだ、その時期だったね。

――今度はJAM Projectのお話を。結成の経緯と言うのは?

影山　さかもとえいぞうと、あるプロデューサーが2人で僕のところに来て、「アメリカでアニソンのライブをやりたい」と。そのためのユニットを作りたいと言ってきたんです。メンバーは僕と水木（一郎）さんと、さかもとえいぞう。その時、松本梨香を誘えないかと言われて。当時梨香はアニソン・シンガーの中で一番売れていたので（『めざせポケモンマスター』は150万枚以上のセールスを記録）。その話を井上君に話したら「やりましょう!」って。その頃、遠藤（正明）がエアーズで歌い始めていた頃で、『ストリートファイター（ⅠⅤ）』、『（魔装機神）サイバスター』とか。俺が遠藤も入れたいと話して、5人に決まって。でも本格的に動き出した頃にはそのプロデューサーどっか行っちゃってね。

井上　1、2カ月のミーティングで、アニソンをちゃんと作るチームにしようと志が変わってきてね。

影山：その頃アニソン枠がもろにタイアップというか、かなり目に付いてきた頃で。そういうの水木さん嫌いだったし、僕もそれはしょうがないけど、それはかりじゃないだろうと。もし自分が監督やプロデューサーだったら、自分の一生懸命作った作品に主題歌がないのは、悲しいだろうって。そう思ってくれている人が絶対いる、ファンも絶対待っていると。アニソンを守り続けていく、がコンセプトなっていきましたね。

――僕も今回『今聴くべきアニメソング』を50枚選ぶとき、アニメ本編

に関連していることと、アニメファンに向けて歌っているというのを基準に選んだんです。そういう事なのかなと今思ったのですけど。

井上 そうなんですよね。その作品専用の主題歌を作るというのが一番のテーマなので。

――ランティス設立、JAM結成。この00年代はどのようなアニソン・シーンだったと思われますか？

影山 なんやろ、僕がアニソン歌い始めた頃より、アーティスティックになってきたと思いますね。

――全体的にレベルが上がってきている？

影山 それもそうだし、もう昔のシステムだと人に伝わらないなと僕は思いますね。バンドなりユニットなり、作り手が自分でパフォーマンスするという。特に本物であれば、そうなってきていると思いますよ。梶浦（由記）さんたちのユニット（See-Saw）がそうだし。

井上 I'veさんもそうです。

影山 そう。武道館で『Anime Summer Live2006-OUTRIDE-』を去年に引き続きやりましたけど、やっぱり面白いなと思いましたね。ALI PROJECTとか、JAMはALIの後だったので横で見ていて、これは凄いわ、と。アレンジも、宝野（アリカ）さんの書く詞も、ファッションも含めたパフォーマンスも全て個性的。決して誰かに着せられた服、音楽性じゃないというか。そうじゃないとアニソン・ファンにも伝わらないと思うんです。

井上 僕は『アニメロサマーライブ06』のブッキングとトータルの演出をやらせて貰ったんですよ。去年の一回目、各レコード会社さんや各プロダクションとか色々な意見が交差する中、協力できない所とか、壁があったりね。でも結局あの日を迎えて、余裕で満員になって。どの人が出てきても皆暖かい拍手を送って、ちゃんと曲も聴いてきて、一緒に歌えるムードがあって。本当に、感動しましたね……。出演者たちが「自分達が歌ってきたこと、やってきたことは間違いじゃなかった」って、自信を持てた瞬間だと思うんです。

今までやってきたことは間違ってなかったと。そういう意味でもお客さんが成長してこられたというか。アニメの為の音楽、アニソンを歌っている人達の音楽が好きだという人が、あれだけいるというね。アニソン歌手も、大腕を振って歩けるポジションになったと、そういう気持ちになって貰えるには十分なステージだったと思うんです。

影山 それぞれがロック・フェスのスタイルでやったしね。

――『Anime Summer Live2006-

井上俊次
61年生。レイジー解散後いくつかのバンドを経てアニメ音楽のアレンジャー/プロデューサーに。ランティス代表取締役社長。インタビューでは泣ける話を沢山頂戴しました。

OUTRIDE」は本当に、ロック・フェスのノリでしたよね。アニソンのシーンが、音楽シーンとして成熟したと実感した瞬間でした。それではお二人は、今後のアニソン・シーンに何を求めていますか？

井上：ランティスの話をさせて頂くと、新しい人ウェルカムですよ。例えば劇伴を作る作家さんとか。ロボットから萌え系まで、新しい可能性を常に探しています。もっとライブハウスとかにも見に行かなきゃいけないなと思ってて。影山君のような

影山ヒロノブ
61年生。レイジー解散後アニメソングの世界へ。名実ともにシーンを代表する存在に。SOLID VOX代表取締役。1/8からJAM ProjectLIVE ジャパン サーキットがスタート！

人達に刺激を与える、若い人が出てきて欲しいと思いますね。

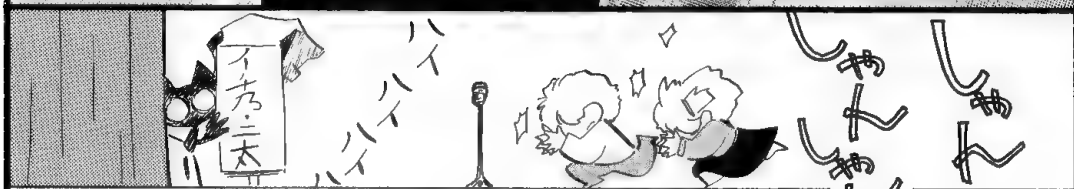
影山：アニソンをメインに作る人達ってあまり若い人出てこないよね。

井上：この前20代前半のアレンジャーの人と初めてやったんだよね、JAM。

——菊田（大介）さんですよね？影山さんは実際に、菊田さんや上松（範康）さんのチームとお仕事してみてどうでしたか？

影山：良かったです。メンバーもすごく新鮮だったみたい。福ちゃん（福山芳樹）とか奥井（雅美）ちゃんもチャレンジは大好きだし。自分達はチームで一緒にやるというスタイルを作ってきて、6年経ってその方法が出来上がった。でもJAMはその上でふん反り返っていては駄目だと思うんです。新しいものにチャレンジしていくユニットじゃないと駄目になる。そういう危機感が凄くあった。僕が作ったデモがハードなトランスだったので、だったらエレメンツガーデンのチームと一緒にやるのがいいと。

——影山さんのデモ段階で既にトランスだったんですか！

影山：うん。JAMは何でも生でやろうって、素晴らしいメンバーとやらして貰っているけど、いい意味でJAMらしく、悪い意味でマンネリというか。今の音楽って色々な形があるし、同じだと飽きられるよね。新しい事やりますよ。サウンドメイクも、もっと言えば詞とか曲とかもコラボしたり。皆がエーッ！と思う事をやりたい。昔の一流のアレンジャーって色々な洋服を着れる人が多かった。でも今って「嘘」という感じがする。トランスやりたかったらそれを普段やってる人と共演するのが一番本当だと思いますね。だから中世的な事をやるんだったらALI PLOJECTの片倉さんにアレンジしてもらうとか、JAMはシンガーのユニットだから可能だと思う。今までは完成度を求めすぎて冒険してこなかった。7年目にして、それを今テーマに掲げるべきだと思うんです。失敗を恐れず、面白いことをやりたいですね。

「アニメがお仕事！」な姉弟漫才…今回のお題は「主題歌」!!

※高倉佳彦　アニメーター。スタジオじゃんぐるじむを経て、本郷みつる、西村博之とともにめがてんスタジオを結成。『クレヨンしんちゃん』、スタジオぴえろの魔法少女シリーズなど数多くの作品で作画監督を務める。また、90年の『チンプイ　エリさま活動大写真』を皮切りに、『ドラミちゃん』シリーズ、『ザ☆ドラえもんズ』シリーズなどの劇場版『ドラえもん』の併映作品のほとんどで作画監督を務めている。

※『さすらいの太陽』の主題歌はスリー・グレイセス＋ボーカルショップが担当。二太が叫んでいるのは、堀江美都子が歌ったEDテーマ「心のうた」。

※『やさしくしないで』は『銀河鉄道999』劇場版挿入歌。実際の歌唱はかおりくみこ。『スプーンおばさん』の主題歌は飯島真理が歌った「夢色のスプーン」。「いまはおやすみ」は戸田恵子が歌った『機動戦士ガンダム』挿入歌。

※「ケロッ!とマーチ」は『ケロロ軍曹』初代主題歌。歌唱は角田信朗&いはたじゅり。「プリンセスはあきらめない」は『ふしぎ星の☆ふたご姫』主題歌。歌唱はFLIP-FLAP。

アニメのOP・EDにてきとおな歌ぁはめるのやめいっ
それじゃ
そのアニメだけにアニメの歌を作ってくれよ
歌でも激情かましてくれえ
アニメは歌のプロモの場じゃねーんだーっ
アニメを愛してくれえぇぇ
なぜフラトーン？
いいぞ——
二太——
そりゃありものでも演出ではまったりすることあるけど!!
魔女宅のユーミンとか!!
ラジオのシーンね!!
でも
でも
「新曲が一週間に一回流れるから都合いい」ってのやめれ——
子門派
水木派
佐々木派
あなたは何派？
ミッチの「ラ・セーヌの星」
……ねー♥
おわり 2006.

さらたね談

更科修一郎×多根清史

校了寸前のド深夜対談でお送りしている「さらたね談」。今回は『コードギアス』についてたっぷり語ってます！　そしてふたりの06年ベストアニメも発表！

司会・構成＝編集部（大矢）

——では、今月もよろしくお願いします！　まずは恒例の10月シーズン総括をば。

更科　録画を最後まで残したのが『コードギアス』『あさっての方向。』『009―1』『地獄少女二籠』『ブラクラ』『パンプキン・シザーズ』でしたね。

多根　『コードギアス』と『ブラクラ』かなあ。あと、『009―1』。

更科　『ときメモ』や『銀魂』も面白かったんですけど、さすがに毎回は録らなかったなあ。

多根　そのふたつは同列なんですか（笑）。

更科　同列です（笑）。『ときメモ』はツボに入る時はかなりのギャグアニメでした。『いぬかみっ！』とかと同系統の。

多根　あれは狙ってやってたんですかね？　まあ、今どき『ときメモ』をアニメでやるのがメタにおかしいんですけど（笑）。

多根　『009―1』は本当の意味で脚本がオトナアニメでしたね。

更科　渋い作品でしたねえ。

多根　21世紀にル・カレの冷戦スパイものをやるなんて渋すぎますよ。

——『ミステリマガジン』の世界だ。

更科　あと、作画はもちろんですが、脚本の石ノ森度が高すぎます。

多根　アニメ版は石ノ森より石ノ森度が高くありませんか？

更科　石ノ森の抒情系短編群から集中的にネタを拾っていたような感じでしたからね。その分濃縮されていたと思います。

多根　あと、ときどき石ノ森キャラのスターシステムをやってるんですよね。こないだも002と007がちょい役で出てきたんですけど、古城で惨殺されてました（笑）。

更科　009―3のキャストは平成版『009』と同じですしね（笑）。

多根　顔も同じ声も同じであの扱いかと（笑）。

『コードギアス』は多重構造アニメ

——10月シーズンの良作は、いずれも「渋い」ですね。『コードギアス』を除いて。

更科　いや、『コードギアス』も中身は割と渋いですよ。

多根　そうそう。『コードギアス』も「渋い」を狙ってるはずなんですよ。スパイスを大量に投入してますけどね（笑）。

更科　中身を包んでる糖衣がドンパッチなんです。

——派手な糖衣だなぁ（笑）。

多根　王様が若本節を全開してる若本ですしねえ

——谷口監督は某誌インタビューで、とにかくエンターテイメント性を重視している、と語ってましたね。

多根　『デスノート』を『テニプリ』演出するとこうなるぞって感じ。

更科　高橋＆富野に『デスノ』足して『テニプリ』演出っていう感じかなぁ。

多根　あのユルさは高橋＆富野＋『カードキャプターさくら』かもしれない。良い意味でごった煮なので、好きなように小皿に分けて食ってくださいという感じですね。

——当初、語られていた政治的な思想も、スパイスの一種になってるん

でしょうか？

更科　そのバイアスを逆手に取ってしまいましたからね。

多根　突き詰めるとややこしそうなので「正義の味方」の仮面をかぶってしまいましたよね。

――糖衣がドンパッチだなんて、エンターテインメントとしてはいびつだと思うんですよ。だって食べにくいし（笑）。でも、今、エンターテイメントとして成立させるには、それぐらいのインパクトというか、尖った感じが必要なのかもしれませんね。

多根　尖った感じで目を惹いておいて、やってることは学園異能テロ活動ラブコメですしね。

更科　嗜好の細分化に対応するために、各方面にそれぞれ突出したフックを作っていくのは、正しい手法ではありますよ。

多根　突出しないと生き残れない、かといって、濃すぎるとお客さんが付いてこない。そのさじ加減を今のところは誤ってないなと。

更科　『エウレカ』みたいにフックを全部外してしまって悲惨な物件もありましたけど。

――ある意味、対極なわけですね。猥雑な『コードギアス』と、スマートさを狙った『エウレカ』と。

更科　優等生タイプは今の時代、苦しいでしょうね。猥雑に行かないと辛い。

多根　やっぱシャワールームでドッキリ、というベタさが良いわけですよね。

――優等生といえば、今年は『ハルヒ』と『時かけ』という出来すぎたケースもありましたしね。

更科　優等生向けも結局下半身向けのフックがないと辛いというのは、あの二つを見ていて思ったですね。

多根　『エウレカ』は下半身なかったもんなあ。

更科　ああ、『エウレカ』は「パンツを脱いでない」んですよ。二重の意味で。

――一方、『コードギアス』には、がっちりとした下半身がある、と（笑）。

多根　『メガミマガジン』でもがっちりと下半身展開してますしね！　あれだけ見ていたら尻萌えアニメだと思いこみますよ（笑）。

――あれは凄いですよねぇ（笑）。でも、下半身ができてないと速い球は投げられませんし（笑）。

多根　猥雑さを嫌ったピュアなアニメはひ弱ですよね。

――ビジュアル面でもメンタル面でも、やっぱり下半身はあったほうがいい、と。それがスパイスなのかメインなのかは置いとくとしても。

多根　谷口監督の資質もあるとは思いますね。「かっこいい」をかっこ悪く、「かっこ悪い」をかっこよく描くのが上手い人なので。あれほど童貞を素晴らしく賞賛したアニメ作家はいない（笑）。「かっこいいってかっこ悪い」いと自覚できてる人なんでしょうねえ。

更科　でも、『コードギアス』の場合、かっこいいことより、笑えることを第一義にしたような気もしますけど。笑いで相対化できるようにしておくというか。

多根　ギャグでもシリアスでも、どちらでも見られる二面性が奥行きを与えてるんじゃないですかね。

――ツッコミを許容してる作品、って感じがしますね。ガチガチに固めた総合格闘技敵物件じゃなくて、隙だらけのプロレス的物件、というか。

多根　それと、今真っ向から「正義」を語るのは、こういう屈折した見せ方じゃないと気恥ずかしいだろうな、とも思います。ルルーシュは意外と本気で「正義の味方」してますしね。正義の味方って絶滅種だったでしょ。久しぶりに和むなーと。

更科　それはどうかな。あからさまに「正義＝自己肯定のための方便」でしかない、という描き方だから、オレは気に入っているんですけどね。

――やっぱり多重構造なんですね。

多根　誰もかれもが身内のためだ恋人のためだと目的を矮小化することへのストレスを受けとめつつ、自己肯定の方便という相対化も忘れてないバランスの良さですよね。

更科　だから、方便にひっかかっても中二病的な被害が少なくて済む、

という側面はありますね。そのあたりは上手いと思います。

多根　どの要素もノイズじゃなく等価に表現したいとさじ加減していて、ブレンドとしか言いようのない味わいになってますよね。

更科　正義の扱い方という意味でもね。

――今シーズンは『コードギアス』が頭ひとつ抜けてて、対抗がさっき挙げていたような作品、って感じなんでしょうかね。

多根　うん、総合力としては『コードギアス』が突出してるかな。

『ライオン丸G』は優しさでできている

――屈折した描き方、といったら、『ライオン丸G』もそうなんでしょうか。

多根　あー、エンケンが死んだ回が僕的には最終回かな……（笑）。

更科　なんだかんだ言って、バディものの成長物語になっていますね。屈折しまくってますけど。

多根　逆に正義に目覚めるという終着点をいいことに、野放図の限りを尽くしていたという清々しさを感じますよ（笑）。

更科　あと、登場人物への目線が基本的に優しい。どうしようもない奴でも、どこかで拾ってますから。

多根　拾われなかったのはジュニアの部下ぐらいですしね（笑）。あと、錠之介ってどんどん幼児化してませんか？

――錠之介って立ち居振る舞いは古典的なヒーローだったのに、童貞だったのがバレてしまったり（笑）。

更科　そこを見せないと一人だけ欠点のないヒーローとして突出してしまうので、むしろ作り手側の良心と見ていますけど。

多根　童貞にしたことで錠之介はドラマ的に救われたと思いますね。

更科　どこかで脆さを設定しておかないと、獅子丸との差が縮まらないからバディものにならないんですよ。

多根　歌舞伎町の正義って一体何やねん、といまだに分かりませんが（笑）。あの歩み寄るはずがない2人をバディにしたのはすごく上手いなあと。

更科　話は場当たりでもキャラクターを描くという点ではブレてなかったと思いますよ。

――最終的に、やっぱりみんなキャラクターを見てましたからね。

更科　その辺、すごく小池一夫っぽいですけど（笑）。

――『ライオン丸G』には小池一夫の精神も宿っていたんですね（笑）。

更科　『ライオン丸』→ピープロ→『ザボーガー』→小池一夫ですよ。小池一夫は『ザボーガー』の原案ですから。

多根　『ザボーガー』からつながってたのか（笑）。『ライオン丸G』が全13話かつ歌舞伎町限定なのに世界の広がりを感じさせたのは、あのドラマの酔歩っぷりのおかげでしょう（笑）。楽しい時間はあっという間に終わるなあ……と思いましたよ。

06年のベストアニメ発表！

――ここで、おふたりの06年のベストアニメを挙げてもらおうと思ったんですが。継続中の作品は外して考えたほうがいいですね。

多根　『それゆけ徹之進』かなあ（笑）。『徹之進』の盛り上がりはマジに気に入ってますが、共感を得にくいんですよ（笑）。テレビに限れば、『ハルヒ』『ホスト部』『ブラクラ』が鉄板かな。

更科　個人的には『地獄少女』がベストなので、『ハルヒ』『ホスト部』『ブラクラ』『009―1』『シャナ』あたりから、二位以下にどれを選ぶか、って感じ。でも、この中では『ハルヒ』が低いですね。

多根　『ハルヒ』はイベントというか、祭りとして楽しかった、というのがデカイですしね。

更科　あと、『ひぐらし』を忘れてた。まあ、順位つけるとしたら『地獄少女』『009―1』『シャナ』『ブラクラ』『ハルヒ』って感じかな。次点は『あさっての方向。』ということで。

多根　『ハルヒ』『ホスト部』『地獄少女』『ブラクラ』『009―1』か

な。次点は『徹之進』です！　あのシリアスな展開の中でゆるいギャグを入れる余裕が大好き。

更科　『ホスト部』や『ひぐらし』も捨てがたいんですけどね。

――では最後に、今後の注目作を挙げてみましょうか。

多根　『マイメロ』は言わずもがなとして。『コードギアス』、あと『天保異聞　妖奇士』の行く末ですかね。出来はいいんですけど、あの時間帯の視聴者には理解されていないんじゃないかな。

更科　オレは4月期になるんですけど、『クレイモア』ですね。

多根　あ、『クレイモア』がアニメになるんですか。『パンプキン・シザーズ』をさらに凄惨にした感じになりそう。

更科　制作がマッドハウスで脚本は小林靖子ですよ。

多根　ああ、異能者が一杯出ますしね。

――では、次号はそのあたりをまとめて特集しましょう！　って、前回の予告実施率が約1割なんですけど。

……前回の予告的中率はなんとたった1割！
それでも性懲りもなく打つ次号予告！
っていうか、社長、まだ続けていいの!?

前半期総決算！	『コードギアス　反逆のルルーシュ』
期待の新作！	『クレイモア』
特集するぞ！	『ひぐらしのなく頃に』
みんな大好き！	『魔法少女リリカルなのは』
ドリルドリル！	『天元突破グレンラガン』

ほか、『ゼロの使い魔』『地獄少女二籠』『009-1』
声優さんインタビュー、アニソン特集PART2
などなど、思いついたら即特集！

というわけで、
『オトナアニメVol.4』は
4月10日（ぐらいに）発売予定!!!

Information& Presents

人形アニメの最高峰が30年ぶりに公開！『ピンチクリフ・グランプリ』

超ド級！　超細かい！　だけど可愛くて愛らしい、それでいて永遠の男子のハートをこれでもかと刺激する人形アニメの最高峰が日本公開決定！　ロシアでもチェコでもない、ノルウェーからやってきた『ピンチクリフ・グランプリ』だ！　ノルウェー史上最高の観客動員数を誇り（今でも1位！）、各国の映画祭でも受賞の嵐！　でも、そんなことよりも一見してわかるその職人魂に震えるべし！　自動車工場の中のボルトひとつに至るまで見事に造形！　サーキット場のモブシーンは全員が動く！　ジャズバンドは演奏方法までビッチリ再現！　エクスクラメーションマークが多すぎる文章だけど、大声で言いたいから仕方ないよ！（逆ギレ）　一介の家具職人が生み出した究極の人形アニメを劇場で体験せよ！

メディア・スーツ配給、2月3日よりシアターN渋谷にてロードショーです。

話題のFlashアニメがついにDVD発売！『やわらか戦車』

「♪武器をもて！　武器をもてよ！　頭にちーくーわー」。ちくわうめぇ。もはや細かい説明一切不要、文化庁が主催する「日本のメディア芸術100選」のエンターテイメント部門で堂々1位を獲得！（3位がスーパーマリオ！）　そのほか、各アニメ賞などを総ナメしつつ、ネットにアクセスすればいつでも無料で作品が楽しめるカジュアルさが魅力の「やわらか戦車」を大画面で楽しもう！　というわけでいよいよDVD発売です！　全9話＋未公開1話をパッケージ。3月22日、ジェネオンエンタテインメントより退却開始～。¥2,940（税込）

アニメ演芸、次の注目株は梅本真里恵だ！

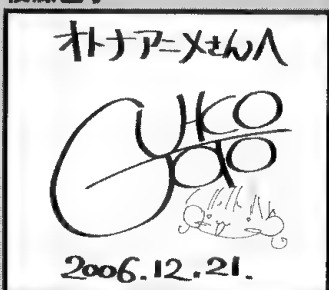
最近、お茶の間にも浸透してきたR-1芸人・若井おさむによる“アムロ漫談”、ア・バオア・クーでの戦いを見事に語りきる“ガンダム講談”の旭堂南半球とその一座などなど、アニメの新しい表現形態“アニメ演芸”が注目されつつありますが、その注目株といえば劇団・売り込み隊ビーム所属の女優・梅本真里恵でしょう。この人、たったひとりで『風の谷のナウシカ』全編2時間をステージ上で演じきってしまう！（マルセ太郎みたい……と言ってもわかんないかな）　再演望む！　あと、今度は『カリオストロの城』なんてどうですか？

サイン色紙プレゼント！　各1名様！

水樹奈々

影山ヒロノブ

小西克幸＆緑川ヒカル

後藤邑子

というわけで、今回はインタビューに登場していただいた皆さんのサイン色紙を各1名様にプレゼント！　ご希望の方は、付属の読者アンケートはがきに希望の色紙を明記のうえ、ご応募ください。締切は1月31日当日消印有効です。なお、次号から読者コーナーをスタートさせるので、何か書けば書くほど当選確率は上がります！（マジ）　「『オトナアニメ』って文字が余分だよなぁ～」とか言わないで！　ご応募、お待ちしております～

藤邑子
Goto
Interview
聞き手・文／富田明宏

―ズバリ、歌はお好きですか

後藤　今、凄く好きになってきたんですよ！

―以前はそうでもなかった？

後藤　以前はもう……好きどころか苦手中の苦手で。カラオケにも行かないタイプだったんですよ。中学のときにカラオケに行って「声が変だ」って言ってみんなに笑われてから、もうトラウマに。友達だから遠慮のない、忌憚のない意見で。「音痴な上に声が変」みたいな。それで私「ヒィーッ」ってなって（笑）、それから人前では極力歌わないように、事務所に入ってからも歌の仕事は極力断るようにしてて。でもデビューしてすぐ歌わざるを得ない状況になりまして。一発目のキャラソンは歴史に残るキャラソンで。もうAメロからはずしてるんですよ！「ああ！しょっぱなから！」みたいな（爆笑）。いま聴いても、結構脳にシビレがくる感じなんですけども。最近は電波ソングを歌うことが多いんですね。で、ワザとはずして歌ったりすることが多かったんですよ。「恋のミクル伝説（『涼宮ハルヒの詰合』収録）」の時も全然苦労はなかったんです。だって「みくるっぽくワザとはずして、おどおどして歌ってみて」って。テストで歌ったら「後藤さん凄い！はずし方が絶妙だよ！」って言われて（笑）。褒められてんだかなんだか……。でも「今の録っとけばよかった！」って勢いで、すぐ終わりました。

―それは才能ですよ。やっぱり歌っていうのは上手いだけでもつまらないし、キャラソンは特に「自分ではないものになる」と言う意味でも「味」が大事です

後藤　そうです。そう思いました。ランティスさんと色々アルバム出すので話し合った時もだんだんみんな精神論になってきて。「心だよ、心」「ノリだよ」「勢いだよ」って、そんな感じで（笑）。でも、私最近カラオケで歌うのラップが多いですよ。ケツメイシとか。最初ドラゴンアッシュから入って、それからZEEBRAさんを聴くようになって。ラップってカラオケで歌うの難しいじゃないですか。「こんなポンコツなZEEBRA聴いたことない！」って。ボン・ジョビもエアロスミスもみんな笑いながら聴いてくれますよ。

―（笑）丁度音楽の話が出たので、普段聴いてる音楽の話とか

後藤　凄く気に入って聴いているのはバンプ・オブ・チキン。メロディが好きで、あと歌詞が面白いじゃないですか。歌詞に惹かれることが多いですね。青春ソングがすごく好きで。少年マンガが好きだったっていうのもあるんですけど、男の人が青春を歌ってる曲がかなり好き。

―デビュー・アルバム（「GO TO SONG」）でも2曲で作詞をされてますよね。「キラリデイズ」と「ヨロシク・トゥモロー」と。苦労した事ってありましたか？

後藤　どっちも苦労はなかったんです。プロデューサーさんから「1曲書いてみない？」って言われて。「ぜひ書きたいです」って言って。「もう好きなように。思うように書いて」って言われたから「へぇ〜」って。家に帰って次の日の夜に、ちょっと青春を歌った「ヨロシク・トゥモロー」っていうタイトルでタカ

タカタカタカターっと書いて。深夜の3時に送ったんですよ。深夜テンションって書けるじゃないですか。「やっちゃえ、やっちゃえ」みたいな。そのノリで書いてパーンッとメールを送ったらプロデューサーさんから「うわっ君、変だよ！」って。「でも採用！」みたいな（笑）。私も最初さすがにボツるかなぁ？って。でも一気に詞が出てきたし、とりあえず送ったらまさかの採用で。暑苦しいのが書きたかったんです。

――だから一人称も「僕」だし

後藤　そうですね、そっちの方が書きやすかった。実はバイクの合宿免許をとりに行ったときのエピソードなんです。合宿の生活が終わる時が本当に寂しくて。社会に出たら夏休みってないのに、特別な夏休みをもらったような気がして。「これが最後の夏休みだなぁ」って。クラスメイトもみんなそんな感じで。凄く大事なものに思えて、終わるとき切なかった。

――やっぱり「とばすフォア」って、後藤さんの愛車、スーパーフォアのことでしたか

後藤　はい。この歌詞だから、氣志團みたいな曲を付けてくれるのかな？って思ったらとても綺麗な、爽やかな曲が付いたんです。

――だから余計に詞の切なさが際立っていましたね。

後藤　うん。ラップが好きだから、最初は全部が全部韻を踏んでいたんですよ。「それぞれのいでたち、すれすれのおいたち」とか。

――（爆笑）

後藤　いつかラップの詞も書いてみたいですね。詞を書くのって楽しいなぁって思ったので、また書きたいなって。もし頼まれなくても書き溜めしておこうかな、って思って（笑）。

――賛成です、作詞はぜひ続けて欲しいですね。「熱々ベイベー」は凄まじいライブ感でした。パンクもお好きなんですよね、ブルーハーツとか。甲本ヒロトさんは意識されました？

後藤　ああっ！意識すればよかった！あれはまさにライヴで。みんなから「後藤、バカ熱く歌って」って言われて。それで歌ったら、もう向こうのブースのなかで爆笑が（笑）。笑いながら「後藤いいよ！全然いい！」。でも出来上がってから「後藤は良かったのこれで？」って言われて。「OK出したやん！」みたいな（笑）。一度ラジオの公開録音で、アルバムの曲を3曲ぐらいライブで歌ったとき、やっぱり「熱々ベイベー」が一番気持ちよかった。

――橋本みゆきさんがアルバムに深く関わってますよね

後藤　はい、もうメチャメチャ関わっていただいて。一緒にブースの中に入って、私が歌いやすいようにずっと隣で歌って踊ってくれたんですよ。

――踊ってまでくれましたか！

後藤　そう。「ノリがいい曲だから踊りながらいこう！」って。それを4～5時間続けたんで。私は膝にきて、橋本先生は腰にきてて。「すごい辛い……」とか言いながら（笑）。結構ゆるやかな歌でも踊ってました。映像にしてお見せしたいくらいみゆき先生が頑張ってくれて。馴染みのディレクターさんが録ってくれたん

ですけれども、本当に徐々に「上手くなってきたね」って。昔と違って、今はねちっこく録るというか。「機械とかに頼らずに歌え」みたいな感じで1曲4〜5時間掛かったりしました。

――凄まじい数のキャラソンを歌われていますが、キャラソンを歌う上で意識することって何ですか?

後藤　まずそのキャラになりきってからマイクに向かう、ですかね。自分が「ここはちょっと叫びたい」とかいうときでも「でもこの子は叫ばない。この子らしく歌おう」っていう。逆に、自分にないほど元気なキャラが歌うときは限界を超えて元気にいこうと。演じる女の子が「こういう女の子になりたかった」っていう女の子が多いんですよ。おっとりしてて、可愛くて優しくて。

――歌うというよりも、演じるという感覚に近い?

後藤　凄く近いと思います。そうですね、歌うと演じるの総合みたいな。

――アニソン・シーンのターニング・ポイントになったイベント、『OUTRIDE06』。に出演されましたが、感想はいかがでしたか?

後藤　SOS団の他の二人(平野綾、茅原実里)は歌を目指していたので武道館が憧れの聖地なんですよ。私は武道をやっていたので別の憧れを持っていて、そういう意味でも聖地。武道館を外から見たときにまず緊張しました。「ああ、聖地に入る」っていう。また一緒にやるメンバーさんが物凄いメンツじゃないですか。子供の頃から聴いていたアニソンを歌っている人とか、今聴くような人も。だから「胸を借ります!」って感じで。ポップアップでステージに上がったときに「ウワァッ!」って歓声がきて、もう楽しくなっちゃって。周りの人からの感想が「機敏に動けるんだ?」だったんですよ。「え? わたしそんなに鈍そうかなぁ」って。演じるキャラがおっとりが多めっていうのもあるんですけど、特にファンの皆さんが心配してくれて。「後藤さんはあのスピードについていけるのか?」って。私はスプリンターだったし! 今だってスピード狂だし! バイク乗ってるし!

――スーパーフォアが相棒ですもんね。

後藤　はい。「うちの相棒の方が速いぜ!」って、どんなだ?(笑)。楽しかった思い出しかないですね。最後みんなで歌った「OUTRIDE」とか。あの時に「うわぁっ、この人たちの仲間に入れて貰えた!」って感じで嬉しかった。客席も舞台も一体感があって。凄いイベントでした。

――新曲のお話を。1月24日「ひだまりスケッチ」OP「スケッチスイッチ」がリリースされますが、どう言う印象を持ちましたか?

後藤　まだレコーディングは終わってなくて。音を聴いた印象はとにかく可愛くて、明るくて、ポップな感じで。これから賑やかなアニメが始まるよ!って時のオープニングにピッタリな曲だと思います。4人(阿澄佳奈、水橋かおり、新谷良子、後藤邑子)で歌うんですけど、それぞれまた個性的なキャラクターなので。みんながどんなふうに歌ってくるのかな? と。私は十八番のおっ

Yuko Gotoh Interview

とりキャラなので（笑）。
本当におっとりキャラ多いですよね。一番最近歌われた「キーポン！キーポン！」の猫谷海羽（ぷらぷドル♪）とか。

後藤　「キーポン！キーポン！」は、タイトルもカタカナだし、「電波きたか。キーポン！キーポン！って、何かの呪文かな？」ぐらいに思ってて。本当に失礼な話なんですけれども。エイベックスさんにも言っちゃいました。「絶対電波だと思いました」って。実際聴いたらキープ・オンなんですよね（笑）。ヘコんだり落ち込んだりするときもあるよね？でも前向きにいこうよ、っていう。感動しちゃいました。「海羽、ただのおバカだと思ってたら……」って。最終回に行くにしたがって、キャラクターの悩んでること、努力する場面が出てくるんですけど、そこのBGMに使われてて。「海羽はただのおバカじゃない！」って。

――2007年に向けて、アーティスト後藤邑子としての活動方針は？

後藤　ライブがやりたいです！こんなこと言って、昔の自分が見たら信じられないんじゃないかなぁ。カラオケにすら行けなかった自分が。みんなが立って跳んでたりするような所で歌ったことまだそんなになくて……。もっとみんなと一緒に跳ねたいっていうのが野望です。

――後藤さんのパンクな部分をもっと出して頂きたいなと

後藤　はい、どんどん出していきます！実は、ラジオの公開録音でも1曲「シャッフル」のキャラソンを歌ったんですよ。で、みんなに言われたのが、萌えソンで「たったひとりのオンリーワン♪」っていう可愛らしいコールが入る曲だったのに、私ノリすぎて凄いドスがきいてたらしいんです。「たったひとりのオンリーワンッ！！」で、コブシ握ってたよって（笑）。ファンのみんなもヘッドバンキングとかし始めて。萌えソンなのに（笑）。ライヴ、来年はもっとやりたいですね。

茅原実里
Minori Chihara
Interview
文・聞き手／冨田明宏

―今日は、アーティストとして、シンガーとして、音楽とどう向き合ってきたのかと言う話をお聞きします。早速ですが、今年の4月まで秋葉原で、ギターの弾き語りでストリートライブをやってましたよね。

茅原　やってました。ギターは高校時代に買ったもので。実は尾崎豊さんのように弾き語りがしたいと思ったのがきっかけでギターを買ったんです。お父さんもフォークギターで色々な曲を作って歌ってくれていたので、ギターはすごく身近な楽器なんですね。それで私も弾けるようになりたいなと思っていたんです。尾崎さんを知ってさらにその気持ちが強くなって、それで高校生の時にギターを買ったんですけど、独学だと難しいものでなかなか上達しなくて。コードを押さえる指まで載っている簡単な本が売っているので、そういうのを買って練習していたんですが、1人でギターを勉強するのは大変だなぁって。そしたらそのうちに段々と、置物っぽく……。

―埃を被っていた？（笑）

茅原　そう（笑）。部屋の片隅にちょこんと置いてある感じだったんですけど、デビューして、声優のお仕事以外にも何かもっと、茅原実里を表現できるものが欲しいと。何をしよう？って事務所の方と話してたら、昔ギターをやりかけたってこともあるし、昔のフォークソングとかすごく好きだったので、じゃあギターをやってみよう！って。ちゃんと先生に習うようになって弾けるようになると、自然と曲も作るようになって。趣味みたいなものなので、時間ができた時に曲を作ることが多いんです。コード進行から作曲したり、テープレコーダーに自分の歌を吹き込んで、後からコードに変換したり。段々と曲が貯まってくると、みんなに聴いてもらいたいな、と思うようになって、「それじゃあ、路上ライブをやろうか」と。もう本当におじいちゃんとかおばあちゃんとか、たまたま通りすがった高校生とか、中学生とか、足を止めて聴いてくれるのが、純粋に嬉しかったですね。

―普段聴く音楽もフォーク系？

茅原　幅広いです。今凄いはまっているのはACIDMANさんで。「プリズムの夜」という曲を有線で耳にして、すごく良い曲だなと思ってCD屋に駆け込んで。でも好きなアーティストさんは本当に一杯いるんですよ。中島みゆきさんも好きだし、小田和正さんとかも好きだし……。

―歌声やメロディを重視した楽曲が多そうですね。

茅原　うん、確かにそうかもしれませんね。

―自作の曲も、かなりたまってきてますよね？　CDにしてリリースしたいな、って気持ちは？

茅原　全然！　そこまでのレベルに到達してないので。ライブで皆と歌えたらいいなという気持ちから生れる曲とかもあったりしますけど。11月にあったライブ（LOVE LIVE 2006 ~Minori Chihara Birthday~）で、（自作の）定番曲「La－la－la☆」という曲を皆で一緒に大合唱！　うれしいですよね、一緒に歌ってもらうと。本当に一体感というか、ライブっていいなって思える瞬間ですね。私、場を盛り上げていくのが好きなんです。ライブに来ているお客さんを巻き込んで一緒に踊ってもらったり、歌ってもらったりとか、一体になる感じが凄く楽しくて。

―『Animelo Summer Live 2006-OUTRIDE-』の武道館でも、「ハレ晴レユカイ」の一体感は凄かったですよね

茅原　凄かったですねー。（本番前は）メチャメチャ緊張すると思ったんですよ。でもリハーサルで1回ステージの上に立って、どのぐらいの大きさなんだ？というのを認識したら、大分気持ちが楽になりました。時間がない中で、数少ないリハーサルを大切に練習して。今まであんなに練習したことないんですよ、何かに対して（笑）。でも、本番はそれを楽しんでぶつけるだけでしたね。ポップアップでステージに上がったら、皆がもの凄く大きな声援をくれて。気持ち良かったです！

―好きなアニソンとか、印象に残っているアニソンってありますか？

茅原　あり過ぎますね（笑）。基本的に昔のアニソンってアニメのタイトルが入ってましたよね。今のアニソンとは全然違って。今はどっちかと言ったら、アニメソングという感じよりも、普通のアーティストが歌っている印象が強いですよね。小さい頃、一番初めに歌う歌ってアニメソングだと思うし。『ゲゲゲの鬼太郎』とか、凄い好きでしたね。

茅原さんとか僕の世代だと、吉幾三さんバージョンですよね

茅原　そうですそうです（笑）。『クリィミーマミ』も好きだったし。『らんま（1／2）』とか、『きまぐれオレンジ☆ロード』とか、『ママレード・ボーイ』も。『タッチ』は再放送だったんですかね？　あと『鉄拳チンミ』とか、『（不思議の海の）ナディア』とか。『第三野球部』も好きでしたよ。色々なところで音楽からは影響を受けていますけれども、今アニメソングを歌うことがすごく楽しいのは、小さいころのアニメから教わった気がしますね。

今まで茅原さんが歌手として歌われてきた曲って、1stアルバムの「HEROINE」から、実にバラエティー豊かですよね。歌うことに対して、意識的に気を付けていることはありますか？

茅原　小さいころから歌うことが好きだったので、歌に対してあまり構えたりすることがなく、どの曲に対しても自然に受け入れて、受け止めて、そのまま歌うという感じですね。自分から生まれるままに。あとは現場でディレクターさんとやり取りをして……でも、このジャンルだからこう歌おうとか、そういうのは余り考えたことはないかもしれない。聴く人によるとジャンルによって歌い方が違うよねって、言う人もいたりして。あ、そうなんだって、言われて気付くことがありますね。

06年は「レモンエンジェルプロジェクト」から始まって、「涼宮ハルヒの憂鬱」関連まで、たくさんのキャラソンを歌われてます

茅原　何曲歌ったんだろう？　本当にいっぱい歌いました。

キャラソンを歌うことに対して、以前と比べて意識の変化は？

茅原　そうだな……。声優としてデビューしてから2年半以上経ちましたけど、キャラクターソングというのは歌うのではなくて、演じることという感覚になりましたね。だから、茅原実里として歌うのとは全然違う難しさがあって。役を演じるというだけでも今の私にとっては、すっごーく難しいことなんですけど、さらにキャラクターで歌を歌うというのは、どれだけ難しいことかっていう。歌の中でそのキャラクターらしさというのを出していかなくちゃいけないというのは、相当苦労しましたね。（『涼宮ハルヒの憂鬱』の）長門有希の「雪、無言、窓辺にて。」とか、とにかく抑揚とかを付けずに淡々と、正確にというのを心掛けて。正しくメロディーと楽譜に沿って歌うみたいな、そういう気持ちで望みましたね。

キャラソン以外だと約2年振りのニューシングル、「純白サンクチュアリィ」が1月24日にリリースされます　茅原さんとしては待ちに待った新曲ですね

茅原　そうですね。自分の中でも、歌で自分の思いを伝えていきたいと常々思っていて、それがなかなか出来なかったから2年も開いてしまったのですけれども。そういう、歌いたい！　という強い思いが、自分でギターを弾いて作曲活動に走らせることに繋がっていたと思うんです。自分の中では、遂に！　という思いですね。心から嬉しいですし、皆さんにも凄く感謝しています。

とても幻想的なトランス・ナンバーですよね。菊田（大介）さんからこの楽曲を頂いた時の印象は？

茅原　曲を頂いたときは歌詞がまだ入っていなくて「ラララ」の状態で頂いたのですけれども、「トランスだぁ」と言うのと、「なんて壮大な曲なの！」っていう。メロディーはドラマチックで、宇宙とか、銀河を思わせるような、壮大な世界観だなって。切ないけど、でも切ないというだけじゃなくて、光がその先に見えるような……そういうイメージでした。曲が出来上がるにつれて、私

Minori Chihara Interview

にとっては等身大の曲だなっていう感情に変わっていって。自分の今まで歩んできた道とか、出会った人、スタッフ、家族、友達、ファンの皆も含めて、色々な思い出がグルグルと走馬灯のように巡ってきて。歌えることの喜びや、私にとって、歌うことがとても大切なものだったんだなって、改めて噛み締めることが出来ました。

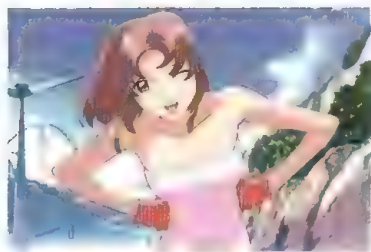
畑亜貴さんから歌詞を頂いた時の感想はどうでした？

茅原　私には少し難しいのかなぁ、って感じだったと思います。でも、ひとつひとつの言葉を自分の中で噛み砕いていったら、凄く私のことを考えて下さった歌詞なんだなというのが、本当にたくさん伝わってきて。何回も書き直したという話も聞きましたし。大好きなフレーズがあるんです。「虹が階段になる」という部分なんですが、今までもこれからも、色々な人たちの夢とか思い出とか、そういうものが重なり合って、それがひとつになって一歩一歩前に進んでいって。だから、これからも進んで行けるという思いが、歌っていると込み上げてくるんです。もちろん、私にとっては私自身を歌った曲ですけど、誰が聴いても、自分自身に置き換えて聴ける曲だと思うんです。自分の夢や、希望に向かって、でもそこに辿り着くまでには、やっぱり様々な人の思いとか、愛とか力が必要なんだっていう。自分の大切な人を思い浮かべながら聴いて貰えたら、すごく嬉しいですね。

最後に、大好きな音楽活動を、今後どのように展開していきたいと考えてらっしゃいますか？

茅原　そうですね、自作の曲もいつか出せたらいいなぁというのはありますし…歌が好きだっていうのは、今までそれだけ歌に助けられてきた、という事でもありますからね。やっと地に足を着けて音楽活動をしていけるという喜びが強いので、あまり音楽ジャンルとかにはこだわらず、茅原実里だから出来る、茅原実里ならではの楽曲というか、そういうものを皆さんに提供し続けていきたいなと。そんな感じですね。

舞台は36世紀！　超未来ＳＦロボットアニメ！

時は西暦3567年！　大きく出た！
外惑星から隔絶された月と地球を舞台に繰り広げられる、
ボーイ・ミーツ・ガール青春群像巨大ロボットスペクタクル！
平井久司デザインのキャラクターたちが宇宙に乱舞する！

西暦３５６７年——はるかな未来の地球。25世紀より頻発するようになった、時空間を歪ませる謎の〝オリンシス現象〟。人類はこのオリンシス現象からエネルギーを発生させることに成功、その覇権を太陽系全域にまで拡大させていく。しかし、30世紀頃から人類の人口は減少の一途をたどり、人類社会の中心は火星と木星の共同体に。さらに、31世紀には月面を支配する執政官が月軌道上に〝オリンシスシェル〟を発動させる。高密度のオリンシス現象は地球を外宇宙から隔絶させ、地球に住む人類を宇宙の孤児にしてしまった。さらに、地球人類は月面から送まれる謎の兵器、ガーデナーに狩りたてられていく——。

これ以上ないほど壮大なSF的設定を舞台に繰り広げられる、少年少女たちの愛憎渦巻く巨大ロボットロマン。それがこの『銀色のオリンシス』である。１００年、２００年は当たり前の超時空設定を全12話の猛スピードで描ききる力技に圧倒されつつ、これは確かに繊細な青春物語であり、激しいラブストーリーでもある。『機動戦士ガンダムSEED』で爆発的人気を得た平井久司デザインによるキャラクターたちの魅力を楽しみつつ、運命に翻弄される少年少女たち戦いの行方を最後まで見届けよう。

テア
（CV：名塚佳織）

謎の美少女。記憶喪失状態だったが、後にアーティという人工生命体であることを明かす。トキトに恋心を持つ。

トキト
（CV：入野自由）

ハンターグループのメカニック担当。ズィルバーオリンシスを操る謎の力を持つ。テアは彼のことを“コウイチ”と呼ぶが……。

ズィルバーオリンシス（ツヴァイ）

テアが召還した超未来兵器。3段変形で、最初は繭型のズィルバーオリンシス・ヌル。テアが乗り込むと人型戦闘形態のズィルバーオリンシス・アインスになり、さらにトキトが乗り込むと銀色に輝くズィルバーオリンシス・ツヴァイとなる（画像はツヴァイ）。水中から現われるのはマジンガーZ以来のお約束だ！

『銀色のオリンシス』の物語を紡ぐのは、文明が崩壊した地球で謎の兵器ガーデナーと戦う少年たちだ。

　ハンターグループのリーダー・ヨウスケはグループ内の少女・ミズのことが気になっている。一方、勝ち気なミズは、メカニック担当の幼馴染・トキトに恋愛感情を抱いていた。気弱なトキトは、お調子者で親友のジン、マスコット的な存在のアイリ、年長者で気さくなブライアンらとともにガーデナーと戦っていたが……記憶を失った謎の少女・テアと出会い、その運命は一変する。

　トキトのことを〝コウイチ〟と呼ぶテアは、湖から巨大ロボ〝ズィルバーオリンシス〟を召還する。ズィルバーオリンシスに乗り込み、ガーデナーを蹴散らしたテアとトキト。

　巨大ロボ〝シュヴァルツ〟を駆る正体不明の白称謎の美女・セレナ、そして地球を攻撃する月の執政官アルの目的とは？　親友ジンの死を乗り越えて、テアとともに月に向かうトキト。その前に立ちはだかるのは、執政官アルと、仲間だったはずのミズ！

　複雑に絡み合った人間関係は、時空間を越え、青春物語から過酷な人間ドラマへと昇華していく。そして、最終回には驚くべき真相が明らかになる——。

ゴルトオリンシス

執政官・コウイチが駆る黄金のオリンシスマシン。執政官ひとりで操縦するアインス状態でも強いが、そこにミスズの女力が加わってツヴァイとなると猛烈に強い。

執政官アル
(CV：鈴村健一)

月に君臨し、地球を攻撃する執政官。テアを愛し、ミスズを戦いに利用する。トキトと似た容貌を持つが、その正体とは……。

ミスズ
(CV：神田朱未)

ハンターグループの一員で、トキトとは幼馴染。自分よりもテアを選び、戦いに身を投じたトキトに対して激しい感情を燃やす。

シュヴァルツオリンシス

第3話にて登場するセレナの愛機。ズィルバーと違い、セレナひとりで操縦し、変形もしない（残念？）。でも、めちゃめちゃ強い！

セレナ
(CV：久川綾)

突然、トキトたちの前に現われてハンターグループに合流する。たったひとりでロボットを操る"自称謎の美女"

DVD Release
銀色のオリンシスVol.1

第1話「水色の再生」、第2話「茜色の旅立ち」を収録
初回限定版：オリジナルドラマCDなどを封入／¥8,190（税込）
通常版：ピクチャーレーベル仕様、ブックレット封入／¥6,090（税込）
1月26日、ハピネット・ピクチャーズより発売
以下、Vol.2は2月23日に発売

筆者紹介

●天野裕之／あまの・ひろゆき
69年生まれ。映画ガチンコ兄弟所属。最近は久々にTVに出たり、ピンク映画の脚本協力やったりと相変わらず節操のない毎日です。

●石黒直樹／いしぐろ・なおき
68年生まれ。『コミック電撃大王』『電撃スパロボ』コミック編集の他、黒石翁名義でライトノベルなども執筆。

●石田敦子／いしだ・あつこ
8月9日生まれ。広島県福山市出身。漫画家・アニメーター。最新単行本は『アニメがお仕事！』5巻（少年画報社）と、『わがまま戦隊ブルームハート！』1巻（幻冬舎）。

●かかしあさひろ／かかし・あさひろ
74年生まれ。秋田県大館市出身。漫画家。芸風は雑多で、最新単行本は麻雀対戦記『ヘボからの脱出』（桃園書房）。

●加野瀬未友／かのせ・みとも
70年生。オタク文化考察家。美少女ゲーム雑誌『カラフルPUREGIRL』の編集長を経て、現在フリーのライター・編集として活動中。

●灸怜太／きゅうれいた
74年生まれ。映画やゲームなどジャンルを問わず、エクストリームなモノを得意とする編集／ライター。

●更科修一郎／さらしな・しゅういちろう
75年生まれ。漫画編集者の傍ら、漫画やゲーム方面の媒体でライターとして活動、近年は現代娯楽文化の分析・評論などを幅広く手がけている。共著に『嫌オタク流』（太田出版）。

●多根清史／たね・きよし
67年生まれ。主にゲームやアニメ方面で活躍するフリーライター。著書に『宇宙世紀の政治経済学』（宝島社）など。共著の『超エロゲー』（太田出版）が発売中です！

●冨田明宏／とみた・あきひろ
80年生の音楽ライター。音専誌やライナー執筆中心に活躍。共著『ＨＲ／ＨＭ STANDARDS』（ＴＯＫＹＯ ＦＭ出版）等。

●廣田恵介／ひろた・けいすけ
67年生まれ。アニメ、オモチャ関連の取材・執筆に加え、『グレートメカニック』（双葉社）にて藤津亮太氏との対談を連載中。

●本間毅寛／ほんま・たけひろ
69年生まれ。ゲーム会社サンドロットのゲームディレクター。代表作は『リモートコントロール・ダンディ』『超操縦メカＭＧ』『地球防衛軍3』など。現在、新作を鋭意製作中。

●前田久／まえだひさし
82年生まれ。ライター。通称「前Ｑ」。主にライトノベル関連ムック、アニメ誌などで執筆。仕事の履歴はblogのaboutを参照してください。mail：mae-9@m3.dion.ne.jp
blog：http://d.hatena.ne.jp/mae-9/

●ＭＡＳＴ／ますと
71年大阪生まれ、東京在住のソフトエンジニア。今川監督のファンサイトからスタートした「超級覇王電脳頁」というサイトを運営中。

●結城昌弘／ゆうき・まさひろ
76年生まれ。結城昌弘ゆうきまさひろライター。太田出版『コンティニュー』、扶桑社『週刊SPA!』などに出没中。水面下で色々とやってます。あと、バンド始めました。

●結城らんな／ゆうき・らんな
漫画描き兼文字書きの雑業家。人様の素敵作品の間で隙間産業中。時々、女の子ちゃんたちもムラムラさせてみたり。

●和智永妙／わちなが・たえ
79年生まれ。お茶の水女子大、同大学院修了後、教員→編集→ライター。もしや同級生で一番謎多き存在か。

洋泉社MOOK

オトナアニメ　Vol.3

2007年2月11日発行

【発行人】
石井慎二

【編集人】
大矢雅則

【編集】
更科修一郎
多根清史
林信行
梅田勝司
【スーパーバイザー】
岩佐陽一

【デザイン】
Re-cre Design Works

【ＤＴＰ】
釜井多賀子
松崎憲晃
神村達也

【お手伝い】
奈良夏子

【発行所】
株式会社洋泉社
〒101-0054
千代田区神田錦町1-7　錦町一丁目ビル２Ｆ
http://www.yosensha.co.jp/
代表：03-5259-0251　編集直通：03-5259-0482
郵便振替　00190-2-142410　（株）洋泉社

【印刷・製本所】
サンケイ総合印刷株式会社

※文中一部敬称略

郵便はがき

恐縮ですが切手を貼ってお出しください

東京都千代田区神田錦町1-7

洋泉社

『オトナアニメ』編集部 行

キリトリ線

郵便番号

◎読みにくい地名・お名前には必ずふりがなをおふりください

フリガナ

ご住所

フリガナ

お名前

年齢

性別

◎ご購読雑誌名

◎ご職業

◎お買上げ書店名

◎編集部へのお言葉＆要望

『オトナアニメ』読者アンケート

このたびは『オトナアニメ　Vol.3』をお買い上げいただきましてありがとうございました。お手数ですが、簡単なアンケートにご協力ください（いずれも複数回答可）。

◎どの記事を目的に今号を購入されましたか。

◎今号を読んで面白かった記事を教えてください。

◎あなたが今見ている、あるいはお好きなアニメを教えてください。

◎今号を読んでつまらなかった記事を教えてください。

◎これから放映がはじまるアニメで注目しているものを教えてください。

◎本誌について、ご感想、ご希望をお書きください。

キリトリ線

ご協力ありがとうございました。お答えいただいた内容は、アンケート情報収集以外の目的には使用いたしません。

洋泉社MOOK
オトナアニメ Vol.3

2007年2月11日発行
発行所:(株)洋泉社
〒101-0054 千代田区神田錦町1-7 錦町一丁目ビル2F
編集/03-5259-0482 営業/03-5259-0251

Ⓗ2008年1月
雑誌69043-32
定価1000円 本体952円

ISBN978-4-86248-110-8
C9476 ¥952E